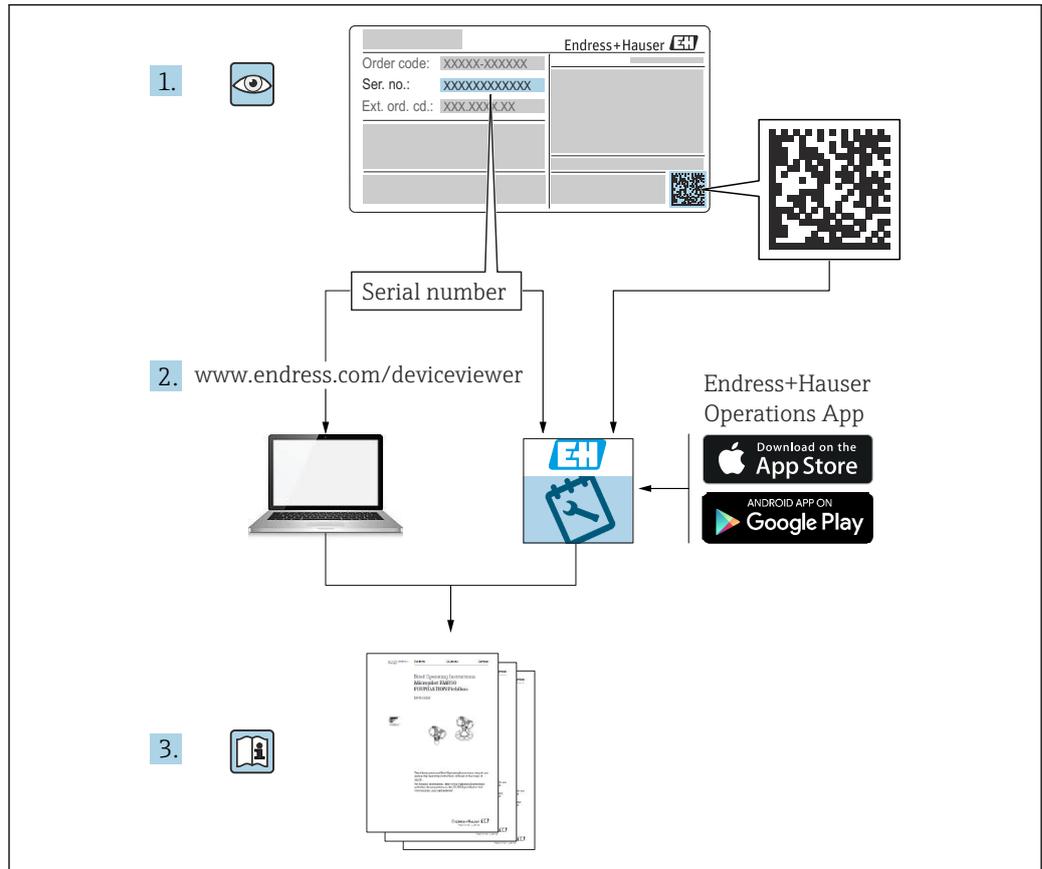


取扱説明書 Levelflex FMP53 HART

ガイドレーダーレベル計





A0023555

目次

1	本説明書について	5	7	電気接続	26
1.1	本文の目的.....	5	7.1	接続要件.....	26
1.2	シンボル.....	5	7.1.1	端子の割当て.....	26
1.2.1	安全シンボル.....	5	7.1.2	ケーブル仕様.....	30
1.2.2	電気シンボル.....	5	7.1.3	機器プラグ.....	30
1.2.3	工具シンボル.....	5	7.1.4	電源電圧.....	32
1.2.4	特定の情報や図に関するシンボル.....	6	7.1.5	過電圧保護.....	33
1.3	略語リスト.....	6	7.2	機器の接続.....	34
1.4	関連資料.....	7	7.2.1	カバーを開ける.....	34
1.5	登録商標.....	8	7.2.2	接続.....	35
2	安全上の基本注意事項	9	7.2.3	差込式スプリング端子.....	35
2.1	要員の要件.....	9	7.2.4	端子接続部のカバーを閉じる.....	36
2.2	指定用途.....	9	7.3	配線状況の確認.....	36
2.3	労働安全.....	9	8	操作オプション	37
2.4	操作上の安全性.....	10	8.1	操作オプションの概要.....	37
2.5	製品の安全性.....	10	8.1.1	現場表示器を使用した操作メニューへのアクセス.....	37
2.5.1	CE マーク.....	10	8.1.2	操作ツールによる操作メニューへのアクセス.....	38
2.5.2	EAC 適合性.....	10	8.2	操作メニューの構成と機能.....	40
3	製品説明	11	8.2.1	操作メニューの構成.....	40
3.1	製品構成.....	11	8.2.2	ユーザーの役割と関連するアクセス権.....	41
3.1.1	Levelflex FMP53.....	11	8.2.3	データアクセス-セキュリティ.....	41
3.1.2	電子部ハウジング.....	12	8.3	表示部および操作モジュール.....	45
4	受入検査および製品識別表示	13	8.3.1	表示形式.....	45
4.1	納品内容確認.....	13	8.3.2	操作部.....	47
4.2	製品識別表示.....	13	8.3.3	数字とテキストの入力.....	48
4.2.1	銘板.....	13	8.3.4	コンテキストメニューを開く.....	50
4.2.2	製造者所在地.....	13	8.3.5	表示部および操作モジュール上の反射波形表示.....	51
5	保管、輸送	14	9	システム統合	52
5.1	保管温度.....	14	9.1	デバイス記述 (DD) ファイルの概要.....	52
5.2	測定点への輸送.....	14	9.2	HART プロトコル経由の測定変数.....	52
6	設置	15	10	SmartBlue (アプリ) を使用した設定	53
6.1	取付要件.....	15	10.1	Bluetooth® ワイヤレス技術を介した操作 (オプション).....	53
6.1.1	適切な取付位置.....	15	10.1.1	SmartBlue アプリ経由の操作.....	53
6.1.2	制限された条件下での取付け.....	16	10.2	SmartBlue での反射波形表示.....	54
6.1.3	プローブの機械的負荷に関する注意事項.....	17	11	ウィザードを使用した設定	56
6.1.4	特別な設置状況.....	18	12	操作メニューを使用した設定	57
6.2	機器の取付け.....	22	12.1	設置確認および機能チェック.....	57
6.2.1	ツールリスト.....	22	12.2	操作言語の設定.....	57
6.2.2	「センサ、分離型」バージョンの取付け.....	22	12.3	レベル測定の設定.....	58
6.2.3	変換器ハウジングの回転.....	23	12.4	基準エコーカーブの記録.....	59
6.2.4	表示部の回転.....	24			
6.3	設置状況の確認.....	25			

12.5	現場表示器の設定	59	16.1.7	過電圧保護	82
12.5.1	レベル測定用の現場表示器の初期設定	59	16.1.8	HART 機器用の Bluetooth モジュール BT10	83
12.5.2	現場表示器の調整	59	16.2	通信関連のアクセサリ	84
12.6	電流出力の設定	60	16.3	サービス関連のアクセサリ	85
12.6.1	レベル測定用の電流出力の初期設定	60	16.4	システムコンポーネント	85
12.6.2	電流出力の調整	60	16.4.1	Memograph M RSG45	85
12.7	設定管理	60	16.4.2	RN42	85
12.8	不正アクセスからの設定の保護	61	17	操作メニュー	86
13	診断およびトラブルシューティング	62	17.1	操作メニューの概要 (SmartBlue)	86
13.1	一般トラブルシューティング	62	17.2	操作メニューの概要 (表示モジュール)	91
13.1.1	一般エラー	62	17.3	操作メニューの概要 (操作ツール)	98
13.1.2	エラー - SmartBlue 操作	63	17.4	「設定」メニュー	105
13.1.3	パラメータ設定エラー	63	17.4.1	「マッピング」ウィザード	112
13.2	現場表示器の診断情報	64	17.4.2	「高度な設定」サブメニュー	113
13.2.1	診断メッセージ	64	17.5	「診断」メニュー	161
13.2.2	対処法の呼び出し	66	17.5.1	「診断リスト」サブメニュー	163
13.3	操作ツール上の診断イベント	66	17.5.2	「イベントログブック」サブメニュー	164
13.4	診断リスト	68	17.5.3	「機器情報」サブメニュー	165
13.5	診断イベントのリスト	69	17.5.4	「測定値」サブメニュー	168
13.6	イベントログブック	71	17.5.5	「データのログ」サブメニュー	170
13.6.1	イベント履歴	71	17.5.6	「シミュレーション」サブメニュー	173
13.6.2	イベントログブックのフィルタ処理	71	17.5.7	「機器チェック」サブメニュー	178
13.6.3	情報イベントの概要	71	17.5.8	「Heartbeat」サブメニュー	180
13.7	ファームウェアの履歴	72	索引	181	
14	メンテナンス	74			
14.1	外部洗浄	74			
14.2	一般的な洗浄方法	74			
14.3	プローブの洗浄	74			
14.3.1	タンク内のプローブの洗浄	74			
14.3.2	タンク外のプローブの洗浄	74			
15	修理	76			
15.1	一般情報	76			
15.1.1	修理コンセプト	76			
15.1.2	防爆認定機器の修理	76			
15.1.3	電子モジュールの交換	76			
15.1.4	機器の交換	76			
15.2	スペアパーツ	77			
15.3	返却	77			
15.4	廃棄	77			
16	アクセサリ	78			
16.1	機器固有のアクセサリ	78			
16.1.1	日除けカバー	78			
16.1.2	電子部ハウジングの取付ブラケット	79			
16.1.3	溶接アダプタ	80			
16.1.4	保護カバー	80			
16.1.5	校正キット	81			
16.1.6	リモートディスプレイ FHX50	81			

1 本説明書について

1.1 本文の目的

本取扱説明書には、機器のライフサイクルの各段階（製品識別表示、納品内容確認、保管、設置、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。

1.2 シンボル

1.2.1 安全シンボル



危険

危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災を引き起こす恐れがあります。



警告

潜在的に危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災を引き起こす恐れがあります。



注意

潜在的に危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、軽傷または中程度のけがを負う恐れがあります。



注記

潜在的に有害な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、製品や周囲のものを破損する恐れがあります。

1.2.2 電気シンボル

シンボル	意味
	直流電流
	交流電流
	直流/交流電流
	接地端子 オペレータを保護するために、接地システムを使用して接地された接地端子
	保護接地 (PE) その他の接続を行う前に接地端子の接地接続が必要です。 接地端子は機器の内側と外側にあります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 内側の接地端子：保護接地と電源を接続します。 ■ 外側の接地端子：機器とプラントの接地システムを接続します。

1.2.3 工具シンボル



プラスドライバ



マイナスドライバ



Torx ドライバ



六角レンチ



スパナ

1.2.4 特定の情報や図に関するシンボル

 **使用可**

許可された手順、プロセス、動作

  **推奨**

推奨の手順、プロセス、動作

 **使用不可**

禁止された手順、プロセス、動作

 **ヒント**

追加情報を示します。



資料参照



図参照



注意すべき注記または個々のステップ

1, 2, 3

一連のステップ



操作・設定の結果



目視確認



操作ツールによる操作



書き込み保護パラメータ

1, 2, 3, ...

項目番号

A, B, C, ...

図

  **安全上の注意事項**

関連する取扱説明書に記載された安全上の注意事項に注意してください。

 **接続ケーブルの温度耐性**

接続ケーブルの温度耐性の最小値を指定します。

1.3 略語リスト

BA

資料『取扱説明書』

KA

資料『簡易取扱説明書』

TI

資料『技術仕様書』

SD

資料『個別説明書』

XA

資料『安全上の注意事項』

PN

定格圧力

MWP

最高動作圧力

MWP は銘板に記載されています。

ToF

Time of Flight (飛行伝播時間)

FieldCare

デバイスの設定からコンディションモニタリングまでカバーするプラントアセットマネジメントツール

DeviceCare

Endress+Hauser HART、PROFIBUS、FOUNDATION Fieldbus、Ethernet フィールド機器用の汎用設定ソフトウェア

DTM

デバイスタイプマネージャ

DD

HART 通信プロトコル用のデバイス記述

 ϵ_r (Dk)

比誘電率

PLC

プログラマブルロジックコントローラ (PLC)

CDI

サービスインターフェース

操作ツール

「操作ツール」という用語は、以下の操作ソフトウェアの代わりに使用されます。

- FieldCare / DeviceCare : HART 通信および PC を介した操作用
- SmartBlue アプリ : Android または iOS 搭載のスマートフォン/タブレット端末による操作用

BD

不感知距離 : BD の範囲内では信号が解析されません。

PLC

プログラマブルロジックコントローラ (PLC)

CDI

サービスインターフェース

PFS

パルス周波数ステータス (スイッチ出力)

1.4 関連資料



関連する技術資料の概要については、以下を参照してください。

- デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) : 銘板のシリアル番号を入力します。
- Endress+Hauser Operations アプリ : 銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のマトリクスコードをスキャンしてください。

ご注文の機器バージョンに応じて、以下の関連資料が用意されています。

資料タイプ	資料の目的および内容
技術仕様書 (TI)	機器の計画支援 本資料には、機器に関するすべての技術データが記載されており、本機器用に注文可能なアクセサリやその他の製品の概要が示されています。
簡易取扱説明書 (KA)	初回の測定を迅速に行うための手引き 簡易取扱説明書には、受入検査から初期調整までに必要なすべての情報が記載されています。
取扱説明書 (BA)	参考資料 取扱説明書には、機器ライフサイクルの各種段階（製品の識別、受入検査、保管、取付け、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。
機能説明書 (GP)	使用するパラメータの参考資料 この資料には、各パラメータの詳細な説明が記載されています。本説明書は、全ライフサイクルにわたって本機器を使用し、特定の設定を行う人のために用意されたものです。
安全上の注意事項 (XA)	各種認定に応じて、危険場所で電気機器を使用するための安全上の注意事項も機器に付属します。安全上の注意事項は取扱説明書の付随資料です。  機器に対応する安全上の注意事項 (XA) の情報が銘板に明記されています。
機器固有の補足資料 (SD/FY)	関連する補足資料に記載される指示を常に厳守してください。補足資料は、機器資料に付随するものです。

1.5 登録商標

HART®

FieldComm Group, Austin, Texas, USA の登録商標です。

Bluetooth®

Bluetooth® の文字商標とロゴは Bluetooth SIG, Inc. の登録商標であり、Endress+Hauser は許可を受けてこのマークを使用しています。その他の商標や商品名は、その所有者に帰属します。

Apple®

Apple、Apple ロゴ、iPhone、iPod touch は、米国その他各国で登録された Apple Inc. の商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。

Android®

Android、Google Play、Google Play ロゴは Google Inc. の登録商標です。

KALREZ®、VITON®

DuPont Performance Elastomers L.L.C., Wilmington, DE USA の登録商標です。

TEFLON®

E.I. DuPont de Nemours & Co., Wilmington, USA の登録商標です。

TRI-CLAMP®

Ladish & Co., Inc., Kenosha, USA の登録商標です。

2 安全上の基本注意事項

2.1 要員の要件

設置、設定、診断、およびメンテナンスを実施する要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 訓練を受けて、当該任務および作業に関する資格を取得した専門作業員であること。
- ▶ 施設責任者の許可を得ていること。
- ▶ 各地域/各国の法規を熟知していること。
- ▶ 作業を開始する前に、取扱説明書、補足資料、ならびに証明書（用途に応じて異なります）の説明を読み、内容を理解しておくこと。
- ▶ 指示に従い、基本条件を遵守すること。

オペレータ要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 施設責任者からその作業に必要な訓練および許可を得ていること。
- ▶ 本資料の説明に従うこと。

2.2 指定用途

アプリケーションおよび測定物

本書で説明する計測機器は、液体のレベル測定にのみ使用することを目的としたものです。ご注文の機器バージョンに応じて、本計測機器は爆発性、可燃性、毒性、酸化性の測定物も測定できます。

「技術データ」に明記されたりミット値および取扱説明書やその他の関連文書に記載された条件を遵守した場合に、計測機器を以下の測定にのみ使用できます。

- ▶ プロセス変数（測定値）：レベル
- ▶ プロセス変数（計算可能）：任意形状の容器内の体積または質量（リニアライゼーション機能によりレベルから計算）

稼働時間中、計測機器が適切な条件下にあるよう、次の点に注意してください。

- ▶ 本計測機器は、接液部材質の耐食性を十分に確保できる測定物の測定にのみ使用してください。
- ▶ 「技術データ」のりミット値に従ってください。

不適切な用途

不適切なあるいは指定用途以外での使用に起因する損傷については、製造者は責任を負いません。

不明な場合の確認：

- ▶ 特殊な液体および洗浄液に関して、Endress+Hauser では接液部材質の耐食性確認のサポートを提供いたしますが、保証や責任は負いかねます。

残存リスク

電子回路部での発熱に加えてプロセスからの伝熱により、電子回路部ハウジングとその中に格納されているアセンブリ（表示モジュール、メイン電子モジュール、I/O 電子モジュールなど）の温度が 80 °C (176 °F) まで上昇する可能性があります。運転中に、センサが測定物の温度に近い温度に達する可能性があります。

表面に接触すると火傷を負う危険があります。

- ▶ 流体温度が高い場合は、接触しないように保護対策を講じて、やけどを防止してください。

2.3 労働安全

機器で作業する場合：

- ▶ 各国の規制に従って、必要な個人用保護具を着用してください。

分離型ロッドプローブを使用すると、ロッドの個々の部品間の接合部に測定物が入り込むことがあります。接合部を緩めると、この測定物が流出する可能性があります。危険な（例：腐食性または毒性）測定物の場合、けがにつながる可能性があります。

- ▶ ロッドプローブの個々の部品間の接合部を緩めるときは、測定物に応じて適切な保護具を着用してください。

2.4 操作上の安全性

けがに注意！

- ▶ 適切な技術的条件下でエラーや故障がない場合にのみ、機器を操作してください。
- ▶ 事業者には、機器が正常に機能する状態を確保する責任があります。

機器の改造

無許可での機器の改造は、予測不可能な危険が生じる可能性があるため禁止されています。

- ▶ 変更が必要な場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

修理

操作上の安全性と信頼性を保証するために、以下の点にご注意ください。

- ▶ 機器の修理は、明確に許可された場合にのみ実施してください。
- ▶ 電気機器の修理に関する各国の規定を遵守してください。
- ▶ 弊社純正スペアパーツおよびアクセサリのみを使用してください。

危険場所

危険場所（例：防爆、圧力容器安全）で機器を使用する場合に、要員やプラントが危険にさらされないよう、以下の点にご注意ください。

- ▶ 注文した機器が危険場所仕様になっていることを銘板で確認してください。
- ▶ 本書に付随する別冊の補足資料の記載事項にご注意ください。

2.5 製品の安全性

本計測機器は、最新の安全要件に適合するように GEP（Good Engineering Practice）に従って設計され、テストされて安全に操作できる状態で工場から出荷されます。本機器は一般的な安全基準および法的要件を満たしています。

注記

湿潤環境下で機器を開けると保護等級が無効になります。

- ▶ 湿潤環境下で機器を開けると、銘板に示された保護等級の有効性が失われます。これは、機器の安全な操作を妨げる可能性もあります。

2.5.1 CE マーク

本計測システムは、適用される EU 指令の法的要件を満たしています。これについては、適用される規格とともに EU 適合宣言に明記されています。

Endress+Hauser は本製品が試験に合格したことを、CE マークを付けることにより保証いたします。

2.5.2 EAC 適合性

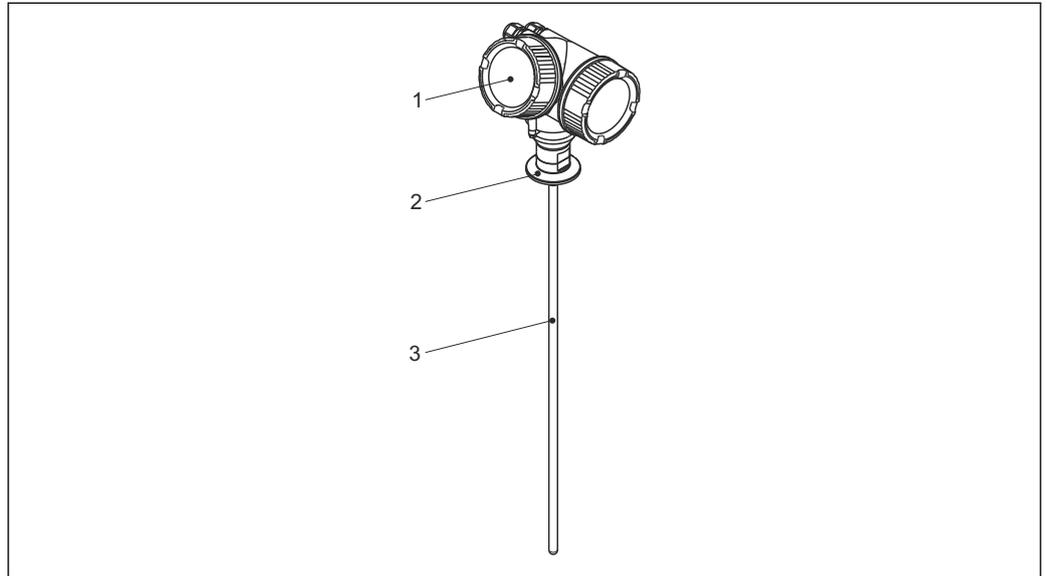
本計測システムは、適用される EAC ガイドラインの法的要件を満たしています。これらの要求事項は、適用される規格とともに EAC 適合宣言に明記されています。

Endress+Hauser は本製品が試験に合格したことを、EAC マークを付けることにより保証いたします。

3 製品説明

3.1 製品構成

3.1.1 Levelflex FMP53

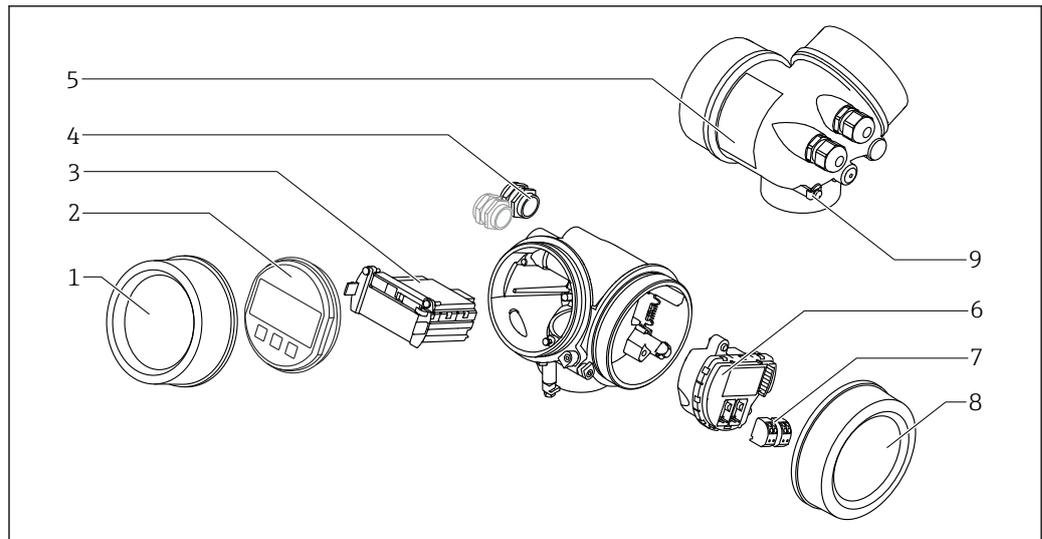


A0013421

図 1 Levelflex の構造

- 1 電子部ハウジング
- 2 プロセス接続
- 3 ロッドプローブ

3.1.2 電子部ハウジング



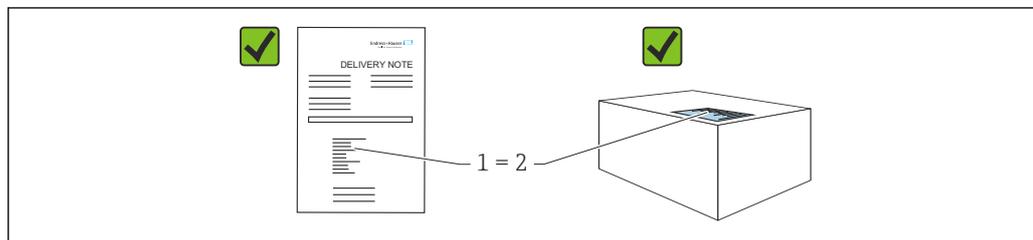
A0012422

図 2 電子回路部ハウジングの構成

- 1 表示部のカバー
- 2 表示モジュール
- 3 メイン電子モジュール
- 4 ケーブルグランド (機器のバージョンに応じて1または2)
- 5 銘板
- 6 I/O 電子モジュール
- 7 端子 (ばね荷重端子、取外可能)
- 8 端子部カバー
- 9 接地端子

4 受入検査および製品識別表示

4.1 納品内容確認



A0016870

納品内容確認に際して、以下の点をチェックしてください。

- 発送書類のオーダーコード (1) と製品ステッカーのオーダーコード (2) が一致するか？
- 納入品に損傷がないか？
- 銘板のデータがご注文の仕様および発送書類と一致しているか？
- ドキュメントはあるか？
- 必要に応じて（銘板を参照）：安全上の注意事項（XA）が提供されているか？

i 1つでも条件が満たされていない場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

4.2 製品識別表示

機器を識別するには以下の方法があります。

- 銘板の仕様
- 納品書に記載された拡張オーダーコード（機器仕様コードの明細付き）
- ▶ デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) : 銘板のシリアル番号を入力します。
 - ↳ 機器に関するすべての情報が表示されます。
- ▶ Endress+Hauser Operations アプリ : 銘板のシリアル番号を手動入力するか、銘板の2Dマトリクスコードをスキャンしてください。
 - ↳ 機器に関するすべての情報が表示されます。

4.2.1 銘板

法律で定められた記載情報および機器の関連情報は銘板に明記されています。以下に例を示します。

- 製造者識別
- オーダー番号、拡張オーダーコード、シリアル番号
- 技術データ、保護等級
- ファームウェアバージョン、ハードウェアバージョン
- 認定関連情報、安全上の注意事項（XA）参照
- データマトリクスコード（機器に関する情報）

4.2.2 製造者所在地

Endress+Hauser SE+Co. KG
 Hauptstraße 1
 79689 Maulburg, Germany
 製造場所：銘板を参照してください。

5 保管、輸送

5.1 保管温度

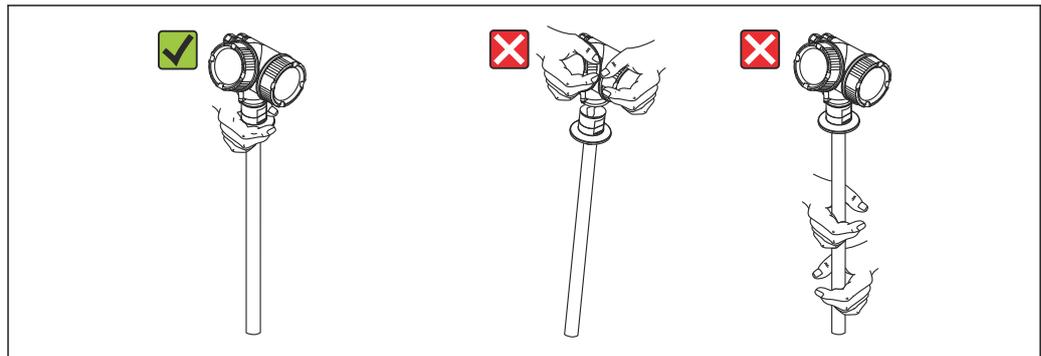
- 許容保管温度：-40～+80 °C (-40～+176 °F)
- 納入時の梱包材をご利用ください。

5.2 測定点への輸送

▲ 警告

ハウジングまたはプローブが損傷する、あるいは、折れる恐れがあります。
けがに注意！

- ▶ 計測機器を測定点に搬送する場合は、納入時の梱包材を使用するか、プロセス接続部を持ってください。
- ▶ 吊上装置（吊り帯、アイボルトなど）は必ずプロセス接続部に固定し、絶対に電子部ハウジングまたはプローブで持ち上げないでください。機器が意図せずに傾いたり、滑ったりしないよう、機器の重心に注意してください。
- ▶ 18 kg (39.6 lbs) 以上の機器については、安全上の注意事項および輸送条件に従ってください (IEC 61010)。

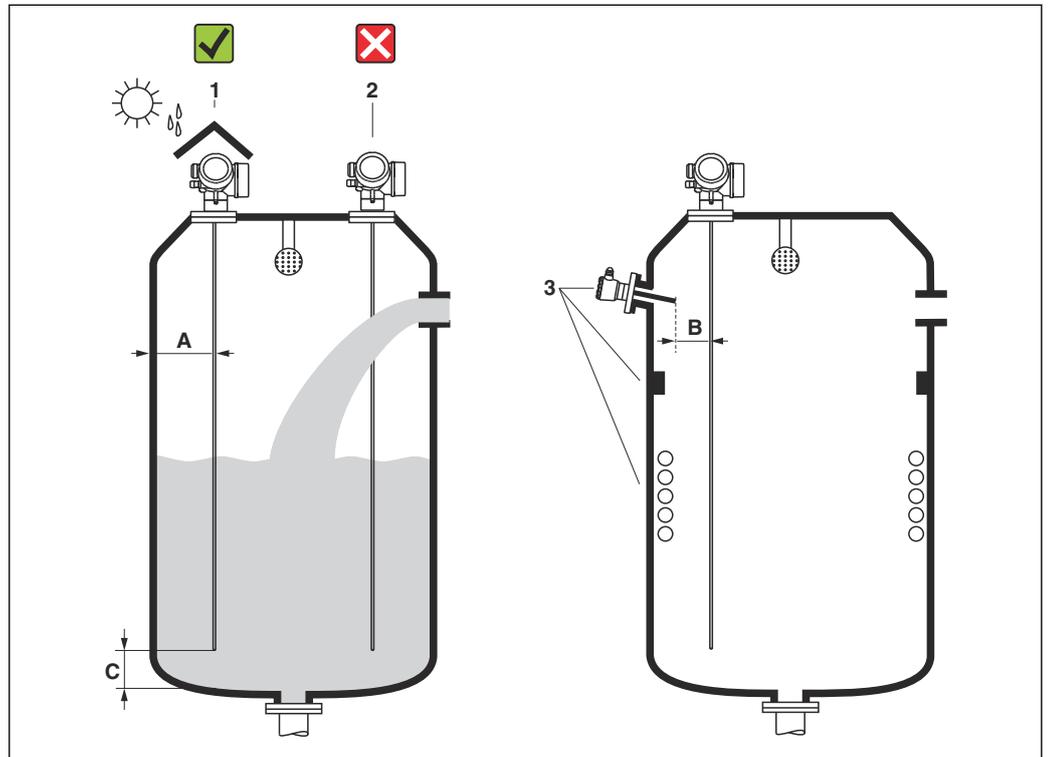


A0014267

6 設置

6.1 取付要件

6.1.1 適切な取付位置



A0014130

図 3 取付け位置

取付間隔に関する要件

- タンク壁とロッドプローブとの距離 (A) :
 - 平らな金属壁の場合 : 50 mm (2 in) 以上
 - プラスチック壁の場合 : タンク外側の金属部品から 300 mm (12 in) 以上
- ロッドプローブと内部設置物 (4) との距離 (B) : 300 mm (12 in) 以上
- 複数の Levelflex を使用する場合 :
 - センサ軸間の最小距離は 100 mm (3.94 in) です。
- プローブ終端とタンクの底からの距離 (C) : 10 mm (0.4 in) 以上

その他の取付要件

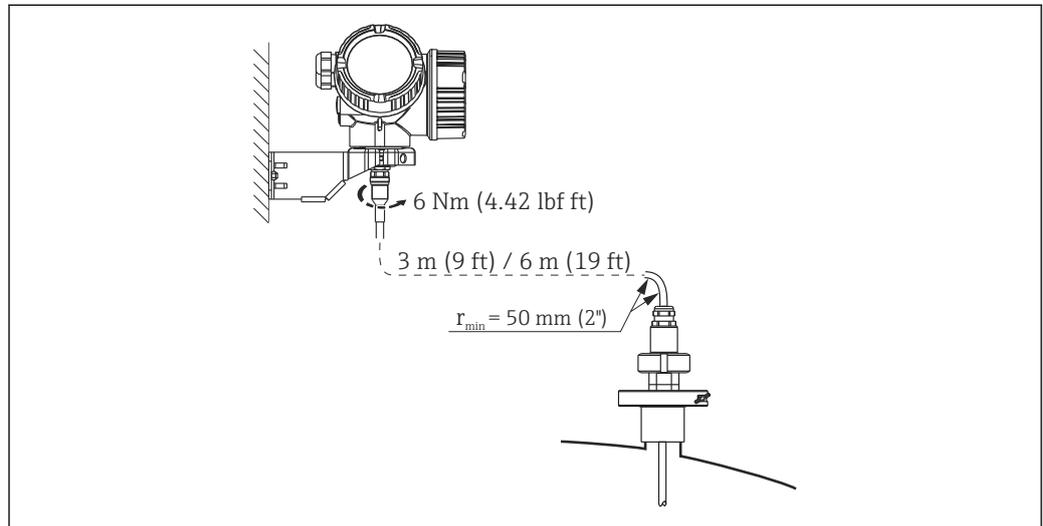
- 屋外に設置する場合は、厳しい気象条件から機器を保護するために日除けカバー (1) を使用できます。
- 投入時に幕が形成される位置 (2) にはプローブを取り付けないでください。

i ハウジングをくぼみ (コンクリート製の天井など) に取り付ける場合は、端子部/表示部カバーと壁の間に 100 mm (4 in) 以上の距離を確保してください。そうでない場合は、設置後に端子部/表示部にアクセスできなくなります。

6.1.2 制限された条件下での取付け

分離型プローブの取付け

分離型プローブの機器バージョンは、取付けスペースが制限されるアプリケーションに最適です（製品構成：プローブ型式）。この場合、電子部ハウジングはプローブとは別の位置に取り付けられます。

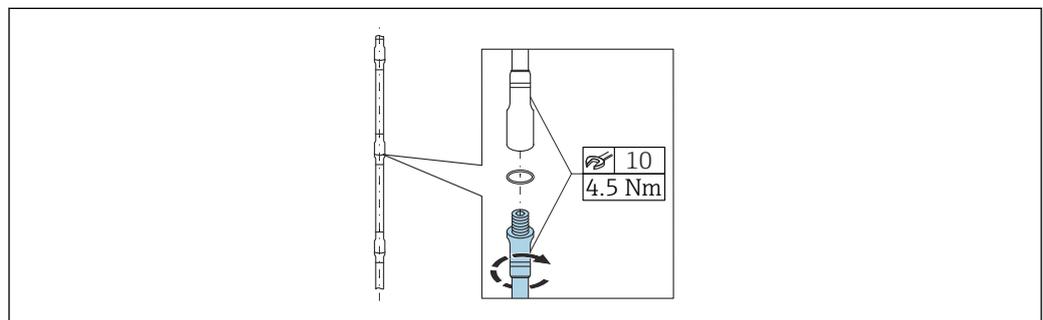


A0015109

- 接続ケーブルは、出荷時にプローブに接続されています。
 - 長さ：3 m (9 ft) または 6 m (18 ft)
 - 最小曲げ半径：50 mm (2 inch)
- このバージョンには、電子部ハウジング用の取付ブラケットが同梱されます。取付オプション：
 - 壁面取付け
 - DN32～DN50 (1¼～2 inch) の柱またはパイプに取付け

i 接続ケーブル付きのプローブと電子モジュールは相互に互換性があり、共通のシリアル番号が付いています。接続する際には、必ず、シリアル番号が同じ部品同士を接続してください。

分離型プローブ



A0014166

取付条件（天井までの距離）に制限がある場合は、分離型ロッドプローブ（ $\varnothing 8$ mm）の使用をお勧めします。

- 最大プローブ長 4 m (13.12 ft)
- 横方向からの最大許容応力 10 Nm
- 分離型プローブは以下の長さを単位として、複数を組み合わせて使用することができます。
 - 500 mm (20 in)
 - 1000 mm (40 in)
- 接続位置は、Oリングにより隙間なく密閉されます。

取付指示

- 損傷を防止するために、プラスチック表面付きの取り付けプライヤーを使用してください。
- 分離型ロッドを垂直位置に取り付けてください。
- ネジが斜めにならないように各ロッドの位置を合わせてください。

6.1.3 プローブの機械的負荷に関する注意事項

ロッドプローブの横応力（曲げ強度）

FMP53

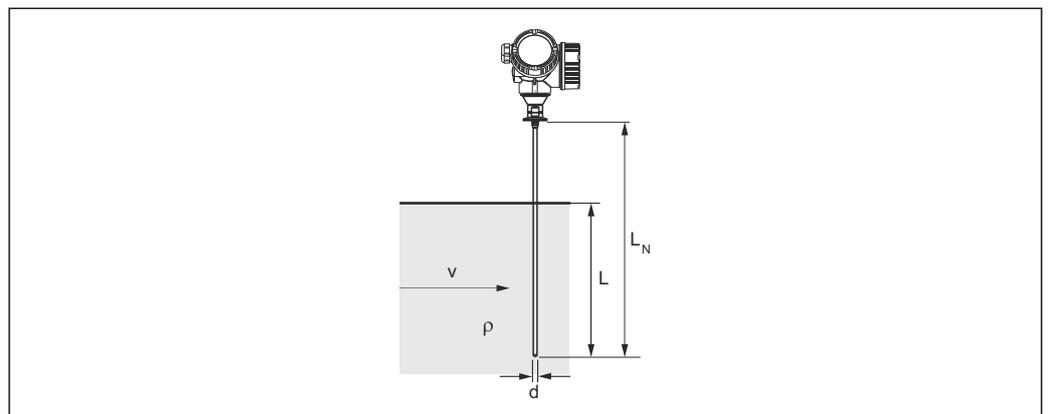
ロッド 8 mm (0.31 in)、SUS 316L 相当

曲げ強度 10 Nm

ロッド 8 mm (0.31 in)、SUS 316L 相当（分離型）

曲げ強度 10 Nm

流動条件に起因する横荷重（曲げモーメント）



A0014175

- ρ 測定物密度 [kg/m³]
 v 測定物の流速 [m/s]、ロッドプローブに対して垂直
 d ロッドプローブの直径 [m]
 L レベル [m]
 L_N プローブ長 [m]

プローブに作用する曲げモーメント M の計算式：

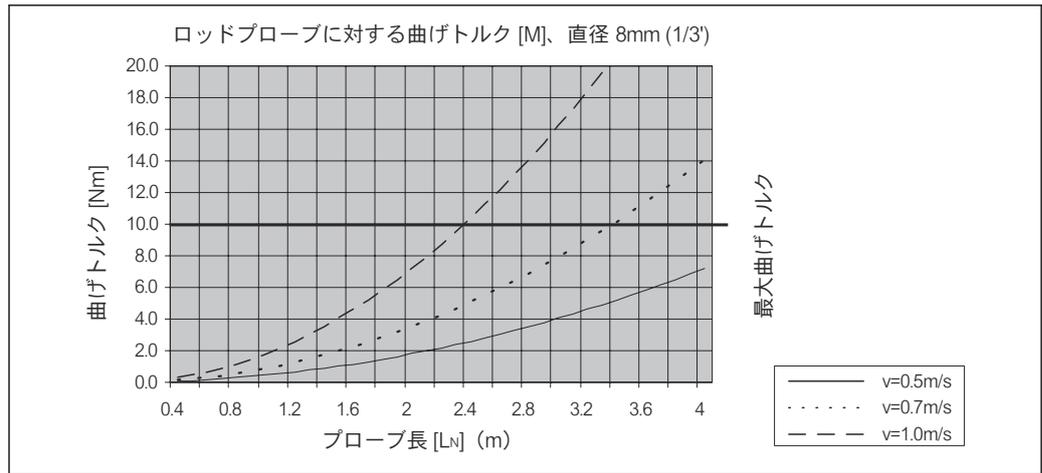
$$M = c_w \times \rho / 2 \times v^2 \times d \times L \times (L_N - 0.5 \times L)$$

各項目の説明：

c_w ：摩擦係数

計算例

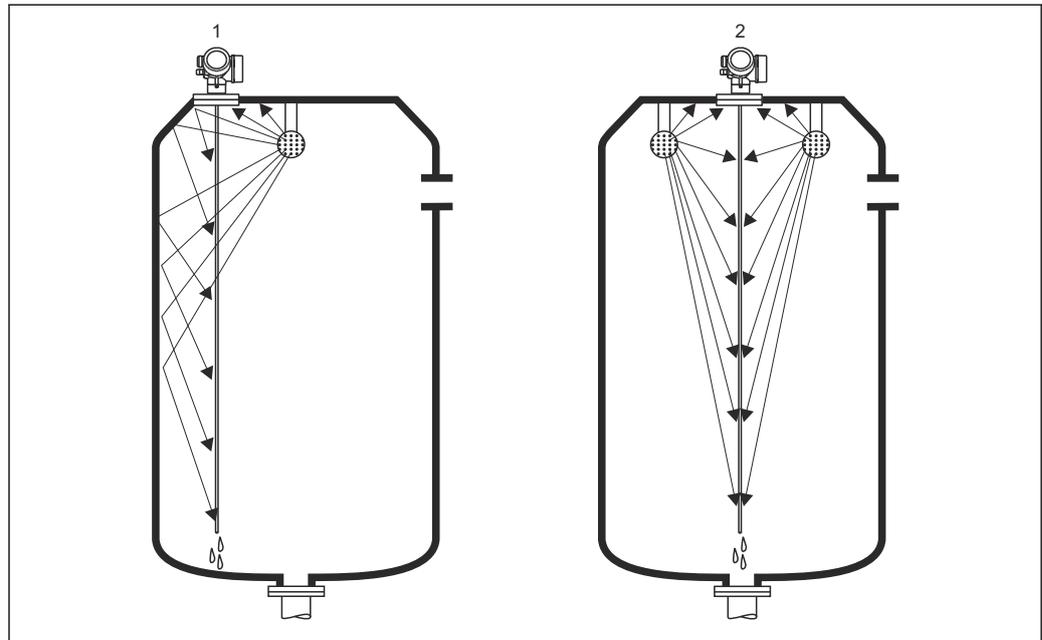
摩擦係数 c_w	0.9 (乱流 - 高レイノルズ数と仮定)
密度 ρ [kg/m ³]	1000 (例：水)
プローブ直径 [m]	0.008
$L = L_N$	(条件不良)



A0014182-JA

6.1.4 特別な設置状況

プローブ洗浄用のスプレーボール付きタンク



A0014131

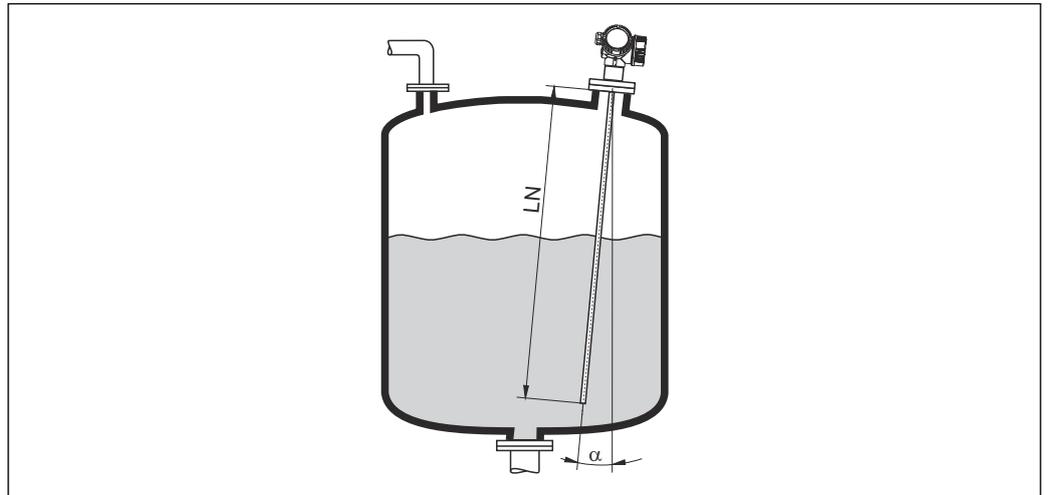
タンク内壁の近くに取付け

プローブをタンク内壁の近くに取り付けると、スプレーボールを使用する場合の洗浄効果が向上します。洗浄噴流はタンク内壁に当たってからプローブに達します。その結果、通常のスプレーボールの噴流では届かないプローブの定置洗浄も可能です。このプローブ配置では、スプレーボールは1つしか必要ありません。

タンク中央に取付け

タンク中央にプローブを設置すると、スプレーボールが2つ必要になる場合があります。このスプレーボールはプローブの左右に取り付けます。

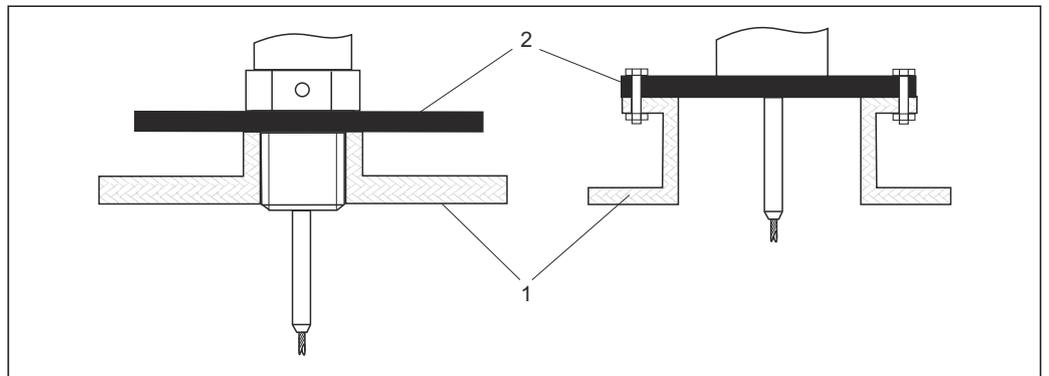
角度付きの取付け



A0014145

- 物理的な理由により、プローブはできるだけ液面と垂直に取り付けてください。
- プローブを斜めに設置する場合は、設置角度に応じてプローブ長を短くする必要があります。
 - $\alpha 5^\circ$: $LN_{max.}$ 4 m (13.1 ft)
 - $\alpha 10^\circ$: $LN_{max.}$ 2 m (6.6 ft)
 - $\alpha 30^\circ$: $LN_{max.}$ 1 m (3.3 ft)

非金属タンク



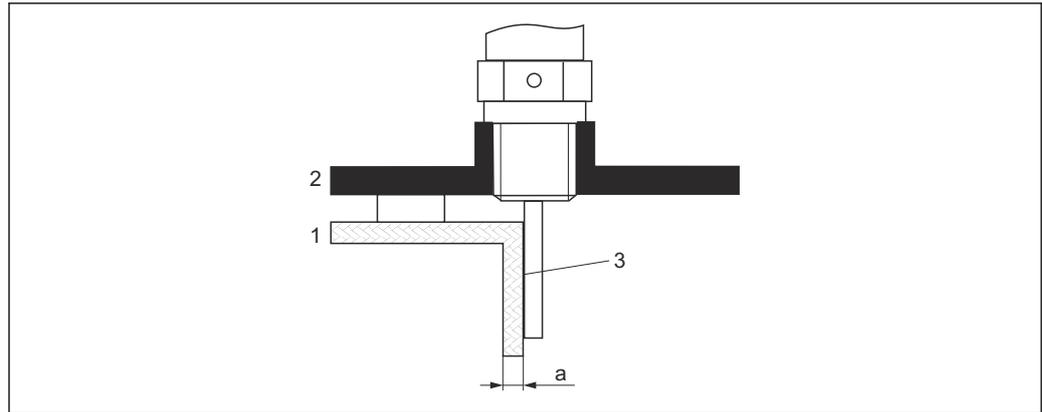
A0012527

- 1 非金属タンク
- 2 金属板または金属フランジ

非金属タンクに設置した場合に、最適な測定結果を保証するためには、プロセス接続部で、直径が 200 mm (8 in) 以上の金属板をプローブに対して直角に取り付けます。

プラスチックおよびガラスタンク：プローブを外壁に取付け

プラスチックおよびガラスタンクの場合は、特定の条件下でプローブを外壁に取り付けることも可能です。



A0014150

- 1 プラスチックまたはガラスタンク
- 2 ネジ込みスリーブ付き金属板
- 3 タンク壁とプローブの間に隙間ができないように注意してください！

要件

- 測定物の比誘電率： $\epsilon_r > 7$
- 非導電性のタンク壁
- 最大壁厚 (a) :
 - プラスチック： $< 15 \text{ mm (0.6 in)}$
 - ガラス： $< 10 \text{ mm (0.4 in)}$
- タンクに金属製の補強材が取り付けられていないこと

機器を取り付ける場合、以下の点に注意してください。

- プローブはタンク内壁に直接取り付けます（隙間ができないようにしてください）。
- 干渉から測定を保護するために、直径 200 mm (8 in) 以上のプラスチック製ハーフパイプ、または同等の保護ユニットをプローブに取り付けてください。
- タンク直径が 300 mm (12 in) 未満の場合：
タンクの反対側に、プロセス接続に導電的に接続され、タンク外周の約半分を覆う接地板を取り付けます。
- タンク直径が 300 mm (12 in) 以上の場合：
プロセス接続部で、直径が 200 mm (8 in) 以上の金属板をプローブに対して直角に取り付けます（上記を参照）。

タンク外側に設置した場合の調整

プローブをタンク壁の外側に取り付けると、信号の伝搬速度が低下します。これを補正するには、2つの方法があります。

気相補正ファクタによる補正

誘電性の壁の影響は、誘電性の気相の影響に相当するため、同じ方法で補正できます。補正係数は、実際のプローブ長 LN とタンクが空のときの測定プローブ長の割合で計算されます。

i 機器は、微分曲線でプローブ終端信号の位置を特定します。そのため、測定プローブ長の値はマッピングカーブに左右されます。さらに正確な値を得るためには、FieldCare の反射波形表示を使用して手動で測定プローブ長を特定することを推奨します。

1. パラメータエキスパート → センサ → 気相補正 → 気相補正モード
↳ 定数 GPC ファクタ オプションを選択します。
2. パラメータエキスパート → センサ → 気相補正 → 定数 GPC ファクタ
↳ 割合：「(実際のプローブ長) / (測定プローブ長)」を入力します。

校正パラメータによる補正

実際に気相を補正する必要がある場合は、外部取付けの補正用に気相補正機能を使用することはできません。この場合は、校正パラメータ（**空校正** と **満量校正**）を調整する

必要があります。そして、実際のプローブ長より大きい値を**実際のプローブ長**パラメータに入力する必要があります。3つの場合すべてで、補正係数は、容器が空のときの測定プローブ長と実際のプローブ長 LN の割合となります。

i 機器は、微分曲線でプローブ終端信号を検索します。そのため、測定プローブ長の値はマッピングカーブに左右されます。さらに正確な値を得るためには、FieldCare の反射波形表示を使用して手動で測定プローブ長を特定することを推奨します。

1. パラメータ設定 → 空校正
 - ↳ 「(測定プローブ長) / (実際のプローブ長)」係数でパラメータ値を増加させます。
2. パラメータ設定 → 満量校正
 - ↳ 「(測定プローブ長) / (実際のプローブ長)」係数でパラメータ値を増加させます。
3. パラメータ設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → プローブ長の確認
 - ↳ **手動入力** オプションを選択します。
4. パラメータ設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → 実際のプローブ長
 - ↳ 測定プローブ長を入力します。

断熱材付きタンク

i プロセス温度が高い場合は、熱の放射や伝達により電子回路部が過熱しないよう、機器をタンク断熱部 (1) に設置してください。断熱材は図の「MAX」と示した位置を超えないようにしてください。

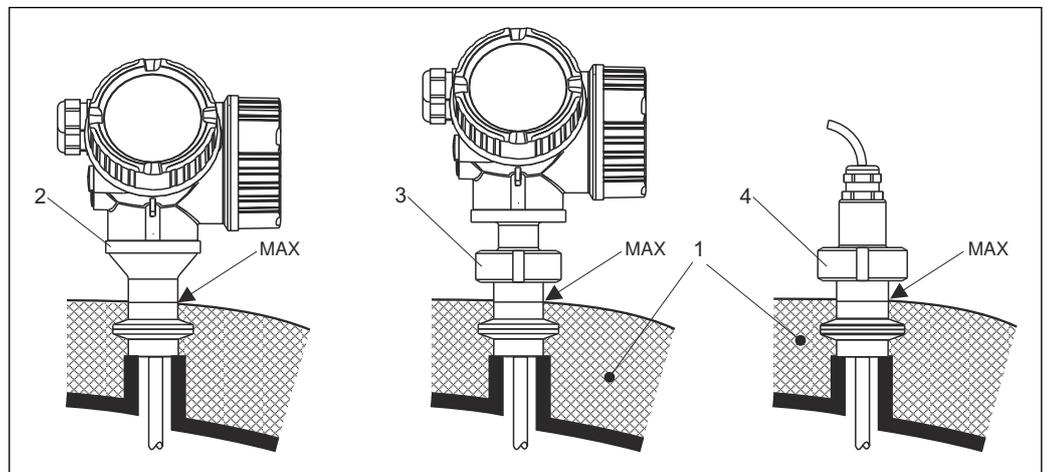
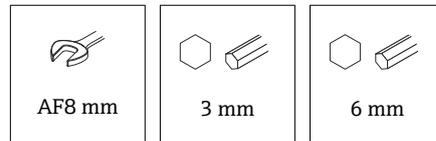


図 4 サニタリ接続

- 1 タンク断熱材
- 2 一体型機器
- 3 一体型機器、着脱可能
- 4 センサ、分離型

6.2 機器の取付け

6.2.1 ツールリスト



- ローププローブを切断する場合：のこぎりまたはボルトカッターを使用
- ロッドプローブまたはコアキシャルプローブを切断する場合：のこぎりを使用
- フランジおよびその他のプロセス接続の場合：適切な取付工具を使用

6.2.2 「センサ、分離型」バージョンの取付け

i このセクションは、「プローブ型式」=「センサ、分離型」（仕様コード 600、バージョン MB または MC）バージョンの機器にのみ適用されます。

「プローブ型式」=「分離型」バージョンには、以下が同梱されます。

- プロセス接続部および接続ケーブル（3 m (9 ft) または 6 m (18 ft)）付きプローブ
- 電子部ハウジング
- 電子部ハウジングの壁または支柱取付用の取付ブラケット

i 接続ケーブルは、出荷時にプローブに接続されています。

i 接続ケーブル付きのプローブと電子モジュールは相互に互換性があり、共通のシリアル番号が付いています。接続する際には、必ず、シリアル番号が同じ部品同士を接続してください。

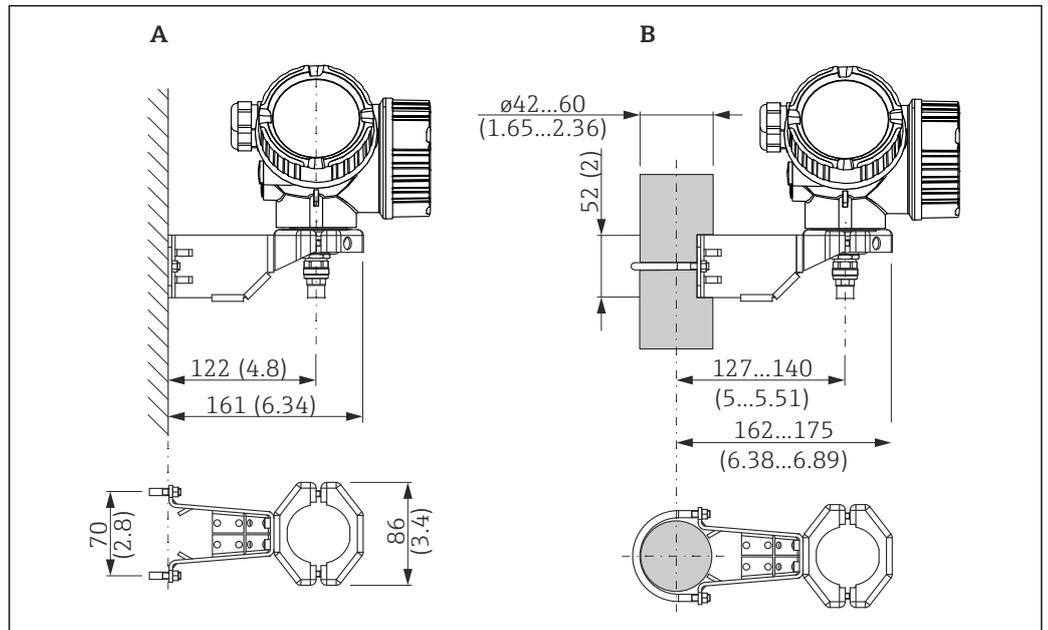
▲ 注意

機械的応力により接続ケーブルのプラグが損傷したり、緩んだりする可能性があります。

- ▶ 接続ケーブルを接続する前に、プローブと電子部ハウジングをしっかりと取り付けてください。
- ▶ 接続ケーブルは機械的応力がかからないように敷設します。最小曲げ半径：50 mm (2 in)。
- ▶ 電子モジュール側のプラグのユニオンナットのトルク：6 Nm
- ▶ センサ側のプラグのユニオンナットのトルク：20 Nm

i 強い振動が発生する場合は、電子モジュール側のプラグに緩み止め剤（例：ロックタイト 243）を使用することも可能です。

電子部ハウジングの取付け

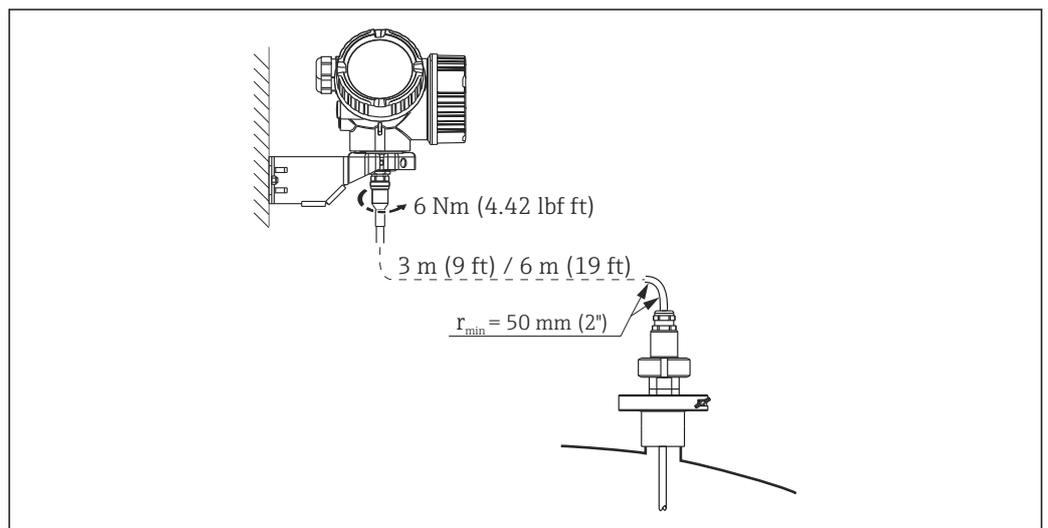
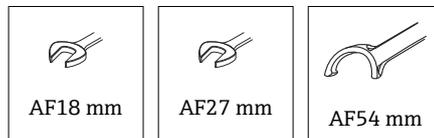


A0014793

図 5 取付ブラケットを使用した電子部ハウジングの取付け。測定単位 mm (in)

- A 壁面取付け
- B 支柱取付け

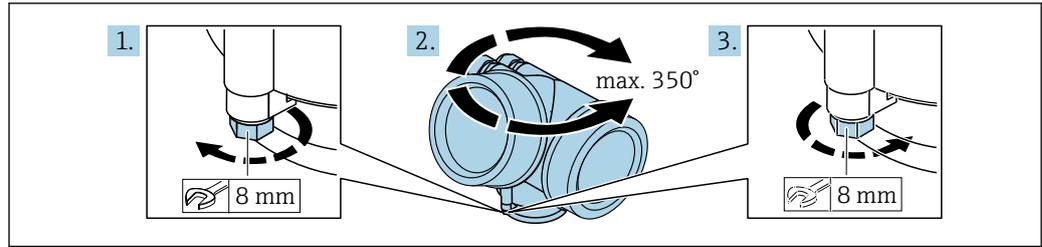
接続ケーブルの接続



A0015103

6.2.3 変換器ハウジングの回転

端子部や表示モジュールにアクセスしやすくするため、変換器ハウジングを回転させることが可能です。

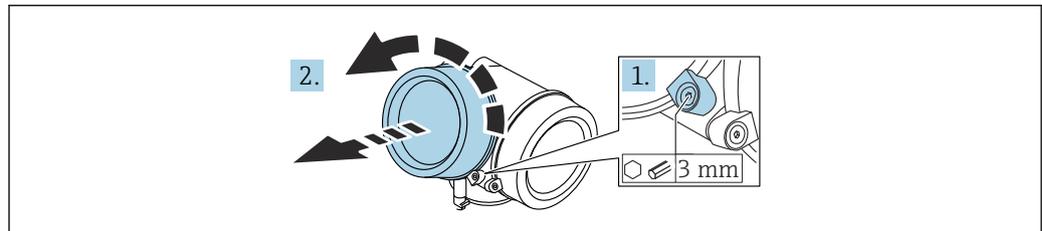


A0032242

1. オープンエンドスパナを使用して固定ネジを緩めます。
2. ハウジングを必要な方向に回転させます。
3. 固定ねじを締め付けます（プラスチックハウジングの場合：1.5 Nm、アルミニウムまたはステンレスハウジングの場合：2.5 Nm）。

6.2.4 表示部の回転

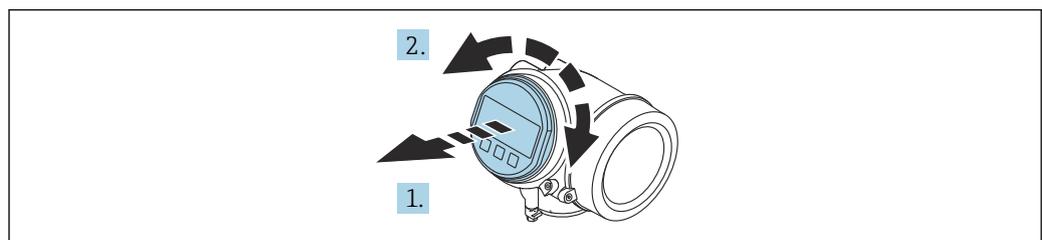
カバーを開ける



A0021430

1. 表示部カバーの固定クランプのネジを六角レンチ（3 mm）を使用して緩め、クランプを 90° 反時計回りに回します。
2. 表示部カバーを外してカバーシールを確認し、必要に応じて交換します。

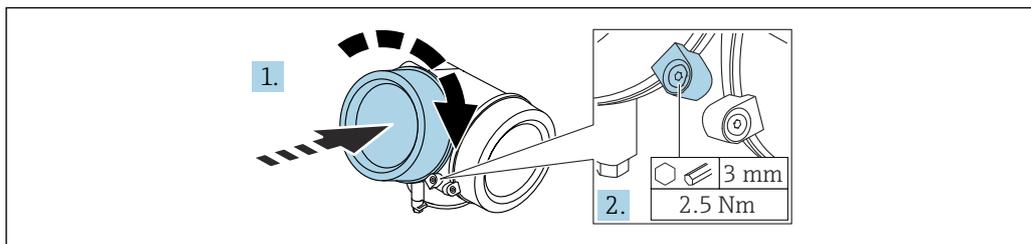
表示モジュールの回転



A0036401

1. 表示モジュールを慎重に回転させて引き抜きます。
2. 表示モジュールを必要な位置に回転させます（両方向に最大 8 × 45°）。
3. ハウジングとメイン電子モジュール間の隙間にコイルケーブルを収納し、表示モジュールを電子部コンパートメントにかみ合うまで差し込みます。

表示部のカバーを閉じる



A0021451

1. 表示部のカバーをねじ込みます。
2. 固定クランプを時計回りに 90° 回して、六角レンチ (3 mm) を使用して表示部カバーの固定クランプのネジを 2.5 Nm で締め付けます。

6.3 設置状況の確認

- 機器は損傷していないか (外観検査) ?
- 測定点の識別番号とそれに対応する銘板は正しいか (外観検査) ?
- 機器が降雨や日光から保護されているか ?
- 固定ネジとカバーロックがしっかりと締め付けられているか ?
- 機器が測定点の仕様を満たしているか ?

例 :

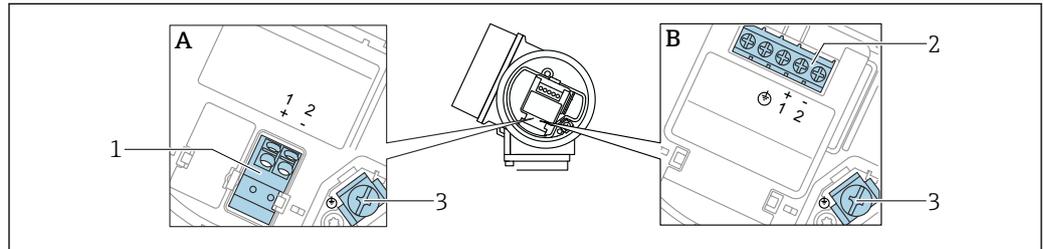
- プロセス温度
- プロセス圧力
- 周囲温度
- 測定範囲

7 電気接続

7.1 接続要件

7.1.1 端子の割当て

端子の割当て、2線式：4～20 mA HART

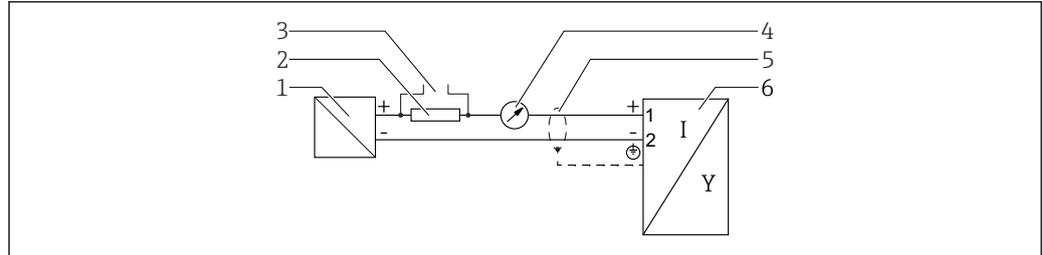


A0036498

図 6 端子の割当て、2線式：4～20 mA HART

- A 過電圧保護機能なし
- B 過電圧保護機能内蔵
- 1 4～20 mA、HART パッシブ接続：端子 1 および 2、過電圧保護機能なし
- 2 4～20 mA、HART パッシブ接続：端子 1 および 2、過電圧保護機能内蔵
- 3 ケーブルシールド線用端子

機能図：4～20 mA HART

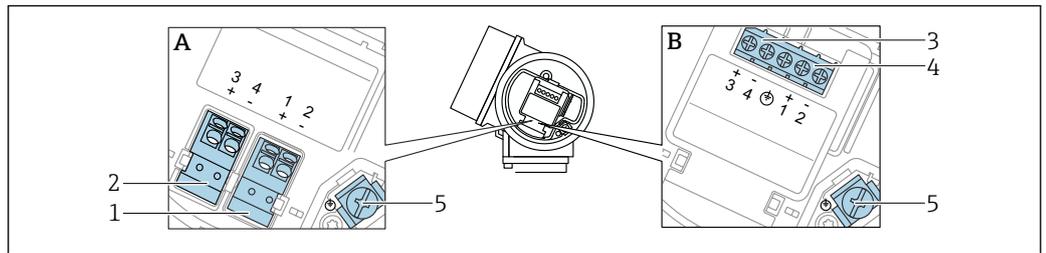


A0036499

図 7 機能図：4～20 mA HART

- 1 電源用アクティブバリア；端子電圧に注意
- 2 HART 通信用抵抗 ($\geq 250 \Omega$)；最大負荷に注意
- 3 Commubox FXA195 または FieldXpert の接続 (VIATOR Bluetooth モデム使用)
- 4 アナログ表示器；最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド；ケーブル仕様に注意
- 6 計測機器

端子の割当て、2線式：4～20 mA HART、スイッチ出力

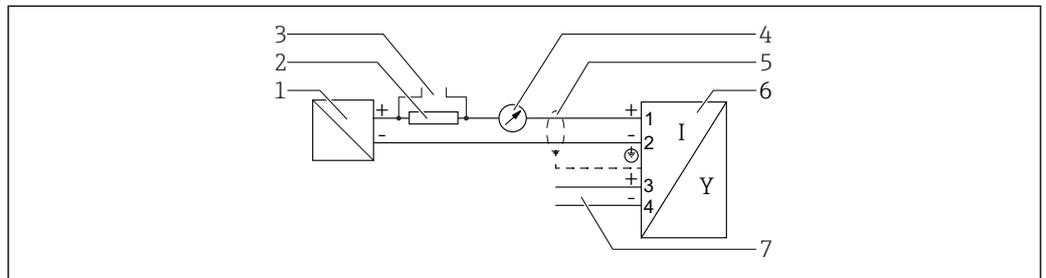


A0036500

図 8 端子の割当て、2線式：4～20 mA HART、スイッチ出力

- A 過電圧保護機能なし
- B 過電圧保護機能内蔵
- 1 4～20 mA、HART パッシブ接続：端子 1 および 2、過電圧保護機能なし
- 2 スイッチ出力（オープンコレクタ）接続：端子 3 および 4、過電圧保護機能なし
- 3 スイッチ出力（オープンコレクタ）接続：端子 3 および 4、過電圧保護機能内蔵
- 4 4～20 mA、HART パッシブ接続：端子 1 および 2、過電圧保護機能内蔵
- 5 ケーブルシールド線用端子

機能図：4～20 mA HART、スイッチ出力

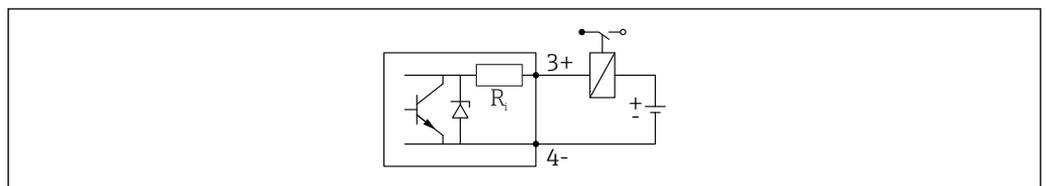


A0036501

図 9 機能図：4～20 mA HART、スイッチ出力

- 1 電源用アクティブバリア；端子電圧に注意
- 2 HART 通信用抵抗 ($\geq 250 \Omega$)；最大負荷に注意
- 3 Commubox FXA195 または FieldXpert の接続（VIATOR Bluetooth モデム使用）
- 4 アナログ表示器；最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド；ケーブル仕様に注意
- 6 計測機器
- 7 スイッチ出力（オープンコレクタ）

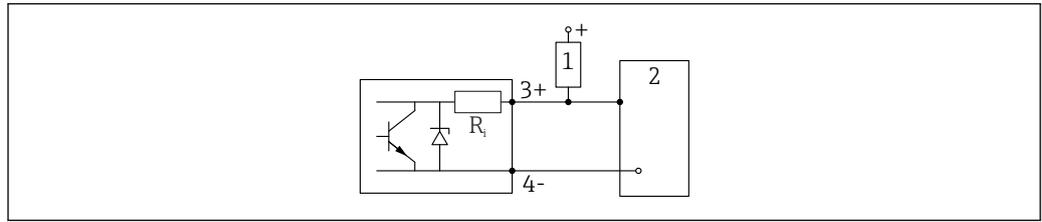
リレーの接続例



A0015909

図 10 リレーの接続例

デジタル入力の接続例

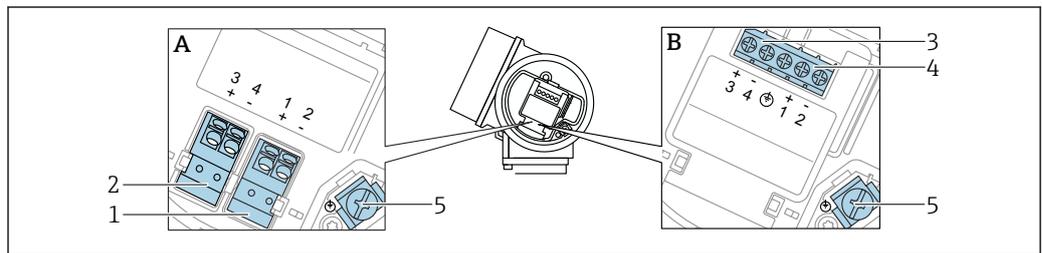


A0015910

図 11 デジタル入力の接続例

- 1 プルアップ抵抗
- 2 デジタル入力

端子の割当て、2線式：4~20 mA HART、4~20 mA

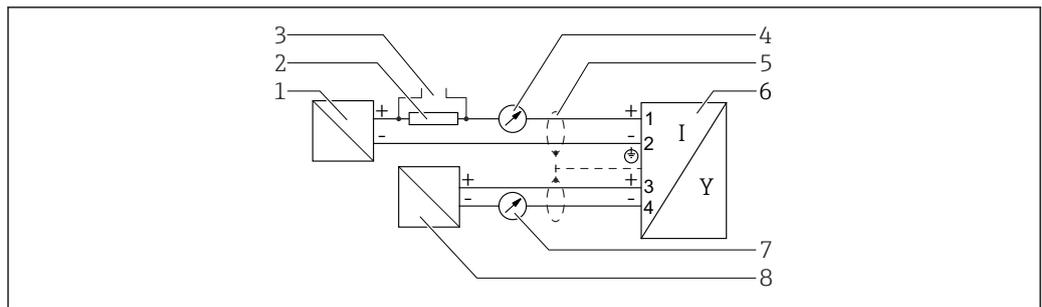


A0036500

図 12 端子の割当て、2線式：4~20 mA HART、4~20 mA

- A 過電圧保護機能なし
- B 過電圧保護機能内蔵
- 1 電流出力1、4~20 mA HART パッシブ接続：端子1および2、過電圧保護機能なし
- 2 電流出力2、4~20 mA 接続：端子3および4、過電圧保護機能なし
- 3 電流出力2、4~20 mA 接続：端子3および4、過電圧保護機能内蔵
- 4 電流出力1、4~20 mA HART パッシブ接続：端子1および2、過電圧保護機能内蔵
- 5 ケーブルシールド線用端子

機能図：4~20 mA HART + 4~20 mA アナログ

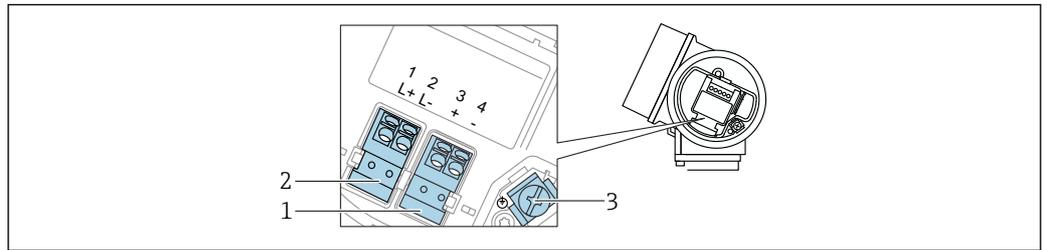


A0036502

図 13 機能図：4~20 mA HART + 4~20 mA アナログ

- 1 電源用アクティブバリア、電流出力1；端子電圧に注意
- 2 HART 通信用抵抗 ($\geq 250 \Omega$)；最大負荷に注意
- 3 Commubox FXA195 または FieldXpert の接続 (VIATOR Bluetooth モデム使用)
- 4 アナログ表示器；最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド；ケーブル仕様に注意
- 6 計測機器
- 7 アナログ表示器；最大負荷に注意
- 8 電源用アクティブバリア、電流出力2；端子電圧に注意

端子の割当て、4線式：4~20 mA HART (10.4~48 V_{DC})

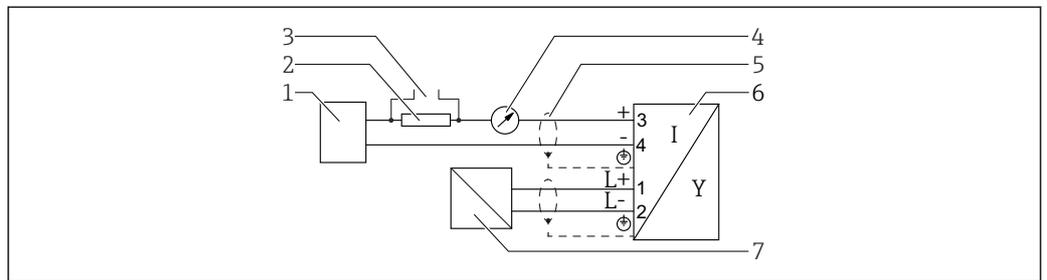


A0036516

☑ 14 端子の割当て、4線式：4~20 mA HART (10.4~48 V_{DC})

- 1 4~20 mA HART (アクティブ) 接続：端子3および4
- 2 電源接続：端子1および2
- 3 ケーブルシールド線用端子

機能図、4線式：4~20 mA HART (10.4~48 V_{DC})

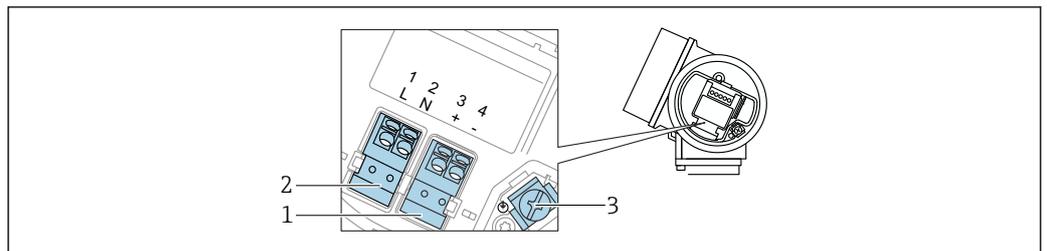


A0036526

☑ 15 機能図、4線式：4~20 mA HART (10.4~48 V_{DC})

- 1 評価ユニット (例：PLC)
- 2 HART 通信用抵抗 ($\geq 250 \Omega$)；最大負荷に注意
- 3 Commubox FXA195 または FieldXpert の接続 (VIATOR Bluetooth モデム使用)
- 4 アナログ表示器；最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド；ケーブル仕様に注意
- 6 機器
- 7 供給電圧；端子電圧を参照、ケーブル仕様を参照。

端子の割当て、4線式：4~20 mA HART (90~253 V_{AC})



A0036519

☑ 16 端子の割当て、4線式：4~20 mA HART (90~253 V_{AC})

- 1 4~20 mA HART (アクティブ) 接続：端子3および4
- 2 電源接続：端子1および2
- 3 ケーブルシールド線用端子

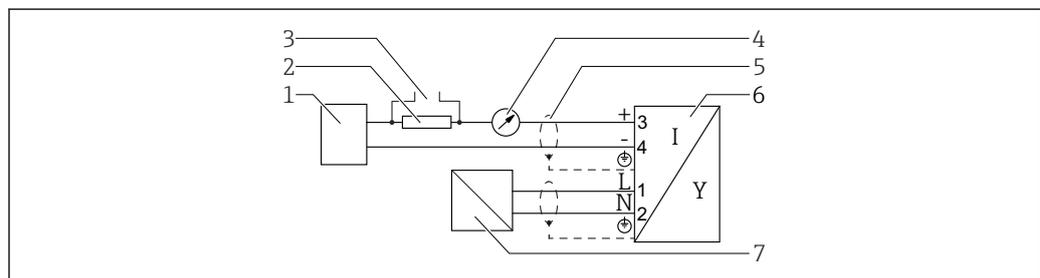
⚠ 注意**電気的安全性を確保するために：**

- ▶ 保護接地接続は外さないでください。
- ▶ 保護接地を外す前に、機器の電源電圧を遮断してください。

i 電源を接続する前に、保護接地を内部の接地端子 (3) に接続してください。必要に応じて、アース線を外部接地端子に接続してください。

i 電磁適合性 (EMC) を確保するために：電源ケーブルの保護接地導体のみを介して、機器を接地しないでください。代わりに、機能接地をプロセス接続 (フランジまたはネジ込み接続) または外部の接地端子にも接続する必要があります。

i 機器の近くにアクセスしやすい電源スイッチを設置する必要があります。スイッチには機器の開閉器であることを明示してください (61010IEC/)。

機能図、4 線式：4~20 mA HART (90~253 V_{AC})

A0036527

図 17 機能図、4 線式：4~20 mA HART (90~253 V_{AC})

- 1 評価ユニット (例：PLC)
- 2 HART 通信用抵抗 ($\geq 250 \Omega$)；最大負荷に注意
- 3 Commbus FXA195 または FieldXpert の接続 (VIATOR Bluetooth モデム使用)
- 4 アナログ表示器；最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド；ケーブル仕様に注意
- 6 機器
- 7 供給電圧；端子電圧を参照、ケーブル仕様を参照。

7.1.2 ケーブル仕様**■ 過電圧保護機能のない機器**

差込式スプリング端子、ケーブル断面積 $0.5 \sim 2.5 \text{ mm}^2$ (20~14 AWG)

■ 過電圧保護機能付き機器

ケーブル断面積 $0.2 \sim 2.5 \text{ mm}^2$ (24~14 AWG) 用のネジ端子

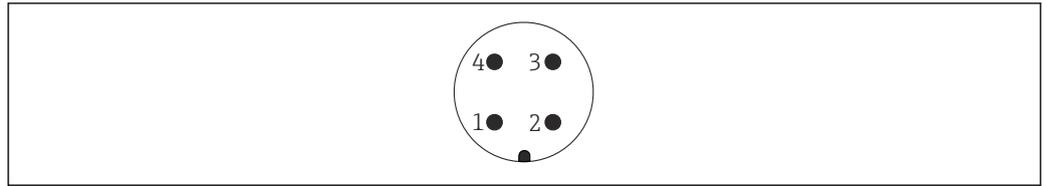
- 周囲温度 $T_U 60^\circ\text{C}$ (140°F) の場合：温度 $T_U + 20 \text{ K}$ 用のケーブルを使用してください。

HART

- アナログ信号のみを使用する場合は、標準の機器ケーブルで十分です。
- HART を使用する場合は、シールドケーブルを推奨します。プラントの接地コンセプトに従ってください。
- 4 線機器の場合は、標準の機器ケーブルで十分です。

7.1.3 機器プラグ

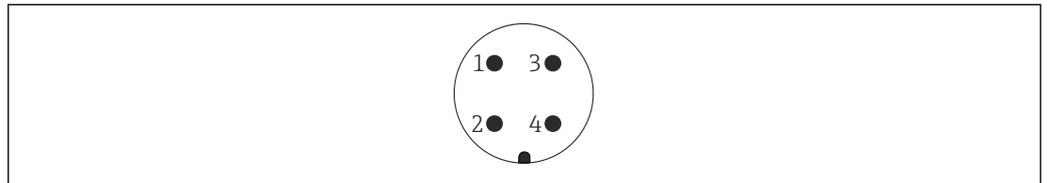
i プラグ付きの機器バージョンの場合、信号ケーブルを接続するためにハウジングを開ける必要はありません。



A0011175

図 18 M12 プラグのピン割当て

- 1 信号 +
- 2 割当てなし
- 3 信号 -
- 4 接地



A0011176

図 19 7/8" プラグのピン割当て

- 1 信号 -
- 2 信号 +
- 3 割当てなし
- 4 シールド

7.1.4 電源電圧

2線式、4~20 mA HART、パッシブ

2線式、4~20 mA HART¹⁾

「認証」 ²⁾	機器の端子電圧 U	電源ユニットの供給電圧 U ₀ に応じた最大負荷 R
<ul style="list-style-type: none"> ■ 非危険場所 ■ Ex nA ■ Ex ic ■ CSA GP 	11.5~35 V ^{3) 4)}	
Ex ia / IS	11.5~30 V ⁴⁾	
<ul style="list-style-type: none"> ■ Ex d / XP ■ Ex ic[ia] ■ Ex tD / DIP 	13.5~30 V ^{4) 5)}	

- 1) 製品構成の仕様コード 020 : オプション A
- 2) 製品構成の仕様コード 010
- 3) 周囲温度が $T_a \leq -30^\circ\text{C}$ の場合、最小エラー電流 (3.6 mA) で機器を始動させるには、端子電圧 $U \geq 14\text{ V}$ が必要になります。周囲温度が $T_a > 60^\circ\text{C}$ の場合、最小エラー電流 (3.6 mA) で機器を始動させるには、端子電圧 $U \geq 12\text{ V}$ が必要になります。スタートアップ電流を設定できません。機器を固定電流 $I \geq 4.5\text{ mA}$ (HART Multidrop モード) で作動させる場合、全周囲温度範囲において電圧 $U \geq 11.5\text{ V}$ で十分です。
- 4) Bluetooth モジュールを使用する場合は、最小供給電圧が 2 V 上昇します。
- 5) 周囲温度が $T_a \leq -30^\circ\text{C}$ の場合、最小エラー電流 (3.6 mA) で機器を始動させるには、端子電圧 $U \geq 16\text{ V}$ が必要になります。

2線式、4~20 mA HART、スイッチ出力¹⁾

「認証」 ²⁾	機器の端子電圧 U	電源ユニットの供給電圧 U ₀ に応じた最大負荷 R
<ul style="list-style-type: none"> ■ 非危険場所 ■ Ex nA ■ Ex nA(ia) ■ Ex ic ■ Ex ic[ia] ■ Ex d[ia] / XP ■ Ex ta / DIP ■ CSA GP 	13.5~35 V ^{3) 4)}	
<ul style="list-style-type: none"> ■ Ex ia / IS ■ Ex ia + Ex d[ia] / IS + XP 	13.5~30 V ^{3) 4)}	

- 1) 製品構成の仕様コード 020 : オプション B
- 2) 製品構成の仕様コード 010
- 3) 周囲温度が $T_a \leq -30^\circ\text{C}$ の場合、最小エラー電流 (3.6 mA) で機器を始動させるには、端子電圧 $U \geq 16\text{ V}$ が必要になります。
- 4) Bluetooth モジュールを使用する場合は、最小供給電圧が 2 V 上昇します。

2 線式、4~20 mA HART、4~20mA¹⁾

「認証」 ²⁾	機器の端子電圧 U	電源ユニットの供給電圧 U ₀ に応じた最大負荷 R
すべて	チャンネル 1 : 13.5~30 V ^{3) 4) 5)}	
	チャンネル 2 : 12~30 V	

- 1) 製品構成の仕様コード 020 : オプション C
- 2) 製品構成の仕様コード 010
- 3) 周囲温度が T_a ≤ -30 °C の場合、最小エラー電流 (3.6 mA) で機器を始動させるには、端子電圧 U ≥ 16 V が必要になります。
- 4) 周囲温度が T_a ≤ -40 °C の場合、最大端子電圧は U ≤ 28 V に制限する必要があります。
- 5) Bluetooth モジュールを使用する場合、最小電源電圧は 2 V 増加します。

逆極性保護機能内蔵	あり
f = 0~100 Hz 時の許容残留リップル	U _{SS} < 1 V
f = 100~10000 Hz 時の許容残留リップル	U _{SS} < 10 mV

4 線式、4~20 mA HART、アクティブ

「電源 ; 出力」 ¹⁾	端子電圧 U	最大負荷 R _{max}
K : 4 線式、AC 90~253 V、4~20 mA HART	90~253 V _{AC} (50~60 Hz)、過電圧カテゴリー II	500 Ω
L : 4 線式、DC 10.4~48 V、4~20 mA HART	10.4~48 V _{DC}	

- 1) 製品構成の仕様コード 020

7.1.5 過電圧保護

DIN EN 60079-14 の試験基準 60060-1 (10 kA、パルス 8₂₀ μs) に準拠した過電圧保護を必要とする可燃性液体のレベル測定に本機器を使用する場合、過電圧保護モジュールを使用してください。

内蔵の過電圧保護モジュール

過電圧保護モジュールは、2 線式 HART 機器、PROFIBUS PA、および FOUNDATION フィールドバスで使用できます。

製品構成：仕様コード 610「取付アクセサリ」、オプション NA「過電圧保護」

チャンネルあたりの抵抗	最大 $2 \times 0.5 \Omega$
DC 放電開始電圧	400~700 V
トリップサージ電圧	< 800 V
1 MHz の静電容量	< 1.5 pF
公称放電電流 (8/20 μ s)	10 kA

外部の過電圧保護モジュール

Endress+Hauser の HAW562 や HAW569 などは、外部過電圧保護に最適な製品です。

 詳細については、以下の関連資料を参照してください。

- HAW562 : TI01012K
- HAW569 : TI01013K

7.2 機器の接続

警告

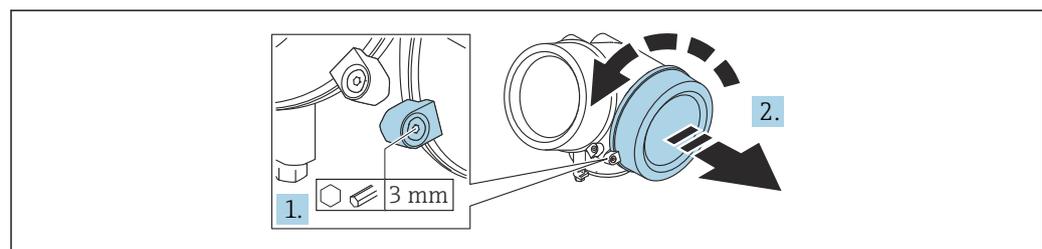
爆発の危険性

- ▶ 適用される国内規格を遵守してください。
- ▶ 安全上の注意事項 (XA) の仕様に従ってください。
- ▶ 指定のケーブルグランド以外使用しないでください。
- ▶ 電源が銘板に示されている情報と一致していることを確認してください。
- ▶ 電源のスイッチを切ってから機器を接続します。
- ▶ 電源を投入する前に、アース線を外部接地端子に接続してください。

必要な工具/アクセサリ：

- カバーロック付きの機器の場合：六角レンチ AF3
- 電線ストリッパー
- より線ケーブルを使用する場合：1つの棒端子ですべての電線接続に対応

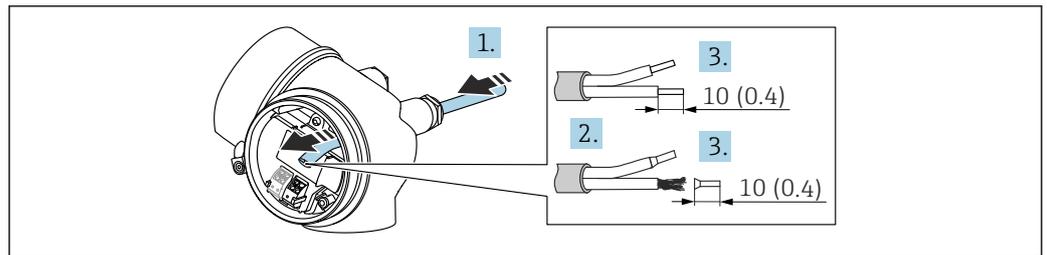
7.2.1 カバーを開ける



A0021490

1. 端子部蓋の固定クランプのネジを六角レンチ (3 mm) を使用して緩め、クランプを 90° 反時計回りに回します。
2. 端子部蓋を外してカバーシールを確認し、必要に応じて交換します。

7.2.2 接続

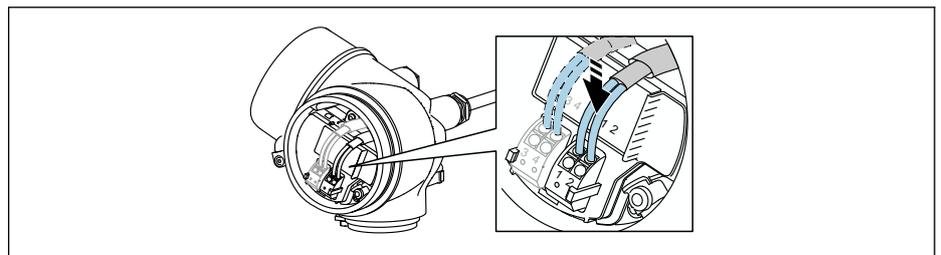


A0036418

図 20 単位 : mm (in)

1. 電線口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線口のシールリングは外さないでください。
2. ケーブルシースを取り除きます。
3. ケーブル終端の被覆を 10 mm (0.4 in) 剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子も取り付けます。
4. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
5. 端子の割当てに従ってケーブルを接続します。

↳

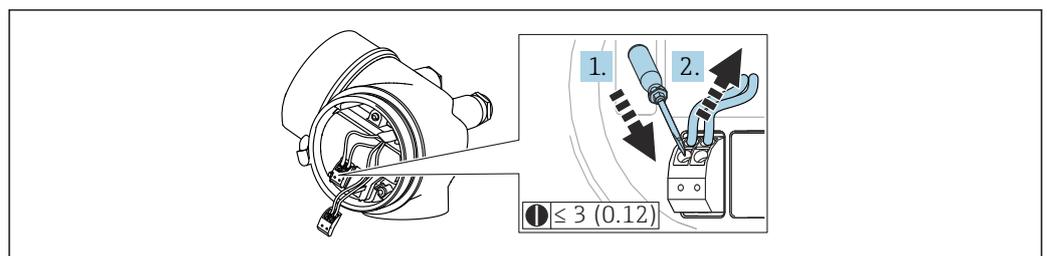


A0034682

6. シールドケーブルを使用する場合：ケーブルシールドを接地端子に接続します。

7.2.3 差込式スプリング端子

過電圧保護機能を備えていない機器の電気接続は、差込式スプリング端子を使用して行います。棒端子付きの剛性導体およびフレキシブル導体は、レバーを使用せずに直接端子に挿入することが可能であり、自動的に接点が形成されます。



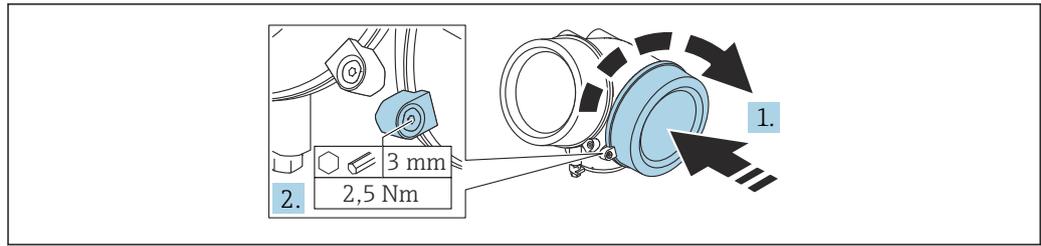
A0013661

図 21 単位 : mm (in)

ケーブルを再び端子から外す場合：

1. 3 mm (0.12 in) 以下のマイナスドライバを使用して、2つの端子孔間のスロットを押し下げます。
2. これと同時に、端子からケーブル終端を引き抜きます。

7.2.4 端子接続部のカバーを閉じる



A0021491

1. 端子接続部のカバーをねじ込みます。
2. 固定クランプを時計回りに 90° 回して、六角レンチ (3 mm) を使用して端子部蓋の固定クランプのネジを 2.5 Nm で締め付けます。

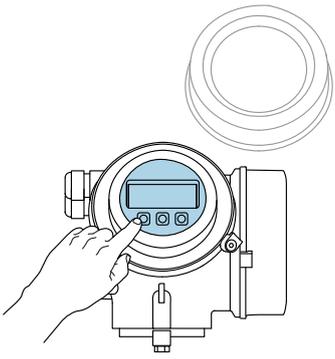
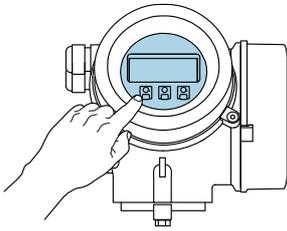
7.3 配線状況の確認

- 機器またはケーブルは損傷していないか？ (外観検査)
- 使用されるケーブルの仕様は正しいか？
- 取り付けられたケーブルに適切なストレインリリーフがあるか？
- すべてのケーブルグラウンドが取り付けられ、しっかりと固定され、密閉されているか？
- 供給電圧が銘板に示されている仕様と一致しているか？
- 端子割当は正しいか？
- 必要に応じて、保護接地接続が確立されているか？
- 電圧が供給されている場合、機器の運転準備が整っているか、表示モジュールに値が表示されているか？
- ハウジングカバーはすべて取り付けられ、固定されているか？
- 固定クランプはしっかりと締め付けられているか？

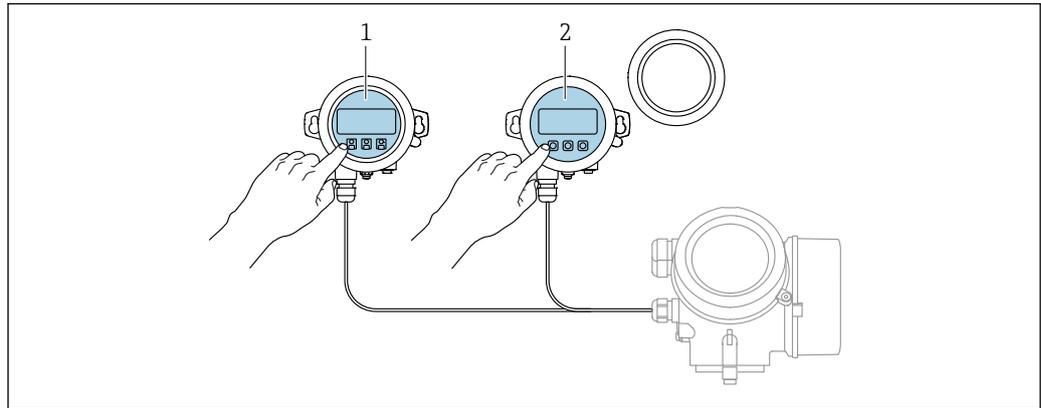
8 操作オプション

8.1 操作オプションの概要

8.1.1 現場表示器を使用した操作メニューへのアクセス

操作部	プッシュボタン	タッチコントロール
「ディスプレイ;操作」のオーダーコード	オプション C 「SD02」	オプション E 「SD03」
	 <small>A0036312</small>	 <small>A0036313</small>
表示部	4行表示	4行表示 白色バックライト; 機器エラー発生時は赤に変化
	測定変数およびステータス変数の表示形式は個別に設定可能	
表示部の許容周囲温度: -20~+70 °C (-4~+158 °F) 温度が許容温度範囲外の場合、表示部の視認性が悪化する可能性があります。		
操作部	3つのプッシュボタン (⊕、⊖、⊞) による現場操作 各種危険場所でも操作部にアクセス可能	タッチコントロール、3つの光学式キー (⊕、⊖、⊞) による外部操作
追加機能	データバックアップ機能 機器設定を表示モジュールに保存可能	
	データ比較機能 表示モジュールに保存された機器設定と現在の機器設定とを比較できます。	
	データ転送機能 表示モジュールを使用して変換器設定を別の機器に転送できます。	

リモート表示部と操作モジュール FHX50 による操作



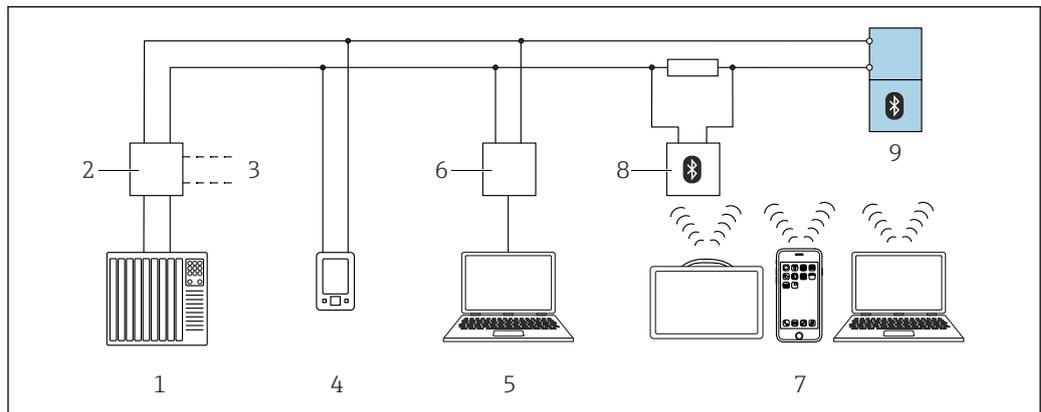
A0036314

図 22 FHX50 操作オプション

- 1 表示部および操作モジュール SD03（光学式キー）、カバーガラスの上から操作できます。
- 2 表示部および操作モジュール SD02（押しボタン）、カバーは取り外してください。

8.1.2 操作ツールによる操作メニューへのアクセス

HART プロトコル経由

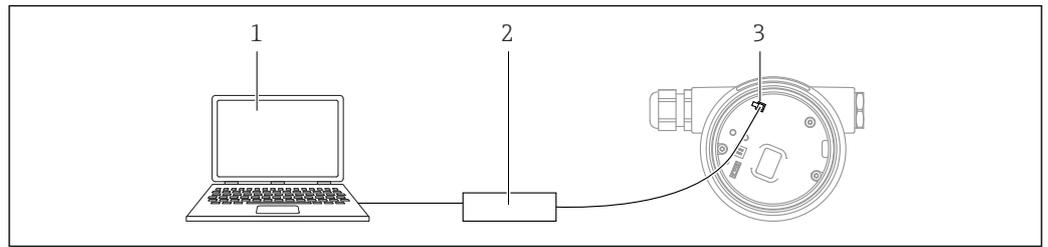


A0044334

図 23 HART プロトコル経由のリモート操作オプション

- 1 PLC（プログラマブルロジックコントローラ）
- 2 変換器電源ユニット、例：RN221N（通信用抵抗器付き）
- 3 Commubox FXA195 および AMS Trex™ デバイスコミュニケーター用の接続
- 4 AMS Trex™ デバイスコミュニケーター
- 5 操作ツール（例：DeviceCare/FieldCare、AMS Device View、SIMATIC PDM）搭載のコンピュータ
- 6 Commubox FXA195（USB）
- 7 操作ツール（例：DeviceCare/FieldCare、AMS Device View、SIMATIC PDM）を搭載した Field Xpert SMT70/SMT77、スマートフォンまたはコンピュータ
- 8 Bluetooth モデム、接続ケーブル付き（例：VIATOR）
- 9 変換器

サービスインタフェース (CDI) 経由

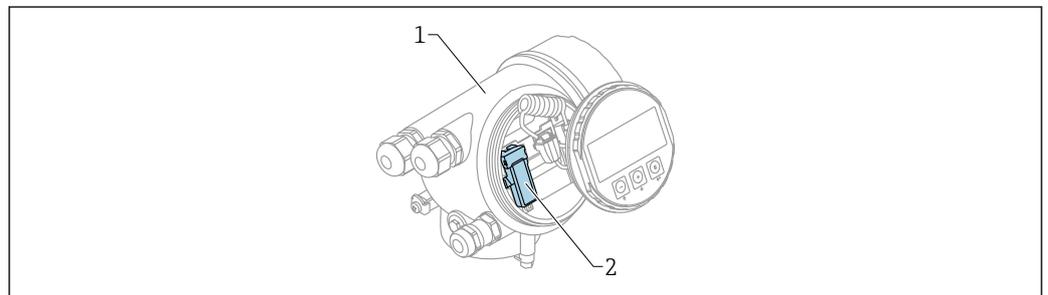


- 1 FieldCare/DeviceCare 操作ツール搭載のコンピュータ
- 2 Commubox
- 3 計測機器のサービスインタフェース (CDI = Endress+Hauser Common Data Interface)

A0039148

Bluetooth® ワイヤレス技術を経由

要件



A0036790

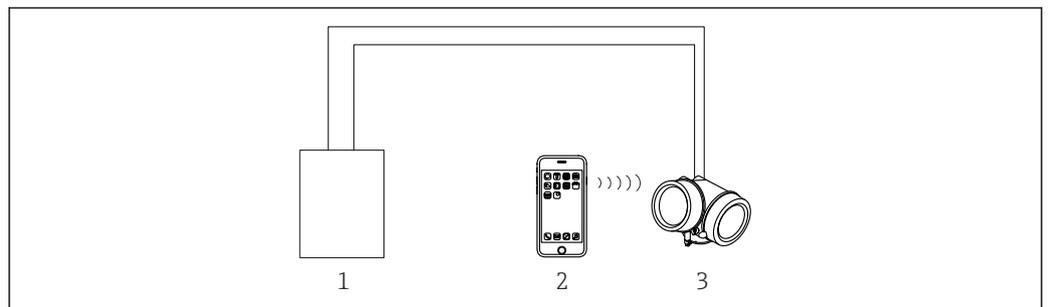
図 24 Bluetooth モジュール搭載の機器

- 1 機器の電子回路部ハウジング
- 2 Bluetooth モジュール

この操作オプションは Bluetooth モジュール搭載の機器でのみ使用可能です。以下のオプションがあります：

- 機器と一緒に Bluetooth モジュールが注文されている。
仕様コード 610 「取付け済みアクセサリ」、オプション NF 「Bluetooth」
- Bluetooth モジュールがアクセサリ (注文番号：71377355) として注文され、取り付けられている。個別説明書 SD02252F を参照してください。

SmartBlue (アプリ) 経由の操作



A0034939

図 25 SmartBlue (アプリ) 経由の操作

- 1 変換器電源ユニット
- 2 スマートフォン/タブレット端末、SmartBlue (アプリ) 搭載
- 3 Bluetooth モジュール搭載の変換器

8.2 操作メニューの構成と機能

8.2.1 操作メニューの構成

メニュー	サブメニュー/パラメータ	意味
	Language ¹⁾	現場表示器の操作言語を設定します。
初回設定 ²⁾		メニューガイド方式で初回設定を行うための対話型ウィザードを起動します。ウィザードの終了後、通常は他のメニューで追加設定をする必要はありません。
設定	パラメータ 1 ... パラメータ N	これらのパラメータを設定した場合、通常は測定の設定を完了させる必要があります。
	高度な設定	その他のサブメニューやパラメータが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ より高精度な測定の設定用 (特殊な測定条件に対応) ■ 測定値の変換用 (スケーリング、リニアライゼーション) ■ 出力信号のスケーリング用
診断	診断リスト	現在発生中のエラーメッセージが最大 5 件含まれます。
	イベントログブック ³⁾	最新のメッセージ 20 件 (すでに発生していない) が含まれます。
	機器情報	機器識別用の情報が含まれます。
	測定値	現在のすべての測定値が含まれます。
	データのログ	個別の測定値の履歴が含まれます。
	シミュレーション	測定値または出力値のシミュレーションに使用
	機器チェック	機器の測定機能のチェックに必要なすべてのパラメータが含まれます。
	Heartbeat ⁴⁾	Heartbeat Verification および Heartbeat Monitoring アプリケーションパッケージのすべてのウィザードが含まれます。
エキスパート ⁵⁾ 機器のすべてのパラメータが含まれます (その他のメニューの既存パラメータを含む)。このメニューは機器の機能ブロックに従って構成されています。 エキスパートメニューのパラメータの説明については、以下を参照してください。 GP01000F (HART)	システム	測定または測定値の通信に関係しない、高次の機器パラメータがすべて含まれます。
	センサ	測定の設定用パラメータがすべて含まれます。
	出力	<ul style="list-style-type: none"> ■ アナログ電流出力の設定用パラメータがすべて含まれます。 ■ スイッチ出力の設定に必要なすべてのパラメータが含まれます (PFS)。
	通信	デジタル通信インターフェイスの設定に必要なすべてのパラメータが含まれます。
	診断	動作エラーの検出および分析に必要なすべてのパラメータが含まれます。

- 1) 操作ツール (例: FieldCare) を使用して操作する場合、「Language」パラメータは「設定 → 高度な設定 → 表示」に表示されます。
- 2) FDT/DTM システムを介して操作する場合のみ
- 3) 現場表示器から操作する場合にのみ使用可能
- 4) DeviceCare または FieldCare を介して操作する場合にのみ使用可能
- 5) 「エキスパート」メニューを呼び出すと、必ずアクセスコードの入力を求められます。ユーザー固有のアクセスコードが設定されていない場合は、「0000」を入力してください。

8.2.2 ユーザーの役割と関連するアクセス権

「オペレータ」と「メンテナンス」の2つのユーザーの役割は、機器固有のアクセスコードが設定されている場合、パラメータの書き込みアクセス権が異なります。これにより、現場表示器を介した機器設定の不正アクセスが保護されます。→ 41

パラメータのアクセス権

ユーザーの役割	読み取りアクセス		書き込みアクセス	
	アクセスコードなし (初期設定)	アクセスコードあり	アクセスコードなし (初期設定)	アクセスコードあり
オペレータ	✓	✓	✓	--
メンテナンス	✓	✓	✓	✓

不正なアクセスコードを入力した場合、そのユーザーの役割として**オペレータ**のアクセス権が付与されます。

 現在ログオンしているユーザーの役割は、**アクセスステータス表示** パラメータ（現場表示器から操作する場合）または**アクセスステータス ツール** パラメータ（操作ツールから操作する場合）で確認できます。

8.2.3 データアクセス - セキュリティ

アクセスコードによる書き込み保護

機器固有のアクセスコードを使用して、計測機器の設定用パラメータを書き込み保護することが可能です。これにより、現場操作では値を変更できなくなります。

現場表示器によるアクセスコードの設定

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコード設定
2. アクセスコードとして最大 4 桁の数値コードを設定します。
3. **アクセスコードの確認** パラメータに数値コードを再入力して確定します。
↳ すべての書き込み保護パラメータの前に、 シンボルが表示されます。

操作ツール（例：FieldCare）によるアクセスコードの設定

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定
2. アクセスコードとして最大 4 桁の数値コードを設定します。
↳ 書込保護がオンになります。

常に変更可能なパラメータ

測定に影響を及ぼさない特定のパラメータは、書き込み保護から除外されます。アクセスコード設定にかかわらず、これらのパラメータは、他のパラメータがロックされている場合も常に変更可能です。

ナビゲーション、編集画面で 10 分以上キーを押さなかった場合、機器は自動的に書き込み保護パラメータを再度ロックします。ナビゲーションおよび編集モードから測定値表示モードに戻ると、機器は 60 秒後に自動的に書き込み保護パラメータをロックします。

 **アクセスコードを使用して書き込みアクセス権を有効にした場合は、無効にする場合も必ずアクセスコードが必要です。**
各書き込み保護パラメータは、「機能説明書」に  シンボルで示されています。

アクセスコードによる書き込み保護の無効化

現場表示器でパラメータの前に  シンボルが表示されている場合、そのパラメータは機器固有のアクセスコードで書き込み保護されています。その場合、現場表示器を使用して値を変更することはできません。

機器固有のアクセスコードを入力すると、現場操作による書き込みアクセス権のロックを無効にできます。

1.  を押すと、アクセスコードの入力プロンプトが表示されます。
2. アクセスコードを入力します。
 - ↳ パラメータの前の  シンボルが消え、それまで書き込み保護されていたパラメータがすべて、入力可能になります。

アクセスコードによる書き込み保護の無効化

現場表示器を使用

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコード設定
2. **0000** を入力します。
3. **アクセスコードの確認** パラメータに **0000** を再入力して確定します。
 - ↳ 書き込み保護が無効になります。アクセスコードを入力しなくてもパラメータの変更が可能になります。

操作ツールを使用（例：FieldCare）

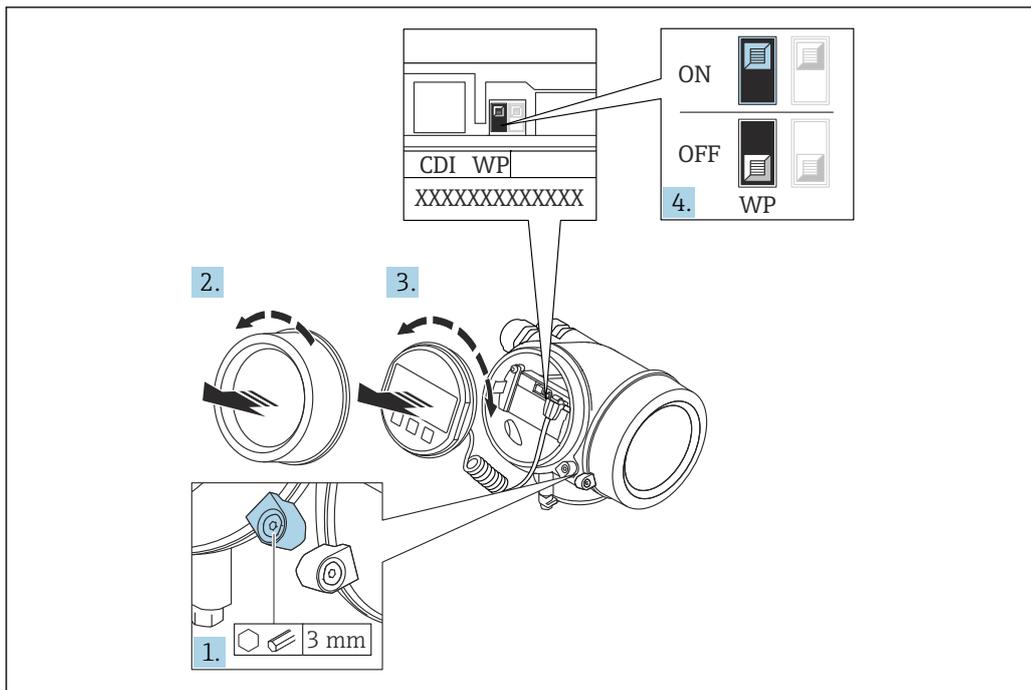
1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定
2. **0000** を入力します。
 - ↳ 書き込み保護が無効になります。アクセスコードを入力しなくてもパラメータの変更が可能になります。

書き込み保護スイッチによる書き込み保護

ユーザー固有のアクセスコードによるパラメータ書き込み保護とは異なり、この書き込み保護では、すべての操作メニューに対する書き込みアクセスをロックできます（「**表示のコントラスト**」パラメータを除く）。

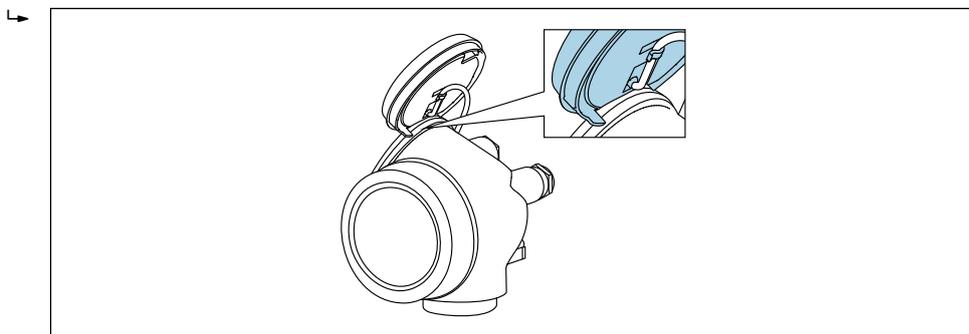
これによりパラメータ値は読み取り専用となり、編集できなくなります（「**表示のコントラスト**」パラメータを除く）。

- 現場表示器を使用
- サービスインターフェイス（CDI）経由
- HART プロトコル経由



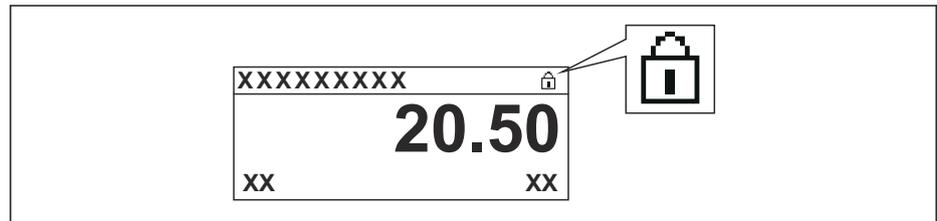
A0026157

1. 固定クランプを緩めます。
2. 表示部のカバーを外します。
3. 表示モジュールを慎重に回転させて引き抜きます。書き込み保護スイッチにアクセスしやすくするため、表示モジュールを電子部コンパートメントの縁に差し込みます。



A0036086

4. メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチ (WP) を **ON** 位置に設定すると、ハードウェア書き込み保護が有効になります。メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチ (WP) を **OFF** 位置 (工場設定) に設定すると、ハードウェア書き込み保護が無効になります。
- ↳ ハードウェア書き込み保護が有効な場合：**ハードウェア書き込みロック** オプションが**ロック状態**パラメータに表示されます。さらに、現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に  シンボルが表示されます。



A0015870

ハードウェア書き込み保護が無効にした場合：**ロック状態**パラメータにオプションは表示されません。現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に表示されていた  シンボルは消えます。

5. ハウジングとメイン電子モジュール間の隙間にケーブルを収納し、表示モジュールを必要な向きで電子部コンパートメントにかみ合うまで差し込みます。
6. 逆の手順で変換器を再び取り付けます。

キーパッドロックの有効化/無効化

キーパッドロックを使用して、現場操作による全操作メニューへのアクセスをロックできます。アクセスがロックされると、操作メニューのナビゲーションやパラメータ値の変更はできなくなります。操作画面表示の測定値を読み取ることだけが可能です。

キーパッドロックのオン/オフはコンテキストメニューで行います。

キーパッドロックのオン

SD03 表示モジュールのみ

- キーパッドロックが自動的にオンになります。
 - 機器が表示部を介して1分以上操作されなかった場合
 - 機器をリスタートした場合

キーパッドロックのオン (手動操作の場合)

1. 測定値表示の画面を表示します。
 を2秒以上押します。
 ↳ コンテキストメニューが表示されます。
2. コンテキストメニューで**キーロック オン**を選択します。
 ↳ キーパッドロックがオンになっています。

 キーパッドロック有効時に操作メニューにアクセスしようとする、**キーロック オン**メッセージが表示されます。

キーパッドロックのオフ

1. キーパッドロックがオンになっています。
 を2秒以上押します。
 ↳ コンテキストメニューが表示されます。
2. コンテキストメニューで**キーロック オフ**を選択します。
 ↳ キーパッドロックがオフになります。

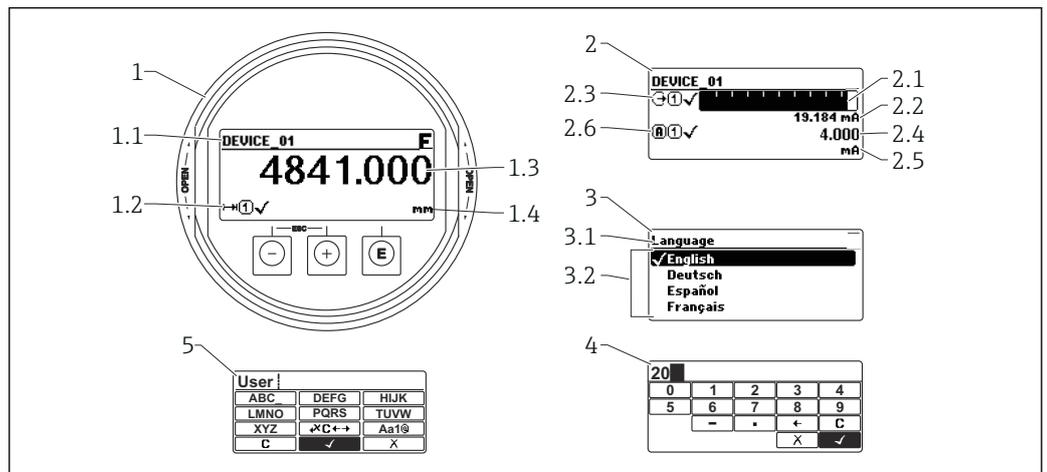
Bluetooth® ワイヤレス技術

Bluetooth® ワイヤレス技術を介した信号伝送では、フラウンホーファー研究所で試験された暗号技術が使用されます。

- SmartBlue アプリが搭載されていない場合、Bluetooth® ワイヤレス技術を介して機器を表示することはできません。
- 1台のセンサと1台のスマートフォンまたはタブレット端末とのポイント・トゥー・ポイント接続のみが構築されます。

8.3 表示部および操作モジュール

8.3.1 表示形式



A0012635

図 26 表示モジュールおよび操作モジュールの表示形式

- 1 測定値表示部 (1つの値、最大サイズ)
- 1.1 タグとエラーシンボル (エラーが出ている場合) を含むヘッダー
- 1.2 測定値シンボル
- 1.3 測定値
- 1.4 単位
- 2 測定値表示部 (バーグラフ+1つの値)
- 2.1 測定値1のバーグラフ
- 2.2 測定値1 (単位付き)
- 2.3 測定値1の測定値シンボル
- 2.4 測定値2
- 2.5 測定値2の単位
- 2.6 測定値2の測定値シンボル
- 3 パラメータ表示 (図の表示例: ドロップダウンリスト付きのパラメータ)
- 3.1 パラメータ名とエラーシンボル (エラーが出ている場合) を含むヘッダー
- 3.2 ドロップダウンリスト、☑は現在のパラメータ値を示します。
- 4 数字の入力マトリックス
- 5 英数字および特殊文字の入力マトリックス

サブメニューの表示シンボル

シンボル	意味
 A0018367	表示/操作 表示場所： ■ メインメニューの「表示/操作」選択項目の横 ■ 「表示/操作」メニューの左側のヘッダー
 A0018364	設定 表示場所： ■ メインメニューの「設定」選択項目の横 ■ 「設定」メニューの左側のヘッダー
 A0018365	エキスパート 表示場所： ■ メインメニューの「エキスパート」選択項目の横 ■ 「エキスパート」メニューの左側のヘッダー
 A0018366	診断 表示場所： ■ メインメニューの「診断」選択項目の横 ■ 「診断」メニューの左側のヘッダー

ステータス信号

シンボル	意味
F A0032902	「故障」 機器エラーが発生。測定値は無効。
C A0032903	「機能チェック」 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
S A0032904	「仕様範囲外」 機器は作動中： ■ 技術仕様の範囲外（例：始動時または洗浄時） ■ ユーザーによる設定が範囲外（例：レベルが設定範囲外）
M A0032905	「要メンテナンス」 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

ロック状態の表示シンボル

シンボル	意味
 A0013148	読み取り専用パラメータ 表示されるパラメータは、表示のみを目的とするものであり、編集はできません。
 A0013150	機器のロック ■ パラメータ名の前：機器はソフトウェアおよび/またはハードウェアでロックされています。 ■ 測定値画面のヘッダー：機器はソフトウェアでロックされています。

測定値シンボル

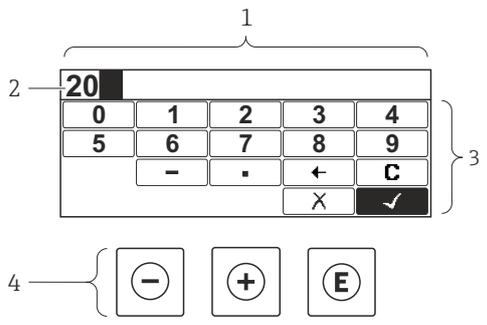
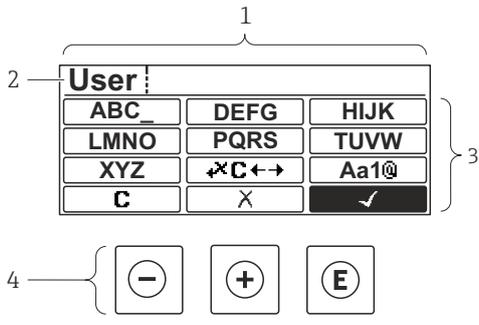
シンボル	意味
測定値	
 A0032892	レベル
 A0032893	距離
 A0032908	電流出力
 A0032894	測定された電流値
 A0032895	端子電圧
 A0032896	電子モジュールまたはセンサ温度
測定チャンネル	
 A0032897	測定チャンネル 1
 A0032898	測定チャンネル 2
測定値ステータス	
 A0018361	「アラーム」ステータス 測定が中断します。出力が設定されたアラーム状態になります。診断メッセージが生成されます。
 A0018360	「警告」ステータス 機器は測定を継続します。診断メッセージが生成されます。

8.3.2 操作部

操作キー	意味
 A0018330	-キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを上方へ移動 テキストおよび数値エディタにおいて 入力画面で、選択バーを左へ移動（戻る）
 A0018329	+キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを下方へ移動 テキストおよび数値エディタにおいて 入力画面で、選択バーを右へ移動（次へ）

操作キー	意味
 <small>A0018328</small>	<p>Enter キー</p> <p>測定値表示用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押すと、操作メニューが開く ■ キーを2秒押すと、コンテキストメニューが開く <p>メニュー、サブメニュー内</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押した場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択したメニュー、サブメニュー、またはパラメータが開く ■ パラメータの位置でキーを2秒押した場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ パラメータ機能のヘルプテキストがある場合は、これが開く <p>テキストおよび数値エディタにおいて</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押した場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択したグループが開く ■ 選択した動作を実行 ■ キーを2秒押すと、編集したパラメータ値が確定される
 <small>A0032909</small>	<p>エスケープキーの組み合わせ（キーを同時に押す）</p> <p>メニュー、サブメニュー内</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押した場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在のメニューレベルを終了し、上位レベルに移動 ■ ヘルプテキストを開いている場合は、パラメータのヘルプテキストを閉じる ■ キーを2秒押すと、測定値表示部に戻る（「ホーム画面」） <p>テキストおよび数値エディタにおいて</p> <p>変更を確定せずに、テキストまたは数値エディタを閉じる</p>
 <small>A0032910</small>	<p>- / Enter キーの組み合わせ（キーを同時に長押し）</p> <p>コントラストを弱く（より明るい設定）</p>
 <small>A0032911</small>	<p>+ / Enter キーの組み合わせ（キーを同時に長押し）</p> <p>コントラストを強く（より暗い設定）</p>

8.3.3 数字とテキストの入力

数値エディタ	テキストエディタ
	
<p>1 編集画面</p> <p>2 入力値の表示エリア</p> <p>3 入力画面</p> <p>4 操作部</p>	<p>1 編集画面</p> <p>2 入力値の表示エリア</p> <p>3 入力画面</p> <p>4 操作部</p>

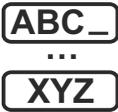
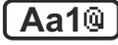
入力画面

数値およびテキストエディタの入力画面では、次の入力シンボルと操作シンボルを使用できます。

数字エディタ

シンボル	意味
 A0013998	数値 0~9 の選択
 A0016619	カーソル位置に小数点記号を挿入
 A0016620	カーソル位置にマイナス符号を挿入
 A0013985	選択の確定
 A0016621	入力位置を 1 つ左へ移動
 A0013986	変更を確定せずに、入力を終了
 A0014040	入力文字をすべて消去

テキストエディタ

シンボル	意味
 A0013997	文字 A~Z の選択
 A0013981	切り替え <ul style="list-style-type: none"> ▪ 大文字/小文字 ▪ 数値の入力 ▪ 特殊文字の入力
 A0013985	選択の確定
 A0013987	修正ツールの選択に切り替え
 A0013986	変更を確定せずに、入力を終了
 A0014040	入力文字をすべて消去

テキスト修正 (✕C←→)

シンボル	意味
 A0032907	入力文字をすべて消去
 A0018324	入力位置を 1 つ右へ移動

 <small>A0018326</small>	入力位置を1つ左へ移動
 <small>A0032906</small>	入力位置の左隣りの文字を削除

8.3.4 コンテキストメニューを開く

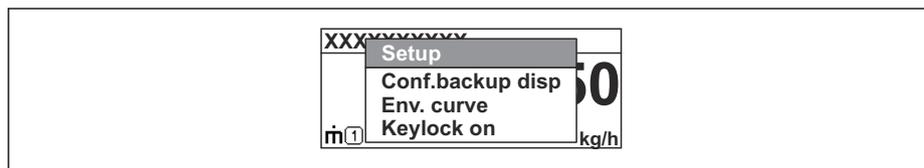
コンテキストメニューを使用すると、操作画面表示から簡単かつダイレクトに次のメニューを開くことができます。

- 設定
- 設定バックアップの表示
- エンベロープカーブ
- キーロックオン

コンテキストメニューの呼び出しと終了

操作画面表示にします。

1.  を2秒間押します。
↳ コンテキストメニューが開きます。



A0037872

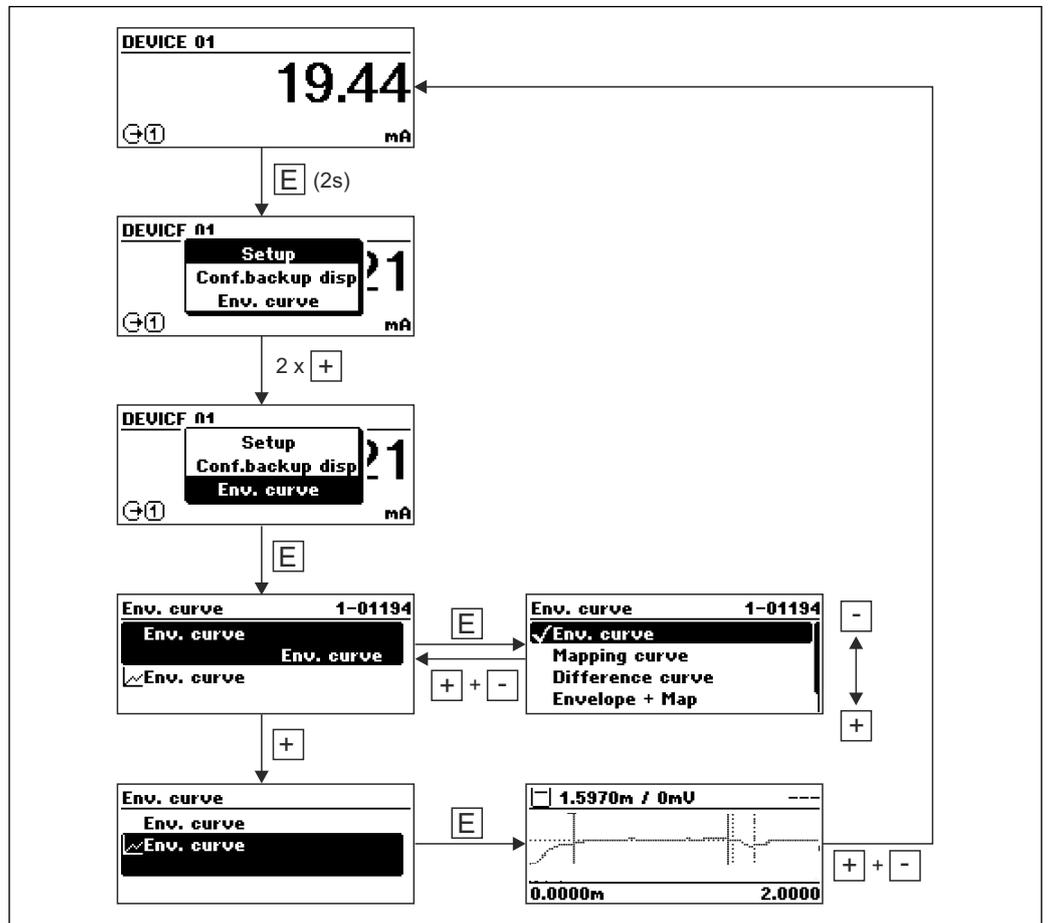
2.  +  を同時に押します。
↳ コンテキストメニューが閉じて、操作画面が表示されます。

コンテキストメニューによるメニューの呼び出し

1. コンテキストメニューを開きます。
2.  を押して、必要なメニューに移動します。
3.  を押して、選択を確定します。
↳ 選択したメニューが開きます。

8.3.5 表示部および操作モジュール上の反射波形表示

測定信号を評価するため、反射波形とマッピングカーブ（マッピングが記録されている場合）を表示部および操作モジュールに表示することが可能です。



A0014277

9 システム統合

9.1 デバイス記述 (DD) ファイルの概要

HART

製造者 ID	0x11
デバイスタイプコード	0x1122
HART 仕様	7.0
DD ファイル	<p>情報およびファイルは以下から入手できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ www.endress.com ▪ www.fieldcommgroup.org

9.2 HART プロトコル経由の測定変数

工場出荷時には、以下の測定値が機器変数に割り当てられています。

レベル測定用の機器変数

機器変数	測定値
PV 値	リニアライゼーションされたレベル
SV 値	フィルタ処理なしの距離
TV 値	エコーの絶対振幅
QV 値	エコーの相対振幅

 機器変数に対する測定値の割り当ては、以下のサブメニューで変更できます。
エキスパート → 通信 → 出力

10 SmartBlue (アプリ) を使用した設定

10.1 Bluetooth® ワイヤレス技術を介した操作 (オプション)

必須条件

- Bluetooth 対応ディスプレイ付きの機器
- Endress+Hauser 製の SmartBlue アプリをインストールしたスマートフォン/タブレット、DeviceCare (バージョン 1.07.05 以上) をインストールした PC、または FieldXpert SMT70

接続範囲は最大 25 m (82 ft) です。範囲は、設置物、壁、天井などの環境条件に応じて異なる場合があります。

i Bluetooth を使用して機器を接続すると、すぐにディスプレイの操作キーがロックされます。

Bluetooth シンボルの点滅は Bluetooth 接続が利用可能であることを示します。

i 以下の点に注意してください。

Bluetooth ディスプレイを機器から取り外して、別の機器に取り付ける場合：

- すべてのログインデータは Bluetooth ディスプレイに保存され、機器には保存されません。
- お客様が変更したパスワードも同様に Bluetooth ディスプレイに保存されます。

10.1.1 SmartBlue アプリ経由の操作

SmartBlue アプリを使用して機器の操作や設定を行うことができます。

- そのために、SmartBlue アプリをモバイル機器にダウンロードする必要があります。
- SmartBlue アプリとモバイル機器の互換性については、**Apple App Store (iOS 機器)** または **Google Play ストア (Android 機器)** を参照してください。
- 暗号化された通信およびパスワードの暗号化により、権限のない人による不正な操作を防止
- Bluetooth® 機能は、機器の初期設定後に無効にすることができます。

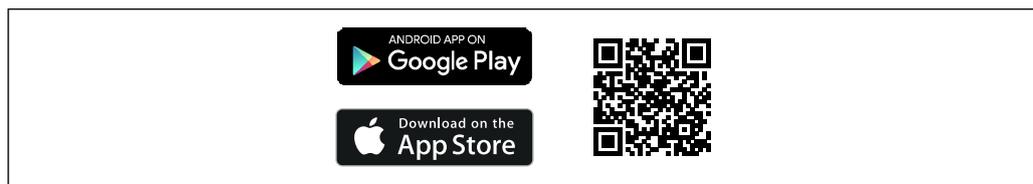


図 27 無料の Endress+Hauser SmartBlue アプリの QR コード

ダウンロードおよびインストール：

1. QR コードをスキャンするか、または Apple App Store (iOS) /Google Play ストア (Android) の検索フィールドに **SmartBlue** と入力します。
2. SmartBlue アプリをインストールして、起動します。
3. Android 機器の場合：位置追跡 (GPS) を有効にします (iOS 機器の場合は必要ありません)。
4. 表示される機器リストから受信可能な機器を選択します。

ログイン：

1. ユーザー名を入力します：admin

2. 初期パスワードを入力します：機器のシリアル番号

i 初めてログインした後、パスワードを変更します。

i パスワードを忘れた場合は？当社サービスにお問い合わせください。

10.2 SmartBlue での反射波形表示

SmartBlue では反射波形の表示と記録が可能です。

反射波形以外にも、以下の値を表示できます。

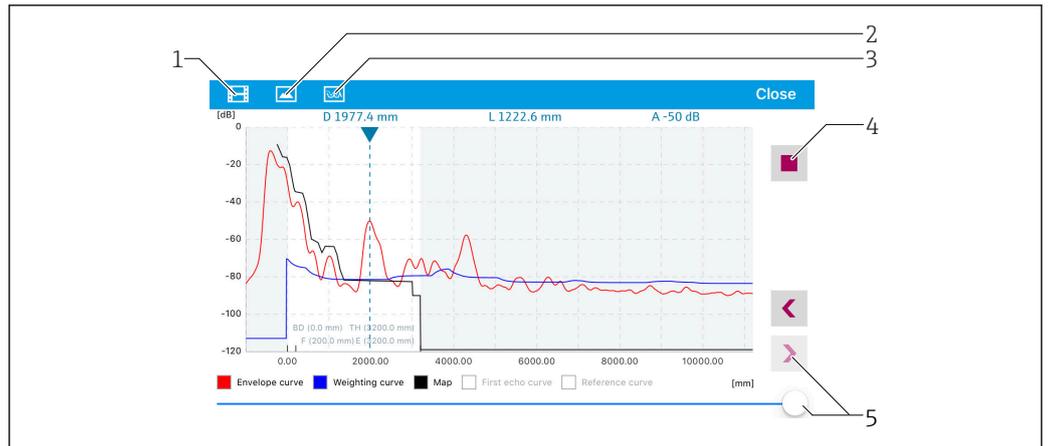
- D = 距離
- L = レベル
- A = 絶対振幅
- スクリーンショットをとると、表示部分（ズーム機能）が保存されます。
- ビデオシーケンスの場合は常に、ズーム機能なしで全面が保存されます。



A0029486

図 28 SmartBlue (Android 版) での反射波形表示 (例)

- 1 ビデオ記録
- 2 スクリーンショット作成
- 3 マッピングメニューの表示
- 4 ビデオ記録の開始/停止
- 5 時間軸上の時刻移動



A0029487

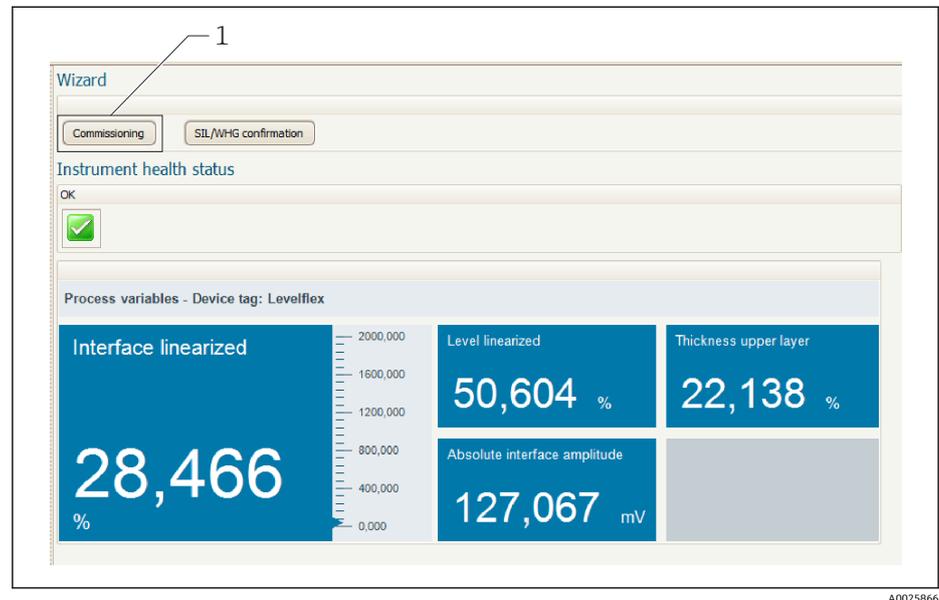
図 29 SmartBlue (iOS 版) での反射波形表示 (例)

- 1 ビデオ記録
- 2 スクリーンショット作成
- 3 マッピングメニューの表示
- 4 ビデオ記録の開始/停止
- 5 時間軸上の時刻移動

11 ウィザードを使用した設定

FieldCare および DeviceCare では、ウィザードを使用して初期調整を容易に行うことができます。

1. 機器を FieldCare または DeviceCare に接続します。
2. FieldCare または DeviceCare で機器を開きます。
↳ 機器のダッシュボード（ホームページ）が表示されます。



- 1 「Commissioning (設定)」ボタンでウィザードを呼び出します。
 - 3 「Commissioning (設定)」をクリックして、ウィザードを開始します。
 - 4 各パラメータに適切な値を入力するか、または適切な項目を選択します。これらの値は機器に直接書き込まれます。
 - 5 「Next (次へ)」をクリックして次のページに移動します。
 - 6 すべてのページの入力完了したら「Finish (完了)」をクリックしてウィザードを終了します。
- i** すべての必要なパラメータを入力する前にウィザードをキャンセルした場合、機器が未設定の状態になる可能性があります。この場合、機器を初期設定にリセットすることをお勧めします。

12 操作メニューを使用した設定

12.1 設置確認および機能チェック

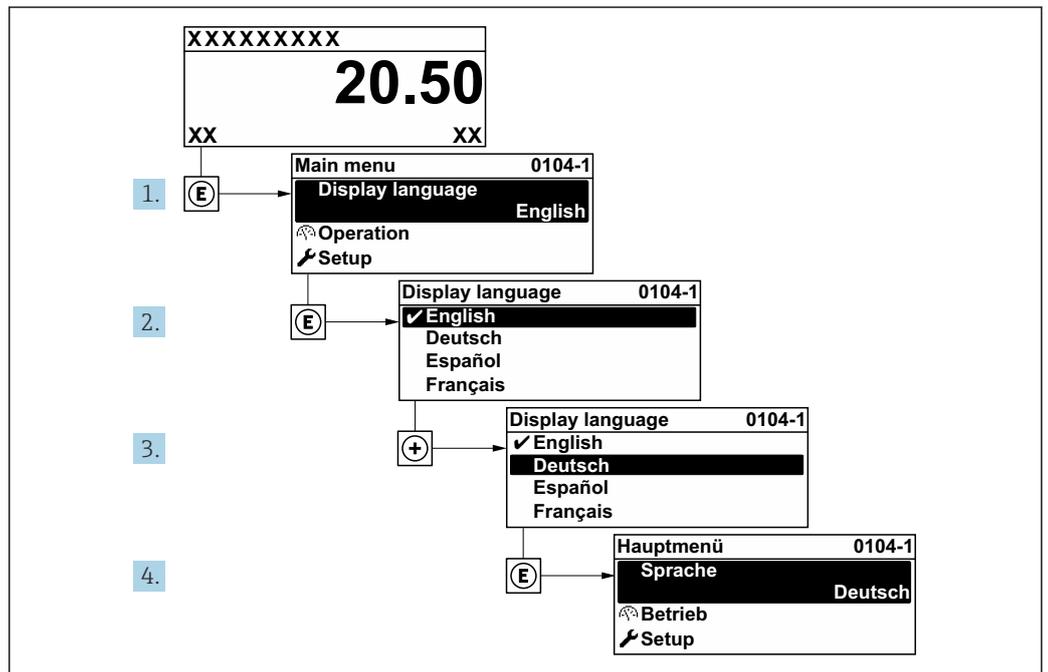
測定点を設定する前に、設置状況および配線状況を確認してください。

📖 設置状況の確認

📖 配線状況の確認

12.2 操作言語の設定

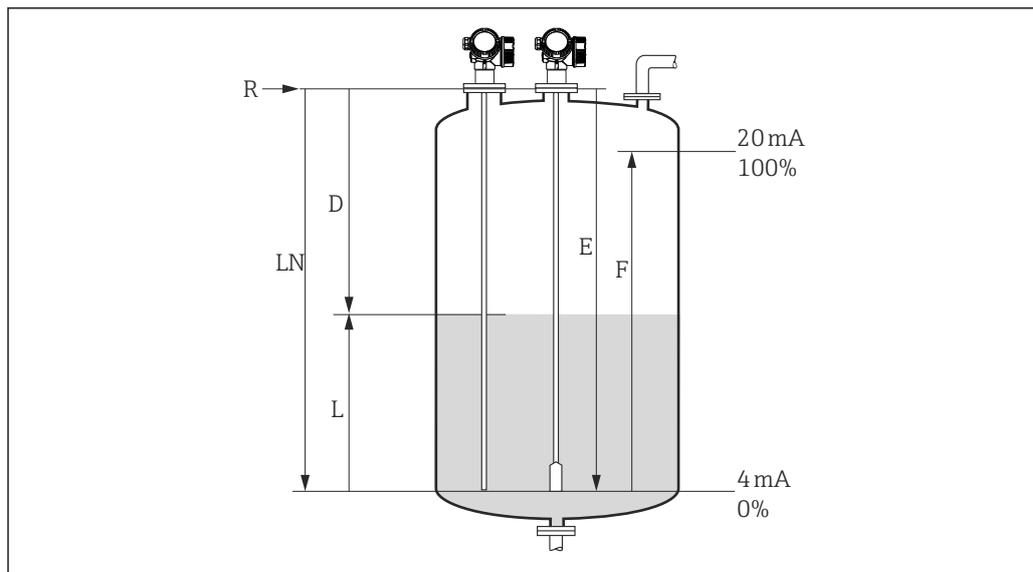
工場設定：英語または注文した地域の言語



A0029420

🖨 30 現場表示器の使用例

12.3 レベル測定の設定



A0011360

図 31 液体のレベル測定用パラメータの設定

LN	プローブ長
R	測定基準点
D	距離
L	レベル
E	空校正 (=ゼロ点)
F	満量校正 (=スパン)

i ローププローブの使用時に ϵ_r 値が 7 未満の場合、プローブウェイト付近では測定できません。この場合、空校正 E は $LN - 250 \text{ mm}$ ($LN - 10 \text{ in}$) を超えないようにしてください。

- 設定 → デバイスのタグ
↳ タグ名を入力してください。
- 次の項目に移動します。設定 → 距離の単位
↳ 長さの単位を選択します。
- 次の項目に移動します。設定 → タンクタイプ
↳ タンクタイプを選択します。
- タンクタイプ** パラメータ = 外筒管の場合：
次の項目に移動します。設定 → パイプ直径
↳ 外筒管または内筒管の直径を設定します。
- 次の項目に移動します。設定 → 測定物グループ
↳ 測定物グループ (**水ベース (DC >= 4)** または**その他**) を設定します。
- 次の項目に移動します。設定 → 空校正
↳ 空距離 E (測定基準点 R から 0% マークまでの距離) を設定します。
- 次の項目に移動します。設定 → 満量校正
↳ 満量距離 F (0% マークから 100% マークまでの距離) を設定します。
- 次の項目に移動します。設定 → レベル
↳ 測定レベル L を表示します。
- 次の項目に移動します。設定 → 距離
↳ 測定基準点 R とレベル L 間の距離 D を表示します。
- 次の項目に移動します。設定 → 信号品質
↳ 解析されたレベルエコーの信号品質を表示します。

- 11. 現場表示器による操作：
次の項目に移動します。設定 → マッピング → 距離の確定
↳ 不要反射マップの記録を開始するために、必要に応じて、表示された距離と実際の値を比較します。
- 12. 操作ツールによる操作：
次の項目に移動します。設定 → 距離の確定
↳ 不要反射マップの記録を開始するために、必要に応じて、表示された距離と実際の値を比較します。

12.4 基準エコーカーブの記録

測定の設定後に現在の反射波形を基準エコーカーブとして記録することをお勧めします。これは、後で診断のために使用できます。**基準カーブの保存** パラメータは、反射波形を記録するために使用します。

メニュー内のパス

エキスパート → 診断 → エンベロープ診断 → 基準カーブの保存

選択項目の説明

- いいえ
動作なし
- はい
現在の反射波形が基準カーブとして保存されます。

 ソフトウェアバージョン 01.00.zz または 01.01.zz が搭載されている機器の場合、このサブメニューはユーザーの役割が「サービス」のときにのみ表示されます。

 基準エコーカーブは、機器から FieldCare に基準エコーカーブが読み込まれた後、FieldCare の反射波形図にのみ表示されます。これには、FieldCare の「基準カーブ読み込み」機能を使用します。



図 32 「基準カーブ読み込み」機能

12.5 現場表示器の設定

12.5.1 レベル測定用の現場表示器の初期設定

パラメータ	電流出力が 1 つの機器の初期設定	電流出力が 2 つの機器の初期設定
表示形式	1 つの値、最大サイズ	1 つの値、最大サイズ
1 の値表示	リニアライゼーションされたレベル	リニアライゼーションされたレベル
2 の値表示	距離	距離
3 の値表示	電流出力 1	電流出力 1
4 の値表示	なし	電流出力 2

12.5.2 現場表示器の調整

以下のサブメニューを使用して現場表示器を調整できます。
設定 → 高度な設定 → 表示

12.6 電流出力の設定

12.6.1 レベル測定用の電流出力の初期設定

電流出力	割り当てられた測定値	4 mA 値	20 mA 値
1	リニアライゼーションされたレベル	0% または対応するリニアライズされた値	100% または対応するリニアライズされた値
2 (電流出力が2つある機器の場合)	エコーの相対振幅	0 mV	2 000 mV

12.6.2 電流出力の調整

以下のサブメニューで電流出力を調整できます。

基本設定

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2

高度な設定

エキスパート → 出力 1~2 → 電流出力 1~2

機能説明書 (GP01000F) を参照

12.7 設定管理

設定が完了したら、現在の機器設定を保存して別の測定点にコピーするか、または前の機器設定に復元することが可能です。これを行うには、**設定管理** パラメータとそのオプションを使用します。

メニュー内のパス

設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 設定管理

選択項目の説明

- キャンセル

何も実行せずにこのパラメータを終了します。

- バックアップの実行

現在の機器設定のバックアップコピーを、HistoROM (機器に内蔵) から機器の表示モジュールに保存します。

- 復元

機器設定のバックアップコピーを、表示モジュールから機器の HistoROM にコピーします。

■ 複製

機器の変換器設定を、表示モジュールを使用して別の機器に複製します。個々の測定点を特徴付ける以下のパラメータは転送されません。

- HART データコード
- HART ショートタグ
- HART メッセージ
- HART 記述子
- HART アドレス
- デバイスのタグ
- 測定物タイプ

■ 比較

表示モジュールに保存された機器設定と HistoROM の現在の機器設定を比較します。その結果は、**比較の結果** パラメータパラメータに表示されます。

■ バックアップデータの削除

機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールから削除します。



この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。



既存のバックアップコピーが、**復元** オプションを使用して元の機器以外に復元された場合、個々の機器機能が使用できなくなる場合があります。場合によっては、「納入時の状態」にリセットして元の状態に復元することもできません。

設定を別の機器にコピーする場合は、必ず**複製** オプションを使用してください。

12.8 不正アクセスからの設定の保護

次の2つの方法で、不正アクセスから設定を保護できます。

- パラメータによるロック (ソフトウェアロック)
- 書込保護スイッチによるロック (ハードウェアロック)

13 診断およびトラブルシューティング

13.1 一般トラブルシューティング

13.1.1 一般エラー

エラー	考えられる原因	解決方法
機器が応答しない	電源電圧が銘板に明記された値と異なる	正しい電圧を接続する。
	電源電圧の極性が正しくない	極性を正す。
	ケーブルと端子の接触不良	ケーブルと端子の電気的接続を確実にを行う。
ディスプレイの値が見えない	コントラスト設定が強すぎる/弱すぎる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 田と回を同時に押して、コントラストを上げる。 ■ 田と回を同時に押して、コントラストを下げる。
	ディスプレイケーブルのプラグが正しく接続されていない	プラグを正しく接続する。
	ディスプレイの故障	ディスプレイを交換する。
機器の起動時、またはディスプレイの接続時に、表示部に「通信エラー」が表示される	電磁干渉	機器の接地を確認する。
	ディスプレイのケーブルまたはプラグの破損	ディスプレイを交換する。
1つの機器から別の機器へのディスプレイを介したパラメータの複製が機能しない。「保存」および「キャンセル」選択項目しか使用できない。	以前に新しい機器でデータバックアップが実行されなかった場合、バックアップを搭載したディスプレイが正しく検出されない	ディスプレイ（バックアップ搭載）を接続し、機器を再起動する。
出力電流 <3.6 mA	信号ケーブルの接続が正しくない	接続を確認する。
	電子モジュールの故障	電子部を交換する。
HART 通信が機能しない	通信用抵抗がない、または正しく設置されていない	通信用抵抗（250 Ω）を正しく設置する。
	Commubox 接続が正しくない	Commubox を正しく接続する。
	Commubox が「HART」に設定されていない。	Commubox セレクタスイッチを「HART」に設定する。
CDI 通信が作動しない	コンピュータの COM ポートの設定が正しくない	コンピュータの COM ポートの設定を確認し、必要に応じて変更する。
機器測定が正しくない	パラメータ設定エラー	パラメータ設定を確認し、修正する。
SmartBlue 経由での機器との通信エラー	Bluetooth 接続なし	スマートフォンまたはタブレット端末の Bluetooth 機能を有効にする。
	機器がすでに別のスマートフォン/タブレット端末と接続されている	別のスマートフォン/タブレット端末から機器を外す。
	Bluetooth モジュールが接続されていない	Bluetooth モジュールを接続する（SD02252F を参照）。
SmartBlue を介してログインできない	機器が初めて使用される	初期パスワード（Bluetooth モジュールの ID 番号）を入力し、それを変更する。

エラー	考えられる原因	解決方法
SmartBlue を介して機器を操作できない	不正なパスワードが入力されている	小文字/大文字に注意して、正しいパスワードを入力する。
SmartBlue を介して機器を操作できない	パスワードを忘れた	Endress+Hauser サービス部門 (www.addresses.endress.com) にお問い合わせください。

13.1.2 エラー - SmartBlue 操作

エラー	考えられる原因	解決方法
ライブラリストに機器が表示されない	Bluetooth 接続なし	スマートフォンまたはタブレット端末の Bluetooth® 機能を有効にする センサの Bluetooth® 機能が無効になっているので復帰シーケンスを実行する
ライブラリストに機器が表示されない	機器がすでに別のスマートフォン/タブレット端末と接続されている	センサとスマートフォンまたはタブレット端末との 1 つ のポイント・トゥー・ポイント接続のみが構築される
ライブラリストに機器が表示されるが SmartBlue からアクセスできない	Android 機器	位置情報機能がアプリに対して許可されているか？この機能を最初に承認したか？ 特定の Android バージョンでは Bluetooth® と組み合わせて GPS または位置情報機能を有効にする必要がある GPS を有効化 - アプリを完全に終了して再起動 - アプリに対して位置情報機能が有効になっている
ライブラリストに機器が表示されるが SmartBlue からアクセスできない	Apple 製機器	標準でログイン ユーザー名に「admin」を入力 大文字/小文字に注意して、初期パスワード (Bluetooth モジュールの ID) を入力する
SmartBlue を使用してログインできない	機器が初めて使用される	初期パスワード (Bluetooth モジュールの ID) を入力してログインしパスワードを変更する (大文字/小文字に注意して入力する)
SmartBlue を介して機器を操作できない	不正なパスワードが入力されている	小文字/大文字に注意して、正しいパスワードを入力する。
SmartBlue を介して機器を操作できない	パスワードを忘れた	当社サービス (www.addresses.endress.com) にお問い合わせください

13.1.3 パラメータ設定エラー

レベル測定のパラメータ設定エラー

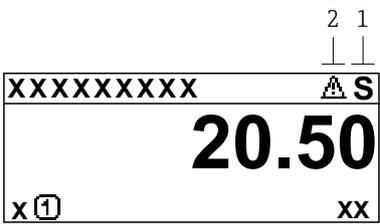
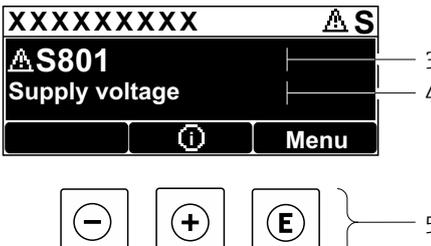
エラー	考えられる原因	解決方法
測定値が不正確	測定距離 (設定 → 距離) が実際の距離と一致している場合： 校正エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空校正 パラメータ (→ 107) を確認し、必要に応じて修正する。 ■ 満量校正 パラメータ (→ 107) を確認し、必要に応じて修正する。 ■ リニアライゼーションを確認し、必要に応じて修正する (リニアライゼーション サブメニュー (→ 121))。
	測定距離 (設定 → 距離) が実際の距離と一致しない場合： 不要反射が発生している	マッピングを行う (距離の確定 パラメータ (→ 110))。
充填/排出時に測定値の変化なし	不要反射が発生している	マッピングを行う (距離の確定 パラメータ (→ 110))。

エラー	考えられる原因	解決方法
	プローブの付着物	プローブを洗浄する。
	エコトラッキングでエラーが発生する	エコトラッキングを無効にする (エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード = 履歴オフ)。
電源をオンにすると、診断メッセージ エコロスト が表示される	エコしきい値が高すぎる	測定物グループ パラメータ (→ 106)を確認する。 必要に応じて、 測定物特性 パラメータ (→ 115)の詳細な設定を選択する。
	レベルエコーの抑制	マップを消去し、必要に応じて、再度記録する (マップ記録 パラメータ (→ 111))。
タンクが空なのに機器がレベルを表示する	プローブ長が正しくない	プローブ長補正を行う (プローブ長の確認 パラメータ (→ 136))。
	不要反射	タンクが空のときにプローブ全長にわたってマッピングを実施する (距離の確定 パラメータ (→ 110))。
測定範囲全体のレベル勾配が正しくない	異なるタンクタイプが選択されている	正しい タンクタイプ パラメータ (→ 105)を選択する。

13.2 現場表示器の診断情報

13.2.1 診断メッセージ

計測機器の自己監視システムで検出されたエラーが、測定値表示と交互に診断メッセージとして表示されます。

アラーム状態時の測定値表示	診断メッセージ
 <p>2 1 XXXXXXXXXX AS 20.50 x ① XX</p>	 <p>XXXXXXXXXX AS S801 Supply voltage Menu ①</p> <p>3 4</p> <p>① ② ③ } 5</p>
<p>1 ステータス信号 2 ステータスシンボル (イベントレベルのシンボル) 3 診断イベントに関するステータスシンボル 4 イベントテキスト 5 操作部</p>	

A0029426-JA

ステータス信号

F A0032902	「故障 (F)」 オプション 機器エラーが発生。測定値は無効。
C A0032903	「機能チェック (C)」 オプション 機器はサービスモード (例: シミュレーション中)

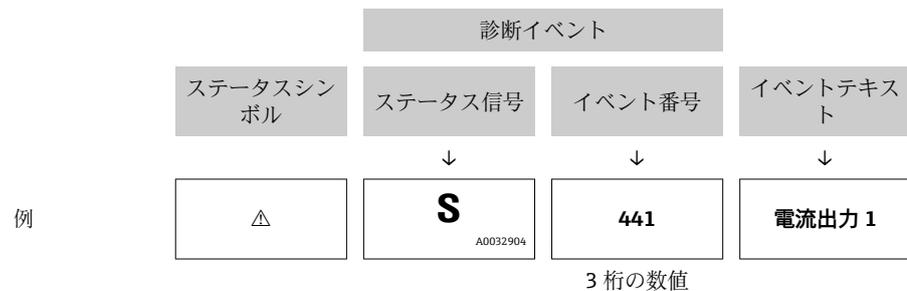
S <small>A0032904</small>	「仕様範囲外 (S)」 オプション 機器は作動中： <ul style="list-style-type: none"> ■ 技術仕様の範囲外（例：始動時または洗浄時） ■ ユーザーによる設定が範囲外（例：レベルが設定範囲外）
M <small>A0032905</small>	「メンテナンスが必要 (M)」 オプション メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

ステータスシンボル（イベントレベルのシンボル）

⊗	「アラーム」ステータス 測定が中断します。信号出力が設定されたアラーム状態になります。診断メッセージが生成されます。
△	「警告」ステータス 機器は測定を継続します。診断メッセージが生成されます。

診断イベントおよびイベントテキスト

診断イベントを使用してエラーを特定できます。イベントテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。さらに、診断イベントの前に対応するステータスシンボルが表示されます。



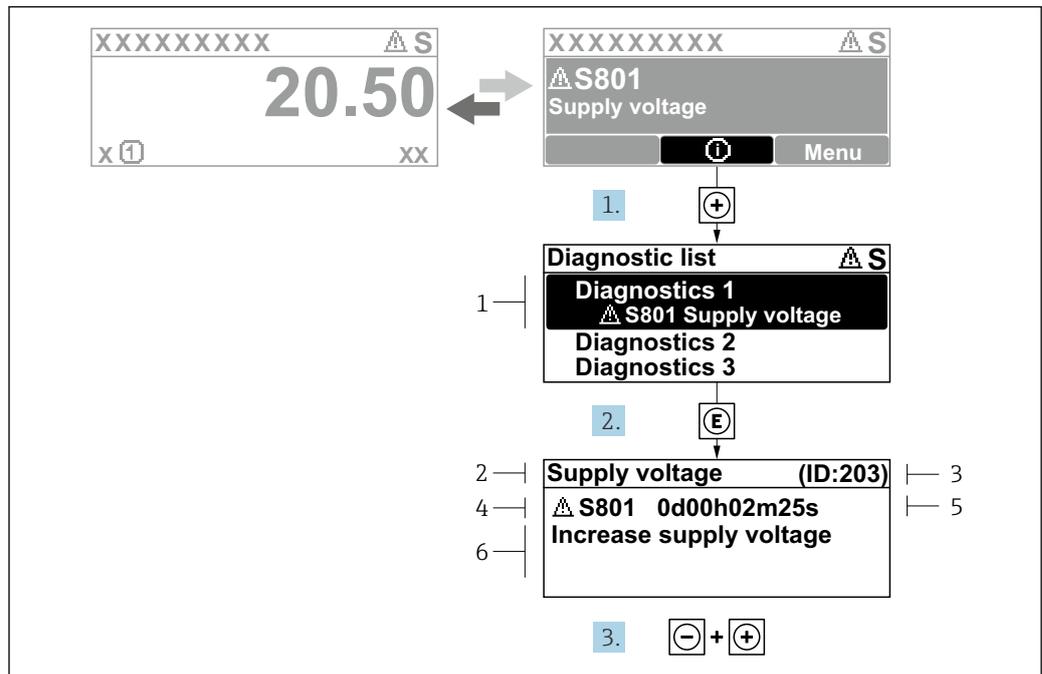
同時に複数の診断イベントが未解決である場合は、最も優先度の高い診断メッセージのみが表示されます。その他の待機中のメッセージは**診断リスト** サブメニューに表示されます。

- i 処理済みの過去の診断メッセージは、以下に表示されます。
 - 現場表示器：
イベントログブック
 - FieldCare：
「イベントリスト/HistoROM」機能

操作部

メニュー、サブメニューの操作機能	
+	+ キー 対処法に関するメッセージを開きます。
E	Enter キー 操作メニューを開きます。

13.2.2 対処法の呼び出し



A0029431-JA

図 33 対処法のメッセージ

- 1 診断情報
- 2 ショートテキスト
- 3 サービス ID
- 4 診断動作と診断コード
- 5 エラー発生時の稼働時間
- 6 対処法

診断メッセージを表示します。

1. **+** を押します (Ⓜ シンボル)。
 - ↳ **診断リスト** サブメニューが開きます。
2. **+** または **-** を使用して必要な診断イベントを選択し、**E** を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
3. **- +** を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

診断 メニュー内の診断イベントの入力項目に移動します (例: **診断リスト**、**前回の診断結果**)。

1. **E** を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
2. **- +** を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

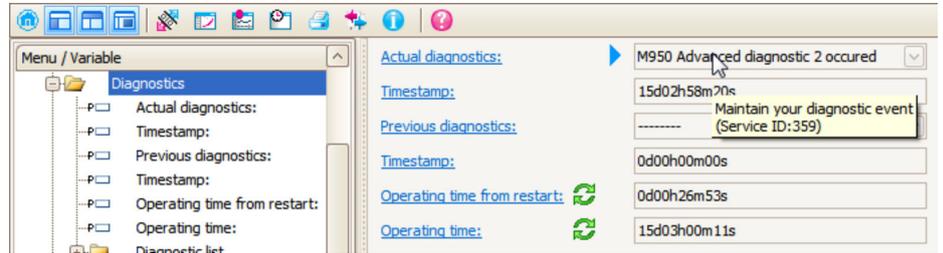
13.3 操作ツール上の診断イベント

機器で診断イベントが発生した場合、操作ツールのステータスエリア左上に、ステータス信号が、対応するイベントレベルのシンボルとともに表示されます (NAMUR NE 107 に準拠)。

- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)

A : 操作メニューから

1. **診断** メニューに移動します。
 - ↳ **現在の診断結果** パラメータには、診断イベントとイベントテキストが表示されます。
2. 表示領域の右側にある**現在の診断結果** パラメータの上にカーソルを合わせます。
 - ↳



診断イベントに対する対策情報のヒントが表示されます。

B : 「ドキュメントの作成」機能から

1.
 - ↳

「ドキュメントの作成」機能を選択します。

2.
 - ↳

「データの概要」にチェックが入っていることを確認します。

3. 「名前をつけて保存 ...」 をクリックしてレポートの PDF を保存します。
 - ↳ レポートには、対処法などを含む診断メッセージが収められます。

C : 「イベントリスト/拡張 HistoROM」機能から

1.
 - ↳

「イベントリスト/拡張 HistoROM」機能を選択します。



「イベントリストの読み込み」機能を選択します。

- ↳ 対処法などを含むイベントリストが「データの概要」ウィンドウに表示されます。

13.4 診断リスト

診断リスト サブメニュー サブメニューでは、現在未処理の診断メッセージを最大5件表示できます。5件以上のメッセージが未処理の場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示部に示されます。

ナビゲーションパス

診断 → 診断リスト

対処法の呼び出しと終了

1.  を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
2.  +  を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

13.5 診断イベントのリスト

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
センサの診断				
003	プローブの破損が検出されました	1. マップをチェックして下さい。 2. センサをチェックして下さい。	F	Alarm
046	付着を検知しました	センサを清掃して下さい	F	Alarm
104	HF ケーブル	乾燥、シーリングのチェックして下さい。 1. HF ケーブル接続の 2. HF ケーブルの変更して下さい。	F	Alarm
105	HF ケーブル	1. HF ケーブルをしっかりと接続して下さい。 2. HF ケーブルの変更して下さい。	F	Alarm
106	センサ	1. センサを確認して下さい 2. HF ケーブルを確認して下さい 3. サービスに連絡して下さい	F	Alarm
電子部の診断				
242	ソフトウェアの互換性なし	1. ソフトウェアをチェックして下さい。 2. メイン電子モジュールのフラッシュまたは交換をして下さい。	F	Alarm
252	モジュールの互換性なし	1. 正しい電子モジュールが使われているか確認する 2. 電子モジュールを交換する	F	Alarm
261	電子モジュール	1. 機器を再起動して下さい。 2. 電子モジュールをチェックして下さい。 3. IO モジュールまたはメイン電子モジュールを交換してください。	F	Alarm
262	モジュール接続	1. モジュール接続をチェックして下さい。 2. 電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
270	メイン電子モジュール故障	メイン電子モジュールの変更	F	Alarm
271	メイン電子モジュール故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. メイン電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
272	メイン電子モジュール故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
273	メイン電子モジュール故障	1. 表示器での応急時操作。 2. メイン電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
275	I/O モジュール 故障	I/O モジュールの変更	F	Alarm
276	I/O モジュール 誤り	1. 機器を再起動して下さい。	F	Alarm
276	I/O モジュールの故障	2. IO モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
282	データストレージ	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
283	電子メモリ内容	1. データの転送または機器のリセットをして下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
311	電子モジュール故障	メンテナンスが必要です。1.リセットしないでください。 2.弊社サービスに連絡してください。	M	Warning
設定の診断				
410	データ転送	1. 接続をチェックして下さい。 2. データ転送を再試行して下さい。	F	Alarm

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
411	アップロード/ダウンロードが有効	アップロード/ダウンロードがアクティブです。おまちください。	C	Warning
412	ダウンロード中	ダウンロード中です。しばらくお待ち下さい。	C	Warning
431	トリム 1~2	調整の実行	C	Warning
435	リニアライゼーション	リニアライゼーションテーブルをチェックして下さい。	F	Alarm
437	設定の互換性なし	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
438	データセット	1. データセットファイルのチェック 2. 機器設定のチェック 3. 新規設定のアップロード/ダウンロード	M	Warning
441	電流出力 1~2	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. 電流出力の設定をチェックして下さい。	S	Warning
484	エラーモードのシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Alarm
485	シミュレーション測定値	シミュレータの無効化	C	Warning
491	電流出力 1~2 のシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
494	シミュレーションスイッチ出力	シミュレーションスイッチ出力を無効にする。	C	Warning
495	診断イベントのシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
585	シミュレーション距離	シミュレータの無効化	C	Warning
プロセスの診断				
801	エネルギーが低すぎる	供給電圧が低すぎます。電圧を上げてください。	S	Warning
803	電流ループ	1. 配線のチェックをして下さい。 2. IO モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
825	稼働温度	1. 周囲温度をチェックして下さい。 2. プロセス温度をチェックして下さい。	S	Warning
825	稼働温度		F	Alarm
921	基準の変更	1. 基準構成のチェック 2. 圧力のチェック 3. センサのチェック	S	Warning
936	EMC 干渉	EMC 上のインストールのチェック	F	Alarm
941	エコロスト	1. パラメータ'DC 値'のチェックして下さい	F	Alarm ¹⁾
942	安全距離内	1. レベルをチェックして下さい 2. 安全距離のチェックして下さい	S	Alarm ¹⁾
943	不感知距離内	精度低下 レベルをチェックして下さい	S	Warning
944	レベル範囲	精度低下 レベルがプロセス接続部付近	S	Warning
950	高度な診断 1~2 が発生しました	診断イベントを維持する	M	Warning ¹⁾

1) 診断動作を変更できます。

13.6 イベントログブック

13.6.1 イベント履歴

イベントリストには、発生したイベントメッセージの概要が時系列で表示されます。

このサブメニューは現場表示器から操作する場合にのみ表示されます。FieldCare を介して操作する場合、イベントリストは FieldCare の「イベントリスト/HistoROM」機能で表示できます。

ナビゲーションパス

診断 → イベントログブック → イベントリスト

最大 100 件のイベントメッセージを時系列に表示できます。

イベント履歴には、次の入力項目が含まれます。

- 診断イベント
- 情報イベント

各イベントの発生時間に加えて、そのイベントの発生または終了を示すシンボルも割り当てられます。

- 診断イベント
 - ⊖ : イベントの発生
 - ⊕ : イベントの終了
- 情報イベント
 - ⊖ : イベントの発生

対処法の呼び出しと終了

1.  を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
2.  を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

13.6.2 イベントログブックのフィルタ処理

フィルタオプションパラメータを使用すると、イベントリストサブメニューに表示するイベントメッセージのカテゴリを設定できます。

ナビゲーションパス

診断 → イベントログブック → フィルタオプション

フィルタカテゴリ

- すべて
- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)
- 情報

13.6.3 情報イベントの概要

情報番号	情報名
I1000	----- (装置 OK)
I1089	電源オン
I1090	設定のリセット
I1091	設定変更済
I1092	HistoROM の削除

情報番号	情報名
I1110	書き込み保護スイッチ変更
I1137	電子部が交換されました
I1151	履歴のリセット
I1154	最小/最大端子電圧のリセット
I1155	電子部内温度のリセット
I1156	メモリエラートレンド
I1157	メモリエラーイベントリスト
I1184	ディスプレイが接続されています
I1185	表示バックアップ完了
I1186	表示ディスプレイでの復元
I1187	表示ディスプレイでダウンロードされた設定
I1188	表示データクリア済
I1189	バックアップ比較完了
I1256	表示: アクセスステータス変更
I1264	安全機能が中断されました
I1335	ファームウェアの変更
I1397	フィールドバス: アクセスステータス変更
I1398	CDI: アクセスステータス変更
I1512	ダウンロードを開始しました
I1513	ダウンロード終了
I1514	アップロード開始
I1515	アップロード完了
I1554	セーフティ手順の開始
I1555	セーフティの手順が確認されました
I1556	セーフティモードオフ

13.7 ファームウェアの履歴

日付	ファームウェアバージョン	変更	関連資料 (FMP53、HART)		
			取扱説明書	機能説明書	技術仕様書
2010年7月	01.00.zz	オリジナルソフトウェア	BA01002F/00/EN/05.10	GP01000F/00/EN/05.10	TI01002F/00/EN/05.10
2011年1月	01.01.zz	<ul style="list-style-type: none"> ▪ SIL 統合 ▪ 機能改良およびバグ修正 ▪ 言語の追加 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ BA01002F/00/EN/10.10 ▪ BA01002F/00/EN/13.11 ▪ BA01002F/00/EN/14.12 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ GP01000F/00/EN/10.10 ▪ GP01000F/00/EN/13.11 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ TI01002F/00/EN/10.10 ▪ TI01002F/00/EN/13.11 ▪ TI01002F/00/EN/14.12 ▪ TI01002F/00/EN/15.12

日付	ファームウェアバージョン	変更	関連資料 (FMP53、HART)		
			取扱説明書	機能説明書	技術仕様書
2014年2月	01.02.zz	<ul style="list-style-type: none"> ■ SD03 のサポート ■ 言語の追加 ■ HistoROM 機能の拡張 ■ 「高度な診断」機能ブロックの統合 ■ 機能改良およびバグ修正 	<ul style="list-style-type: none"> ■ BA01002F/00/EN/15.13 ■ BA01002F/00/EN/16.14 	<ul style="list-style-type: none"> ■ GP01000F/00/EN/14.13 ■ GP01000F/00/EN/15.14 	<ul style="list-style-type: none"> ■ TI01002F/00/EN/16.13 ■ TI01002F/00/EN/17.14
2016年4月	01.03.zz	<ul style="list-style-type: none"> ■ HART 7 への更新 ■ 17 の言語すべてが機器で使用可能 ■ 機能改良およびバグ修正 	<ul style="list-style-type: none"> ■ BA01002F/00/EN/17.16 ■ BA01002F/00/EN/18.16¹⁾ ■ BA01002F/00/EN/20.18²⁾ 	GP01000F/00/EN/16.16	<ul style="list-style-type: none"> ■ TI01002F/00/EN/18.16 ■ TI01002F/00/EN/20.16¹⁾ ■ TI01002F/00/EN/22.18²⁾

- 1) DeviceCare および FieldCare の現在の DTM バージョンで使用できる Heartbeat ウィザードの情報が含まれます。
 2) Bluetooth インタフェースの情報が含まれます。



ファームウェアバージョンは、製品構成を使用して注文時に指定できます。これにより、既存のまたは計画中のシステム統合とファームウェアバージョンの互換性を確保することが可能です。

14 メンテナンス

特別なメンテナンスは不要です。

14.1 外部洗浄

機器の外部洗浄を行う場合、ハウジングの表面やシールを腐食させるような洗浄剤は使用しないでください。

14.2 一般的な洗浄方法

アプリケーションによっては、プローブに汚れや付着物が形成される場合があります。薄くて均一な層は、測定にほとんど影響しません。層が厚い場合は、信号が減衰し、測定範囲が減少します。非常に不均一な付着物の形成または固化（例：結晶化による）により、測定結果が不正確になる可能性があります。このような場合は、非接触式の測定原理を採用するか、プローブの汚れを定期的に検査してください。

水酸化ナトリウム溶液による洗浄（例：CIP 洗浄）：カップリングが濡れていると、基準動作条件下よりも大きな測定誤差が発生する可能性があります。濡れると、一時的に測定が不正確になることがあります。

14.3 プローブの洗浄

14.3.1 タンク内のプローブの洗浄

適切な取付位置が選択されている場合、プローブはスプレーボールを使用してタンク内で洗浄できます。→ 18

14.3.2 タンク外のプローブの洗浄

洗浄しやすくするために、プローブを取り外すことができます。

洗浄には以下の工具が必要です。

- 万力およびファイバー付き保護口金（研磨されているロッドプローブの表面保護用）
- $\phi 54$ mm (2.1 in) ノーズ付きフックレンチ
- スパナ AF27/AF32（最大 20 Nm のトルク調整機構付き）

注意

- 作業を開始する前に、機器の電源がオフになっていることを確認してください。
- 溝付ナット (1) を緩めるときは、スパナを使用してプロセス接続リング (5) をしっかりと固定してください。そうしないと、アダプタ (3) がフランジから外れてしまいます。

電子部ハウジングの取外し

- フックレンチを使用して溝付ナット (1) を緩めます。
- 緩めたハウジング (2) をハウジングブラケットと一緒に、プロセス接続部のアダプタ (3) から上方に引き抜きます。ハウジングブラケットはハウジングに取り付けられたままです。ハウジングを横に置きます。「センサ、分離型」バージョンの場合は、ケーブルアダプタのみを取り外します。
- 必要に応じて、Oリング (7) を交換します。
オーダー番号：デバイスビューワーを参照
→ 77

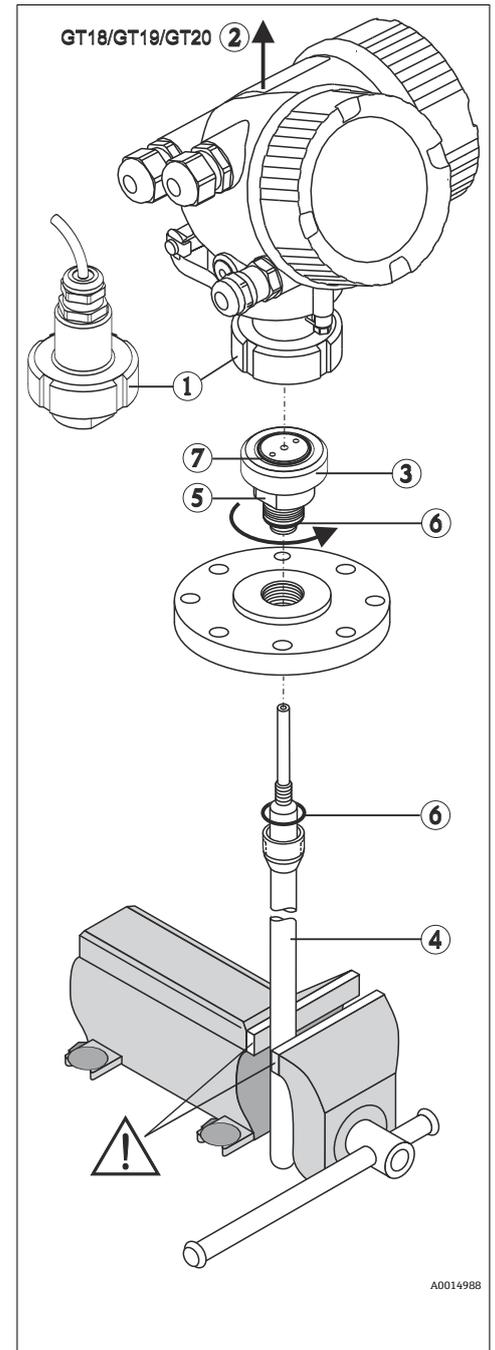
ロッドプローブの取外し

- アダプタ (3) をプロセス接続 (例：フランジ) から取り外します。スパナ (AF27) を使用して、レンチ平面でアダプタを緩め、ロッドプローブ (最大 4 m) と一緒に容器から引き抜きます。
- ロッドプローブ (4) をレンチ平面で締め付けるか、プライヤーを使用します。
警告： 研磨されているロッドプローブの表面を確実に保護してください。傷やへこみなどの損傷を防止してください。
- ロッドプローブからアダプタ (3) を緩めて (左回りに約 12 回転させて)、取り外します (プラグイン接続)。ロッドプローブは 4.5 Nm で絶縁ソケットにねじ込まれています。
- これで、ロッドプローブとアダプタの Oリングシール (6) を自由に扱えるようになるため、必要に応じて、交換できます。ロッドプローブとアダプタはオートクレープ処理が可能です。
Oリングのオーダー番号：デバイスビューワーを参照 → 77

プローブの取付け

取付けは、取外しと逆の手順になります。

- アダプタ (3) を 4.5 Nm でロッドプローブ (4) にねじ込みます。
- アダプタをロッドプローブと一緒に容器プロセス接続にねじ込み、20 Nm で締め付けます。
- ハウジング (2) とハウジングブラケットをアダプタに取り付けて、溝付ナット (1) にねじ込みます (トルク 20 Nm)。



15 修理

15.1 一般情報

15.1.1 修理コンセプト

Endress+Hauser の修理コンセプトでは、機器にモジュール式设计を採用することにより、当社サービス部門または専門トレーニングを受けたユーザーが修理を実施できるようになっています。

スペアパーツは合理的なキットに分類され、関連する交換指示書が付属します。

点検およびスペアパーツの詳細については、当社サービスの担当者にご連絡ください。

15.1.2 防爆認定機器の修理

警告

不適切な修理により、電気の安全性が損なわれます。

爆発の危険性

- ▶ 防爆認定機器の修理は、当社サービスまたは専門作業員が国内規制に従って実施する必要があります。
- ▶ 関連規格、危険場所に関する国内規制、安全上の注意事項および証明書に従ってください。
- ▶ 当社純正スペアパーツのみを使用してください。
- ▶ 銘板に記載された機器構成に注意してください。同等のパーツのみ交換パーツとして使用できます。
- ▶ 適切な関連資料の指示に従って修理してください。
- ▶ 認定機器を改造して別の認定バージョンに変更できるのは、当社サービス担当者に限られます。

15.1.3 電子モジュールの交換

電子モジュールを交換した場合、パラメータはハウジング内の HistoROM に保存されているため、機器を再校正する必要はありません。メイン電子モジュールの交換時には、新たに不要反射の抑制を記録しなければならない場合があります。

15.1.4 機器の交換

機器を完全に交換した場合、以下のいずれかの方法を使用してパラメータを機器に転送できます。

- 表示モジュールを使用
必須条件：交換前の機器の設定を事前に表示モジュールに保存しておくこと。
- FieldCare を使用
必須条件：FieldCare を使用して交換前の機器の設定を事前にコンピュータに保存しておくこと。

新たに校正を実施することなく、測定を継続することが可能です。不要反射の抑制のみ、再度実行しなければならない場合があります。

15.2 スペアパーツ

- 交換可能な計測機器コンポーネントの一部は、スペアパーツ銘板で確認できます。これには、スペアパーツに関する情報が含まれます。
- 機器の端子部蓋に、以下の情報が含まれるスペアパーツ銘板が付いています。
 - 計測機器の主要なスペアパーツのリスト（スペアパーツの注文情報を含む）
 - W@M デバイスビューワーの URL (www.endress.com/deviceviewer) :
計測機器のスペアパーツがすべてオーダーコードとともにリストされており、注文することが可能です。関連する設置要領書がある場合は、これをダウンロードすることもできます。

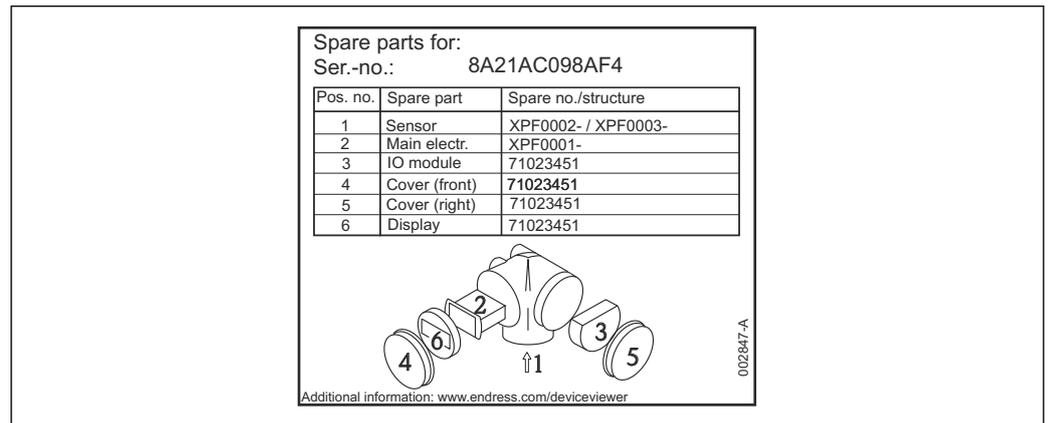


図 34 端子部蓋のスペアパーツ銘板の例

- i** 計測機器シリアル番号 :
 - 機器およびスペアパーツの銘板に記載されています。
 - 「機器情報」サブメニューの「シリアル番号」から読み取ることができます。

15.3 返却

機器の安全な返却要件は、機器の種類と各国の法によって異なります。

1. ウェブページの情報を参照してください。
<https://www.endress.com/support/return-material>
↳ 地域を選択します。
2. 機器を返却する場合、機器が衝撃や外部の影響から確実に保護されるように梱包してください。納入時の梱包材を使用すると、最適な保護効果が得られます。

15.4 廃棄

-  電子・電気機器廃棄物 (WEEE) に関する指令 2012/19/EU により必要とされる場合、分別されていない一般廃棄物として処理する WEEE を最小限に抑えるため、製品には絵文字シンボルが付いています。このマークが付いている製品は、分別しない一般ゴミとしては廃棄しないでください。代わりに、適切な条件下で廃棄するために製造者へご返送ください。

16 アクセサリ

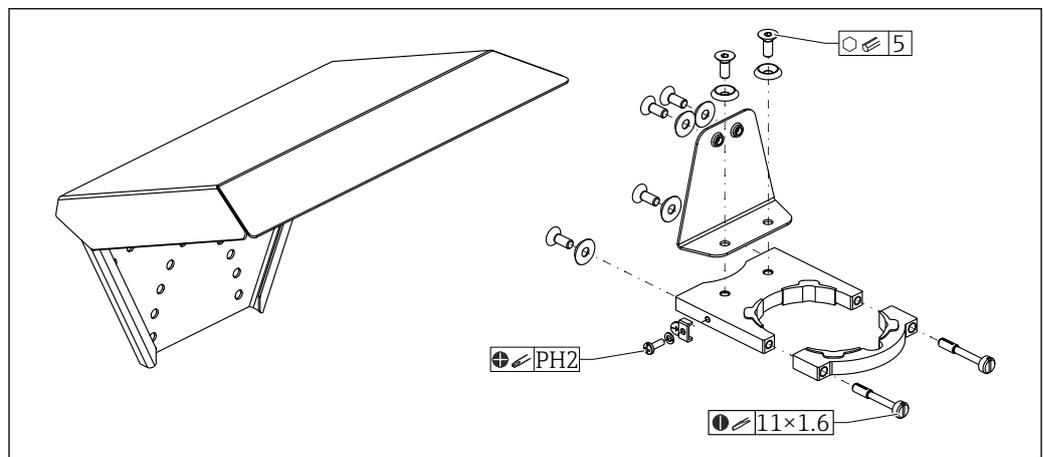
本製品向けの現行アクセサリは、www.endress.com で選択できます。

1. フィルタおよび検索フィールドを使用して製品を選択します。
2. 製品ページを開きます。
3. **Spare parts & Accessories** を選択します。

16.1 機器固有のアクセサリ

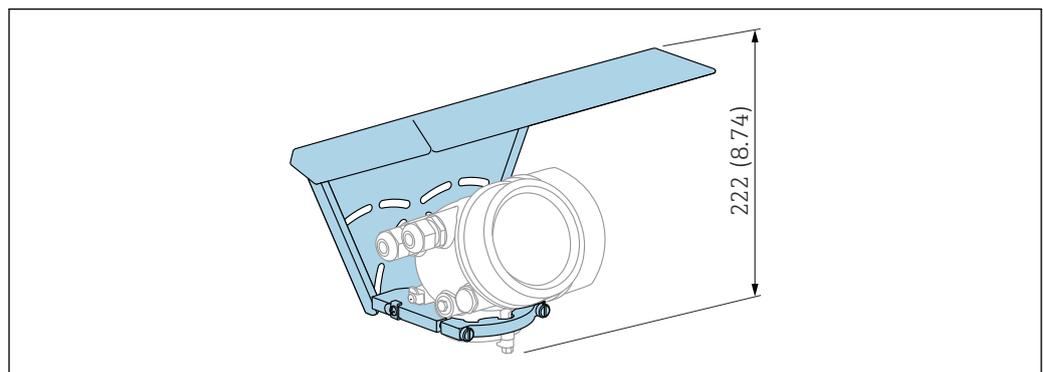
16.1.1 日除けカバー

日除けカバーは、製品構成の「同梱アクセサリ」から機器と一緒に注文できます。これは機器を直射日光、雨水、雹などから保護するために使用します。



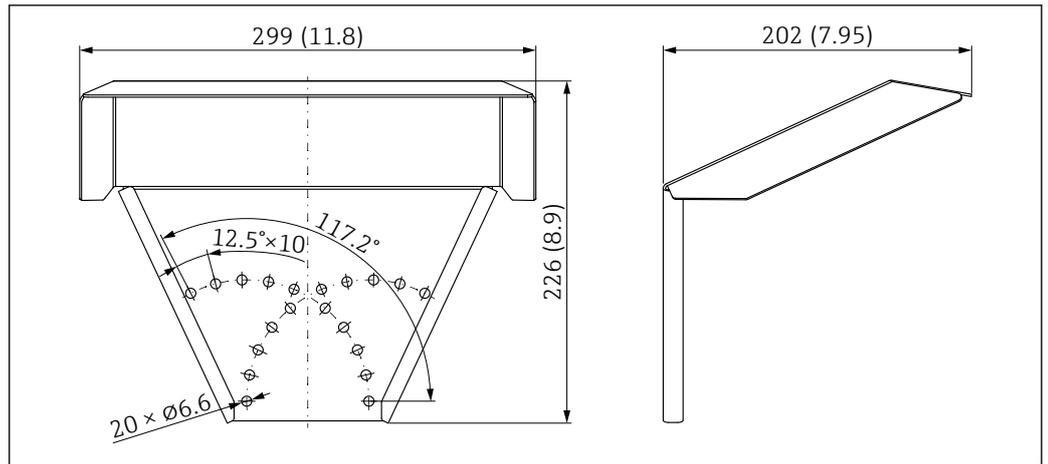
A0051672

図 35 概要



A0015466

図 36 高さ。測定単位 mm (in)



A0015472

図 37 寸法。測定単位 mm (in)

材質

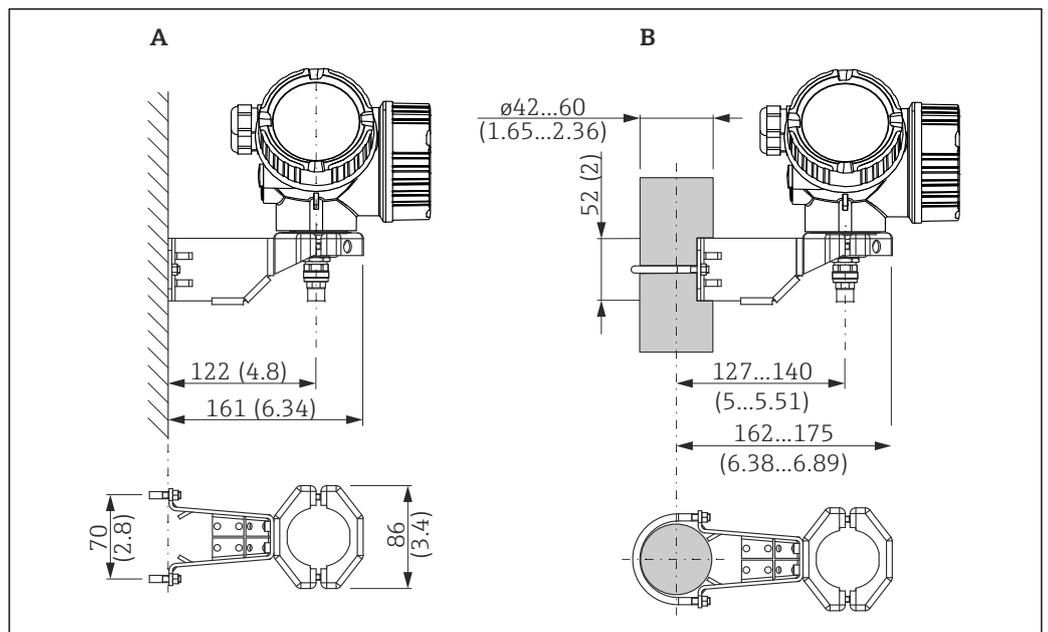
- 保護キャップ：SUS 316L 相当 (1.4404)
- ブラケット：SUS 316L 相当 (1.4404)
- アングル金具：SUS 316L 相当 (1.4404)
- 締付けねじ：SUS 316L 相当 (1.4404) + 炭素繊維
- 成形ゴム部品 (4x)：EPDM
- ネジ：A4
- ディスク：A4
- 接地端子：A4、SUS 316L 相当 (1.4404)

アクセサリのオーダー番号：

71162242

16.1.2 電子部ハウジングの取付ブラケット

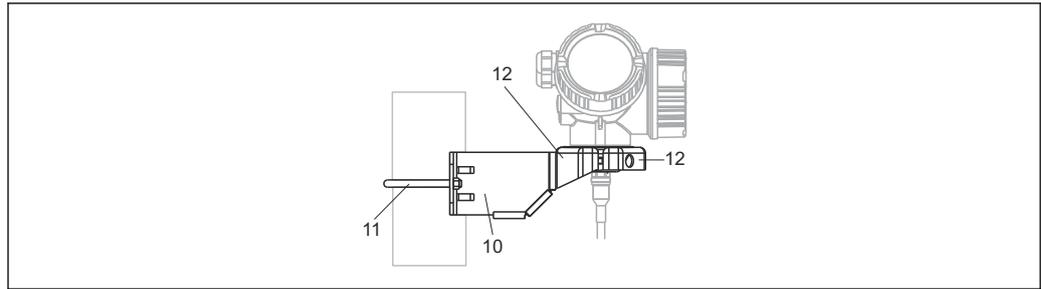
「分離型センサ」機器バージョン（製品構成の仕様コード 060）の場合、取付ブラケットは納入範囲に含まれます。別売りのアクセサリとして注文可能です。



A0014793

図 38 電子部ハウジングの取付ブラケット、単位：mm (in)

- A 壁面取付け
- B 支柱取付け



A0015143

図 39 材質：取付ブラケット

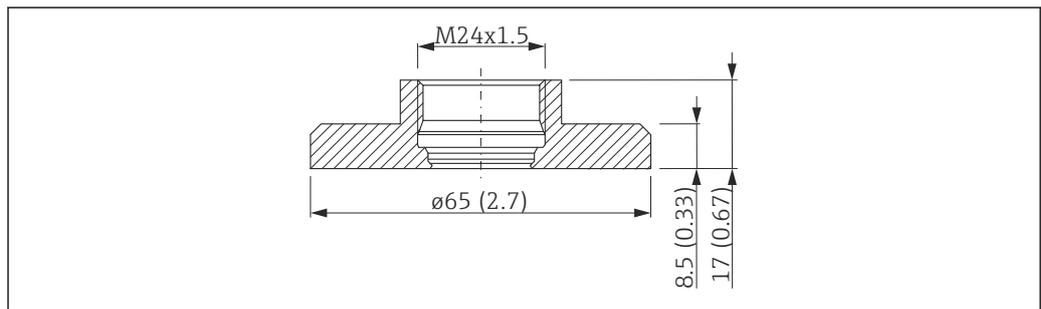
- 10 ブラケット：SUS 316L 相当 (1.4404)
- 11 円形ブラケット：SUS 316L 相当 (1.4404)、ネジ/ナット：A4-70、ディスタンススリーブ：SUS 316L 相当 (1.4404)
- 12 ハーフシェル：SUS 316L 相当 (1.4404)

アクセサリのオーダー番号：

71102216

16.1.3 溶接アダプタ

センサのフラッシュマウント設置用 M24x1.5 ネジ付き



A0012776

図 40 寸法、溶接アダプタ

- 材質：1.4435 (SUS 316L 相当)
- 質量：0.22 kg (0.48 lbs)

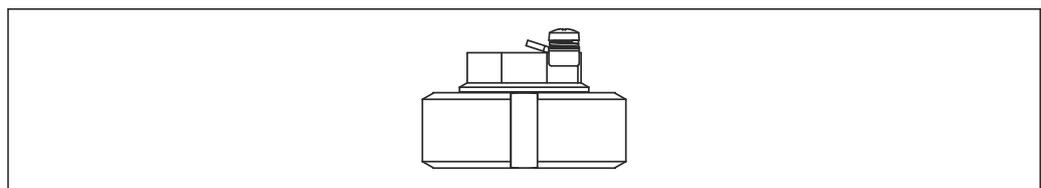
アクセサリのオーダー番号：

- 標準仕様：71041381
- 3.1 材料証明付き：71041383

 詳細については、取扱説明書 BA00361F を参照してください。

16.1.4 保護カバー

電子モジュールを取り外したときにプローブを閉じるため



A0013589

アクセサリのオーダー番号：
71041379

 詳細については、取扱説明書 BA00362F を参照してください。

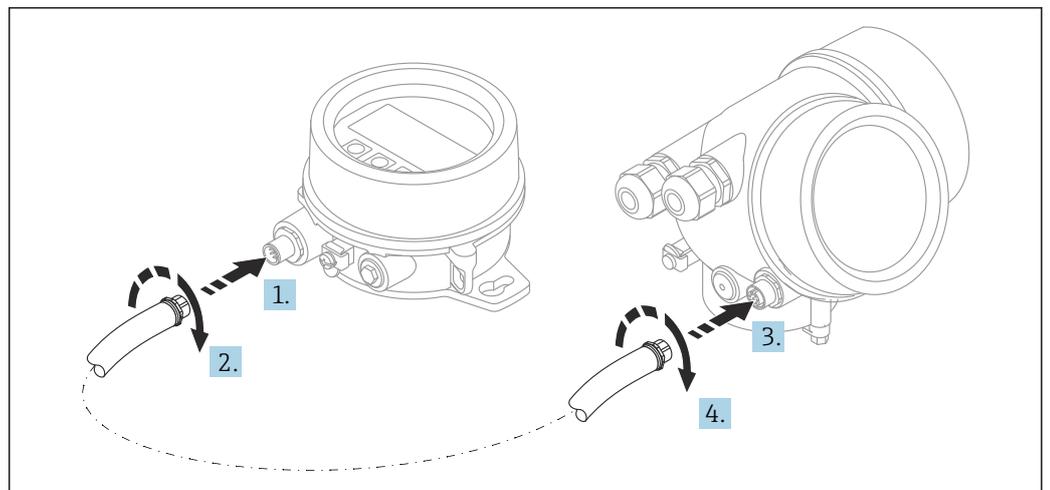
16.1.5 校正キット

校正キットは、機器の精度と再現性を定期的にテストするために使用します。

アクセサリのオーダー番号：
71041382

 詳細については、SD01003F を参照してください。

16.1.6 リモートディスプレイ FHX50



A0019128

技術データ

- 材質：
 - プラスチック PBT
 - SUS 316L 相当/1.4404
 - アルミニウム
- 保護等級：IP68 / NEMA 6P および IP66 / NEMA 4x
- 表示モジュールに適合：
 - SD02 (プッシュボタン)
 - SD03 (タッチコントロール)
- 接続ケーブル：
 - 機器の付属ケーブル、最大 30 m (98 ft)
 - ユーザー側で用意する標準ケーブル、最大 60 m (196 ft)
- 周囲温度：-40～80 °C (-40～176 °F)
- 周囲温度 (オプション)：-50～80 °C (-58～176 °F)
 - **注記** 温度が恒久的に -40 °C (-40 °F) 以下になる場合、故障率が高まる可能性があります。

注文情報

- リモートディスプレイを使用する場合は、機器バージョン「ディスプレイ FHX50 用」を注文する必要があります。
FHX50 を注文する場合は、「計測機器バージョン」で「ディスプレイ FHX50 用」オプションを選択する必要があります。
- 「ディスプレイ FHX50 用」バージョンで注文しなかった計測機器に FHX50 を後付けする場合は、FHX50 の注文時に「計測機器バージョン」は「ディスプレイ FHX50 以外」を選択してください。この場合、機器の改造キットが FHX50 と一緒に納入されます。このキットにより、FHX50 が使用できるように機器を準備することが可能です。

i 認定を取得した変換器の場合、FHX50 の使用が制限される場合があります。機器に FHX50 を後付けできるのは、機器の安全上の注意事項 (XA) の基本仕様、「表示部/操作部」にオプション「FHX50 用」が記載されている場合だけです。

FHX50 の安全上の注意事項 (XA) も参照してください。

以下の変換器には後付けできません。

- 可燃性粉塵のある領域で使用するための認定機器 (粉塵防爆認定)
- Ex nA 保護タイプ

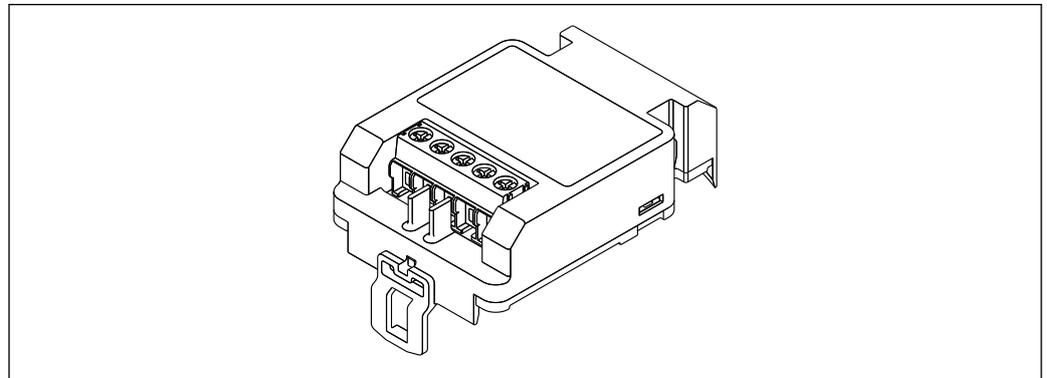
i 詳細については、個別説明書 (SD01007F) を参照してください。

16.1.7 過電圧保護

ループ電源機器用のサージアレスタは、製品注文コードの「取付け済みアクセサリ」セクションを使用して機器と一緒に注文できます。

サージアレスタは、ループ電源機器に使用できます。

- 1チャンネル機器 - OVP10
- 2チャンネル機器 - OVP20



A0021734

技術データ

- 1チャンネル当たりの抵抗： $2 \times 0.5 \Omega_{\max}$
- DC 電圧しきい値：400~700 V
- サージ電圧しきい値：< 800 V
- 1 MHz の静電容量：< 1.5 pF
- 公称漏れ電流 (8/20 μ s)：10 kA
- 導体断面積に適合：0.2~2.5 mm² (24~14 AWG)

後付けの場合：

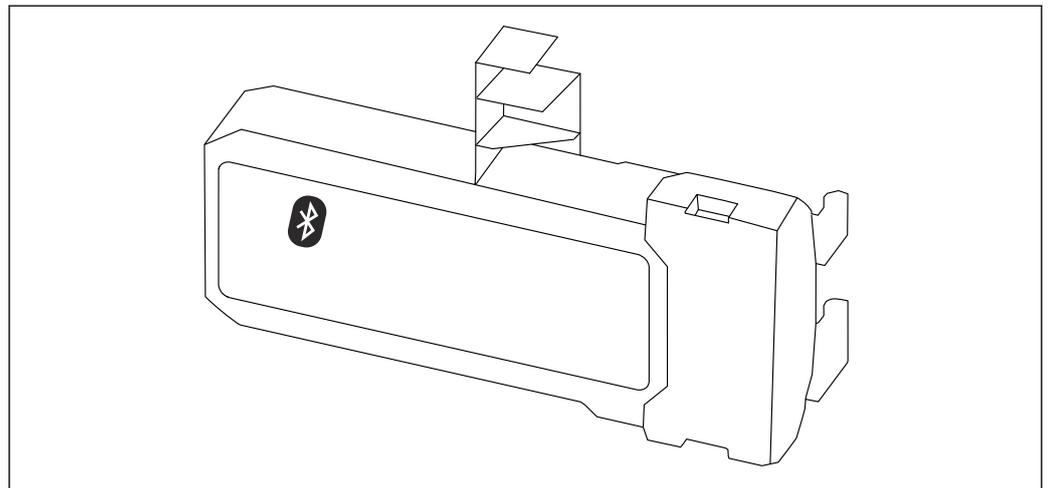
- 1 チャンネル機器 (OVP10) のオーダー番号：71128617
- 2 チャンネル機器 (OVP20) のオーダー番号：71128619
- 変換器の認定に応じて、OVP モジュールの使用が制限される場合があります。関連する安全上の注意事項 (XA) のオプション仕様に、オプション NA (過電圧保護) と記載されている機器にのみ OVP モジュールを後付けできます。
- サージアRESTAモジュールの使用時に必要な安全距離を保つには、機器に後付けした際にハウジングカバーも交換する必要があります。
以下のオーダー番号を使用して、ハウジングタイプに応じた適切なカバーを注文できます。
 - ハウジング GT18：71185516
 - ハウジング GT19：71185518
 - ハウジング GT20：71185517



詳細については、個別説明書 SD01090F を参照してください。

16.1.8 HART 機器用の Bluetooth モジュール BT10

Bluetooth モジュール BT10 は、製品注文コードの「取付け済みアクセサリ」セクションを使用して機器と一緒に注文できます。



A0036493

技術データ

- SmartBlue アプリによる迅速かつ容易な設定
- 追加のツールまたはアダプタは不要
- SmartBlue (アプリ) 経由の信号カーブ
- 暗号化されたシングル・ポイントツーポイント・データ伝送 (Fraunhofer Institute による試験済み) および Bluetooth® ワイヤレス技術を利用した、パスワード保護された通信
- 基準条件下の範囲：
> 10 m (33 ft)
- Bluetooth モジュールを使用する場合は、機器の最小供給電圧が最大 3 V 上昇します。

後付けの場合：

- オーダー番号：71377355
- 変換器の認定に応じて、Bluetooth モジュールの使用が制限される場合があります。関連する安全上の注意事項 (XA) のオプション仕様に、オプション NF (Bluetooth モジュール) と記載されている機器にのみ Bluetooth モジュールを組み込むことができます。



詳細については、個別説明書 SD02252F を参照してください。

16.2 通信関連のアクセサリ

Commubox FXA195 HART

USB インターフェイスによる FieldCare との本質安全 HART 通信用です。

 詳細については、「技術仕様書」TI00404F を参照してください。

Commubox FXA291

CDI インターフェイス (= Endress+Hauser Common Data Interface) 付きの Endress +Hauser 製フィールド機器とコンピュータまたはノートパソコンの USB ポートを接続します。

オーダー番号 : 51516983

 詳細については、「技術仕様書」TI00405C を参照してください。

HART ループコンバータ HMX50

ダイナミック HART プロセス変数からアナログ電流信号またはリミット値への演算および変換のために使用されます。

オーダー番号 : 71063562

 詳細については、「技術仕様書」TI00429F および「取扱説明書」BA00371F を参照してください。

WirelessHART アダプタ SWA70

- フィールド機器の無線接続に使用します
- WirelessHART アダプタは、容易にフィールド機器や既存設備に統合できます。データ保護および伝送の安全性を確保し、その他の無線ネットワークと同時に使用できます

 詳細については、「取扱説明書」BA00061S を参照してください。

Fieldgate FXA42

Fieldgates により、接続された 4~20 mA、Modbus RS485 および Modbus TCP 機器と SupplyCare Hosting または SupplyCare Enterprise との通信が可能になります。信号は Ethernet TCP/IP、WLAN またはモバイル通信 (UMTS) を介して伝送されます。統合された Web-PLC、OpenVPN、その他の機能など、高度な自動化能力に対応します。

 詳細については、「技術仕様書」TI01297S および「取扱説明書」BA01778S を参照してください。

SupplyCare Enterprise SCE30B

タンクのレベル、体積、質量、温度、圧力、密度、またはその他のパラメータを表示する在槽管理ソフトウェア。パラメータは記録され、Fieldgate FXA42、Connect Sensor FXA30B またはその他のタイプのゲートウェイを使用して伝送されます。

このウェブベースのソフトウェアはローカルサーバーにインストールされ、スマートフォンやタブレット端末などのモバイル端末を使用して視覚化および操作することも可能です。

 詳細については、技術仕様書 TI01228S および 取扱説明書 BA00055S を参照してください。

SupplyCare Hosting SCH30

タンクのレベル、体積、質量、温度、圧力、密度、またはその他のパラメータを表示する在槽管理ソフトウェア。パラメータは記録され、Fieldgate FXA42、Connect Sensor FXA30B またはその他のタイプのゲートウェイを使用して伝送されます。

SupplyCare Hosting はホスティングサービス (サービスとしてのソフトウェア、SaaS) として提供されます。Endress+Hauser ポータルから、インターネットを介してユーザーにデータが提供されます。

 詳細については、技術仕様書 TI01229S および 取扱説明書 BA00050S を参照してください。

Field Xpert SFX350

Field Xpert SFX350 は、設定およびメンテナンス用のモバイルコンピュータです。**非危険場所**での HART および FOUNDATION フィールドバス機器の効率的な機器設定および診断が可能です。

 詳細については、「取扱説明書」BA01202S を参照してください。

Field Xpert SFX370

Field Xpert SFX370 は、設定およびメンテナンス用のモバイルコンピュータです。**非危険場所**および**危険場所**での HART および FOUNDATION フィールドバス機器の効率的な機器設定および診断が可能です。

 詳細については、「取扱説明書」BA01202S を参照してください。

16.3 サービス関連のアクセサリ

DeviceCare SFE100

HART、PROFIBUS、FOUNDATION フィールドバス機器の設定ツール

 技術仕様書 TI01134S

FieldCare SFE500

FDT ベースのプラントアセットマネジメントツール

システム内にあるすべての高性能フィールド機器を設定し、その管理をサポートすることが可能です。ステータス情報を使用することにより、ステータスと状態を簡単かつ効果的にチェックすることができます。

 技術仕様書 TI00028S

16.4 システムコンポーネント

16.4.1 Memograph M RSG45

高機能データマネージャは、プロセス値を処理するための柔軟で強力なシステムです。

Memograph M は、電気信号の受信、表示、記録、分析、伝送、アナログ/デジタル入力信号および計算値の保存のために使用します。

 技術仕様書 TI01180R および取扱説明書 BA01338R

16.4.2 RN42

広範囲の電源に対応する 1 チャンネルアクティブバリアであり、4~20 mA 標準信号回路の安全な電氣的絶縁、HART スルーなどの機能を備えます。

 技術仕様書 TI01584K および取扱説明書 BA02090K

17 操作メニュー

17.1 操作メニューの概要 (SmartBlue)

ナビゲーション  SmartBlue

設定	→  105
デバイスのタグ	→  105
距離の単位	→  105
タンクタイプ	→  105
パイプ直径	→  106
測定物グループ	→  106
空校正	→  107
満量校正	→  107
レベル	→  108
距離	→  108
信号品質	→  109
距離の確定	→  110
現在のマッピング	→  111
マッピングの最終点	→  111
マップ記録	→  111
▶ 高度な設定	→  113
ロック状態	→  113
アクセスステータス ツール	→  113
アクセスコード入力	→  114
▶ レベル	→  115
測定物タイプ	→  115

測定物特性	→ 115
プロセス特性	→ 116
高度なプロセス条件	→ 117
レベル単位	→ 118
不感知距離	→ 118
レベル補正	→ 119
▶ リニアライゼーション	→ 121
リニアライゼーションの方式	→ 123
リニアライゼーション後の単位	→ 124
フリーテキスト	→ 125
リニアライゼーションされたレベル	→ 126
最大値	→ 126
直径	→ 126
中間高さ	→ 127
テーブルモード	→ 127
テーブル番号	→ 128
レベル	→ 128
レベル	→ 129
ユーザー様の値	→ 129
テーブルを有効にする	→ 129
▶ プローブ設定	→ 135
プローブ接地	→ 135
実際のプローブ長	→ 135
プローブ長の確認	→ 136

▶ 安全設定	→ 130
出力エコー信号消失	→ 130
エコー信号消失時の値	→ 130
エコー信号消失時急上昇	→ 131
不感知距離	→ 118
▶ 電流出力 1~2	→ 139
電流出力の割り当て	→ 139
電流スパン	→ 140
固定電流値	→ 140
出力のダンピング	→ 141
フェールセーフモード	→ 141
故障時の電流値	→ 142
出力電流 1~2	→ 142
▶ スイッチ出力	→ 143
スイッチ出力機能	→ 143
ステータスの割り当て	→ 144
リミットの割り当て	→ 144
診断動作の割り当て	→ 144
スイッチオンの値	→ 145
スイッチオンの遅延	→ 146
スイッチオフの値	→ 146
スイッチオフの遅延	→ 147
フェールセーフモード	→ 147

スイッチの状態	→ 147
出力信号の反転	→ 147
診断	→ 161
現在の診断結果	→ 161
タイムスタンプ	→ 161
前回の診断結果	→ 161
タイムスタンプ	→ 162
再起動からの稼動時間	→ 162
稼動時間	→ 155
▶ 診断リスト	→ 163
診断 1~5	→ 163
タイムスタンプ 1~5	→ 163
▶ 測定値	→ 168
距離	→ 108
リニアライゼーションされたレベル	→ 126
出力電流 1~2	→ 142
測定した電流 1	→ 169
端子電圧 1	→ 169
▶ 機器情報	→ 165
デバイスのタグ	→ 165
シリアル番号	→ 165
ファームウェアのバージョン	→ 165
機器名	→ 165
オーダーコード	→ 166
拡張オーダーコード 1~3	→ 166

機器リビジョン	→ 166
機器 ID	→ 166
機器タイプ	→ 167
製造者 ID	→ 167
▶ シミュレーション	→ 174
測定値の割り当て	→ 175
測定値	→ 175
電流出力 1~2 のシミュレーション	→ 175
電流出力 1~2 の値	→ 176
シミュレーションスイッチ出力	→ 176
スイッチの状態	→ 176
機器アラームのシミュレーション	→ 177

17.2 操作メニューの概要（表示モジュール）

ナビゲーション  操作メニュー

Language	
設定	→ 105
デバイスのタグ	→ 105
距離の単位	→ 105
タンクタイプ	→ 105
パイプ直径	→ 106
測定物グループ	→ 106
空校正	→ 107
満量校正	→ 107
レベル	→ 108
距離	→ 108
信号品質	→ 109
▶ マッピング	→ 112
距離の確定	→ 112
マッピングの最終点	→ 112
マップ記録	→ 112
距離	→ 112
▶ 高度な設定	→ 113
ロック状態	→ 113
アクセスステータス表示	→ 114
アクセスコード入力	→ 114
▶ レベル	→ 115
測定物タイプ	→ 115

測定物特性	→ 115
プロセス特性	→ 116
高度なプロセス条件	→ 117
レベル単位	→ 118
不感知距離	→ 118
レベル補正	→ 119
▶ リニアライゼーション	→ 121
リニアライゼーションの方式	→ 123
リニアライゼーション後の単位	→ 124
フリーテキスト	→ 125
最大値	→ 126
直径	→ 126
中間高さ	→ 127
テーブルモード	→ 127
▶ テーブルの編集	
レベル	
ユーザー様の値	
テーブルを有効にする	→ 129
▶ 安全設定	→ 130
出力エコー信号消失	→ 130
エコー信号消失時の値	→ 130
エコー信号消失時急上昇	→ 131
不感知距離	→ 118
▶ SIL/WHG 確認	→ 133

▶ SIL/WHG 無効	→ 134
書き込み保護のリセット	→ 134
不適切なコード	→ 134
▶ プローブ設定	→ 135
プローブ接地	→ 135
▶ プローブ長の補正	→ 137
プローブ長の確認	→ 137
実際のプローブ長	→ 135
▶ 電流出力 1~2	→ 139
電流出力の割り当て	→ 139
電流スパン	→ 140
固定電流値	→ 140
出力のダンピング	→ 141
フェールセーフモード	→ 141
故障時の電流値	→ 142
出力電流 1~2	→ 142
▶ スイッチ出力	→ 143
スイッチ出力機能	→ 143
ステータスの割り当て	→ 144
リミットの割り当て	→ 144
診断動作の割り当て	→ 144
スイッチオンの値	→ 145
スイッチオンの遅延	→ 146
スイッチオフの値	→ 146
スイッチオフの遅延	→ 147

フェールセーフモード	→ 147
スイッチの状態	→ 147
出力信号の反転	→ 147
▶ 表示	→ 149
Language	→ 149
表示形式	→ 149
1~4 の値表示	→ 151
小数点桁数 1~4	→ 151
表示間隔	→ 151
表示のダンピング	→ 152
ヘッダー	→ 152
ヘッダーテキスト	→ 152
区切り記号	→ 153
数値形式	→ 153
小数点桁数メニュー	→ 153
バックライト	→ 153
表示のコントラスト	→ 154
▶ 設定バックアップの表示	→ 155
稼動時間	→ 155
最後のバックアップ	→ 155

設定管理	→ 155
比較の結果	→ 156
▶ 管理	→ 158
▶ アクセスコード設定	→ 160
アクセスコード設定	→ 160
アクセスコードの確認	→ 160
機器リセット	→ 158
🔍 診断	→ 161
現在の診断結果	→ 161
前回の診断結果	→ 161
再起動からの稼働時間	→ 162
稼働時間	→ 155
▶ 診断リスト	→ 163
診断 1~5	→ 163
▶ イベントログブック	→ 164
フィルタオプション	
▶ イベントリスト	→ 164
▶ 機器情報	→ 165
デバイスのタグ	→ 165
シリアル番号	→ 165
ファームウェアのバージョン	→ 165
機器名	→ 165
オーダーコード	→ 166
拡張オーダーコード 1~3	→ 166
機器リビジョン	→ 166

機器 ID	→ 166
機器タイプ	→ 167
製造者 ID	→ 167
▶ 測定値	→ 168
距離	→ 108
リニアライゼーションされたレベル	→ 126
出力電流 1~2	→ 142
測定した電流 1	→ 169
端子電圧 1	→ 169
▶ データのログ	→ 170
チャンネル 1~4 の割り当て	→ 170
ロギングの時間間隔	→ 171
すべてのログをリセット	→ 171
▶ チャンネル 1~4 表示	→ 172
▶ シミュレーション	→ 174
測定値の割り当て	→ 175
測定値	→ 175
電流出力 1~2 のシミュレーション	→ 175
電流出力 1~2 の値	→ 176
シミュレーションスイッチ出力	→ 176
スイッチの状態	→ 176
機器アラームのシミュレーション	→ 177
▶ 機器チェック	→ 178
機器チェック開始	→ 178
機器チェックの結果	→ 178

前回のチェック時刻	→ 178
レベル信号	→ 179
開始信号	→ 179

17.3 操作メニューの概要（操作ツール）

ナビゲーション  操作メニュー

設定	→  105
デバイスのタグ	→  105
距離の単位	→  105
タンクタイプ	→  105
パイプ直径	→  106
測定物グループ	→  106
空校正	→  107
満量校正	→  107
レベル	→  108
距離	→  108
信号品質	→  109
距離の確定	→  110
現在のマッピング	→  111
マッピングの最終点	→  111
マップ記録	→  111
▶ 高度な設定	→  113
ロック状態	→  113
アクセスステータス ツール	→  113
アクセスコード入力	→  114
▶ レベル	→  115
測定物タイプ	→  115
測定物特性	→  115
プロセス特性	→  116

高度なプロセス条件	→ 117
レベル単位	→ 118
不感知距離	→ 118
レベル補正	→ 119
▶ リニアライゼーション	→ 121
リニアライゼーションの方式	→ 123
リニアライゼーション後の単位	→ 124
フリーテキスト	→ 125
リニアライゼーションされたレベル	→ 126
最大値	→ 126
直径	→ 126
中間高さ	→ 127
テーブルモード	→ 127
テーブル番号	→ 128
レベル	→ 128
レベル	→ 129
ユーザー様の値	→ 129
テーブルを有効にする	→ 129
▶ 安全設定	→ 130
出力エコー信号消失	→ 130
エコー信号消失時の値	→ 130
エコー信号消失時急上昇	→ 131
不感知距離	→ 118
▶ SIL/WHG 確認	→ 133

▶ SIL/WHG 無効	→ 134
書き込み保護のリセット	→ 134
不適切なコード	→ 134
▶ プローブ設定	→ 135
プローブ接地	→ 135
実際のプローブ長	→ 135
プローブ長の確認	→ 136
▶ 電流出力 1~2	→ 139
電流出力の割り当て	→ 139
電流スパン	→ 140
固定電流値	→ 140
出力のダンピング	→ 141
フェールセーフモード	→ 141
故障時の電流値	→ 142
出力電流 1~2	→ 142
▶ スイッチ出力	→ 143
スイッチ出力機能	→ 143
ステータスの割り当て	→ 144
リミットの割り当て	→ 144
診断動作の割り当て	→ 144
スイッチオンの値	→ 145
スイッチオンの遅延	→ 146
スイッチオフの値	→ 146
スイッチオフの遅延	→ 147
フェールセーフモード	→ 147

スイッチの状態	→ 147
出力信号の反転	→ 147
▶ 表示	→ 149
Language	→ 149
表示形式	→ 149
1~4 の値表示	→ 151
小数点桁数 1~4	→ 151
表示間隔	→ 151
表示のダンピング	→ 152
ヘッダー	→ 152
ヘッダーテキスト	→ 152
区切り記号	→ 153
数値形式	→ 153
小数点桁数メニュー	→ 153
バックライト	→ 153
表示のコントラスト	→ 154
▶ 設定バックアップの表示	→ 155
稼動時間	→ 155
最後のバックアップ	→ 155
設定管理	→ 155

バックアップのステータス	→ 156
比較の結果	→ 156
▶ 管理	→ 158
アクセスコード設定	
機器リセット	→ 158
🔍 診断	→ 161
現在の診断結果	→ 161
タイムスタンプ	→ 161
前回の診断結果	→ 161
タイムスタンプ	→ 162
再起動からの稼働時間	→ 162
稼働時間	→ 155
▶ 診断リスト	→ 163
診断 1~5	→ 163
タイムスタンプ 1~5	→ 163
▶ 機器情報	→ 165
デバイスのタグ	→ 165
シリアル番号	→ 165
ファームウェアのバージョン	→ 165
機器名	→ 165
オーダーコード	→ 166
拡張オーダーコード 1~3	→ 166
機器リビジョン	→ 166
機器 ID	→ 166

機器タイプ	→ 167
製造者 ID	→ 167
▶ 測定値	→ 168
距離	→ 108
リニアライゼーションされたレベル	→ 126
出力電流 1~2	→ 142
測定した電流 1	→ 169
端子電圧 1	→ 169
▶ データのログ	→ 170
チャンネル 1~4 の割り当て	→ 170
ロギングの時間間隔	→ 171
すべてのログをリセット	→ 171
▶ シミュレーション	→ 174
測定値の割り当て	→ 175
測定値	→ 175
電流出力 1~2 のシミュレーション	→ 175
電流出力 1~2 の値	→ 176
シミュレーションスイッチ出力	→ 176
スイッチの状態	→ 176
機器アラームのシミュレーション	→ 177
▶ 機器チェック	→ 178
機器チェック開始	→ 178
機器チェックの結果	→ 178
前回のチェック時刻	→ 178

レベル信号	→ 179
開始信号	→ 179
▶ Heartbeat	→ 180

17.4 「設定」メニュー

- 
 - : 表示モジュールおよび操作モジュールを使用してパラメータに移動する方法を示します。
 - : 操作ツール（FieldCare など）を使用してパラメータに移動する方法を示します。
 - : アクセスコードを使用してロックできるパラメータを示します。

ナビゲーション   設定

デバイスのタグ

ナビゲーション	  設定 → デバイスのタグ
説明	プラント内で迅速に機器を識別するために、測定点における固有の名前を入力して下さい。
ユーザー入力	数字、英字、特殊文字からなる文字列 (32)

距離の単位

ナビゲーション	  設定 → 距離の単位				
説明	基本校正（空校正/満量校正）に使用				
選択	<table> <tr> <td>SI 単位</td> <td>US 単位</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ▪ mm ▪ m </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ▪ ft ▪ in </td> </tr> </table>	SI 単位	US 単位	<ul style="list-style-type: none"> ▪ mm ▪ m 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ft ▪ in
SI 単位	US 単位				
<ul style="list-style-type: none"> ▪ mm ▪ m 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ft ▪ in 				

タンクタイプ

ナビゲーション	  設定 → タンクタイプ
必須条件	測定物タイプ (→  115) = 液体 に設定します。
説明	タンクタイプを選択します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 金属 ▪ 外筒管 ▪ 非金属 ▪ 外部取り付け ▪ コアキシャル
工場出荷時設定	プローブに応じて異なります。

追加情報

- プローブに応じて異なります。前述のオプションの一部を使用できない場合や、追加オプションが用意されている場合があります。
- コアキシャルプローブおよびまたは金属製センタリングディスクを持つプローブでは、**タンクタイプ**パラメータはプローブの種類に対応し、変更することができません。

パイプ直径 🔒

ナビゲーション

🔍🔍 設定 → パイプ直径

必須条件

タンクタイプ (→ 📄 105) = **外筒管**

説明

外筒管または内筒管の直径を設定します。

ユーザー入力

0~9.999 m

測定物グループ 🔒

ナビゲーション

🔍🔍 設定 → 測定物グループ

必須条件

測定物タイプ (→ 📄 115) = **液体** に設定します。

説明

測定物グループを選択します。

選択

- その他
- 水ベース (DC >= 4)

追加情報

このパラメータには、測定物の大まかな比誘電率 (DC 値) を指定します。DC をより詳細に定義するには、**測定物特性**パラメータ (→ 📄 115)を使用します。

測定物グループパラメータの**測定物特性**パラメータ (→ 📄 115)の工場設定は、次のとおりです。

測定物グループ	測定物特性 (→ 📄 115)
その他	不明
水ベース (DC >= 4)	DC 4 ... 7

i **測定物特性**パラメータは、後から変更できます。しかし、その場合、**測定物グループ**パラメータの値は保たれます。**測定物特性**パラメータのみが信号評価に関係します。

i 比誘電率が小さい場合、測定範囲が減少することがあります。詳細については、各機器の技術仕様書 (TI) を参照してください。

空校正



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 空校正

説明

プロセス接続から最小レベル (0%) までの距離

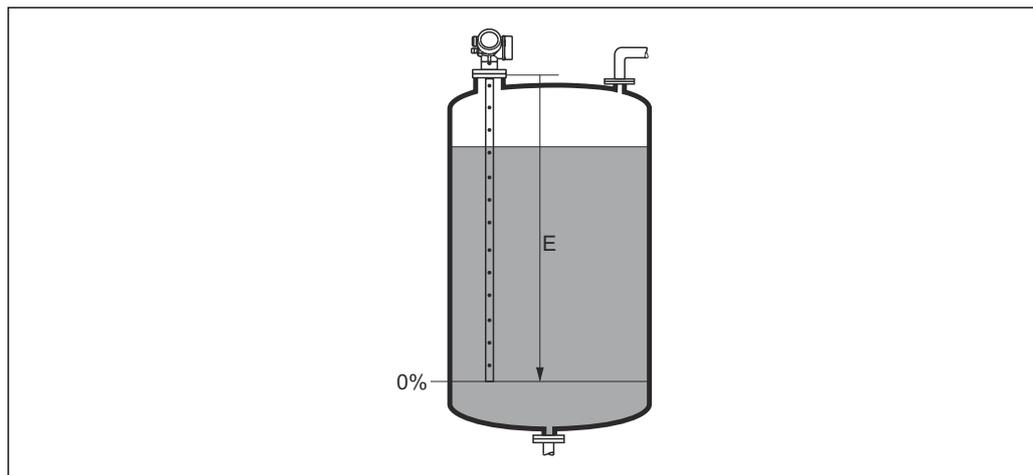
ユーザー入力

プローブに応じて異なります。

工場出荷時設定

プローブに応じて異なります。

追加情報



A0013178

☑ 41 液体レベル測定用の空校正 (E)

満量校正



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 満量校正

説明

最小値 (0%) から最大値 (100%) までの距離

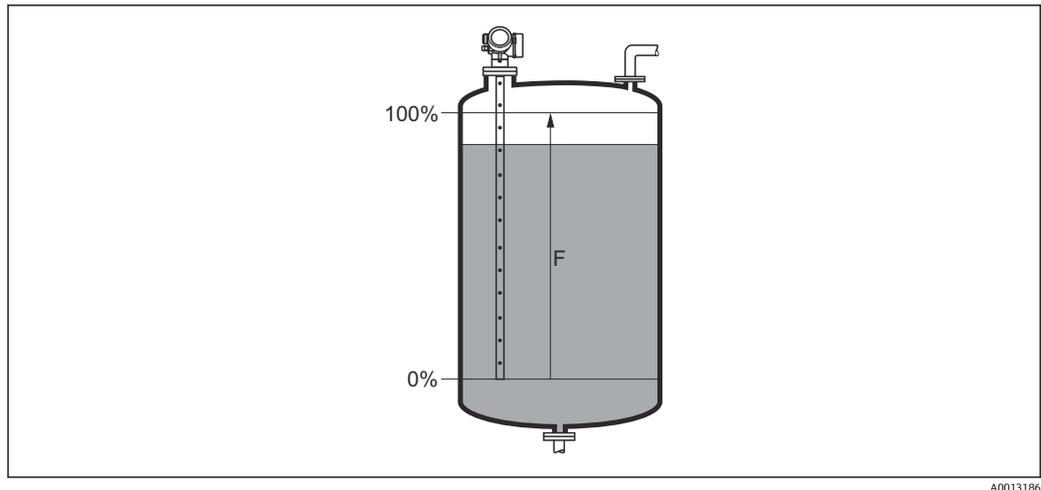
ユーザー入力

プローブに応じて異なります。

工場出荷時設定

プローブに応じて異なります。

追加情報



A0013186

図 42 液体レベル測定用の満量校正 (F)

レベル

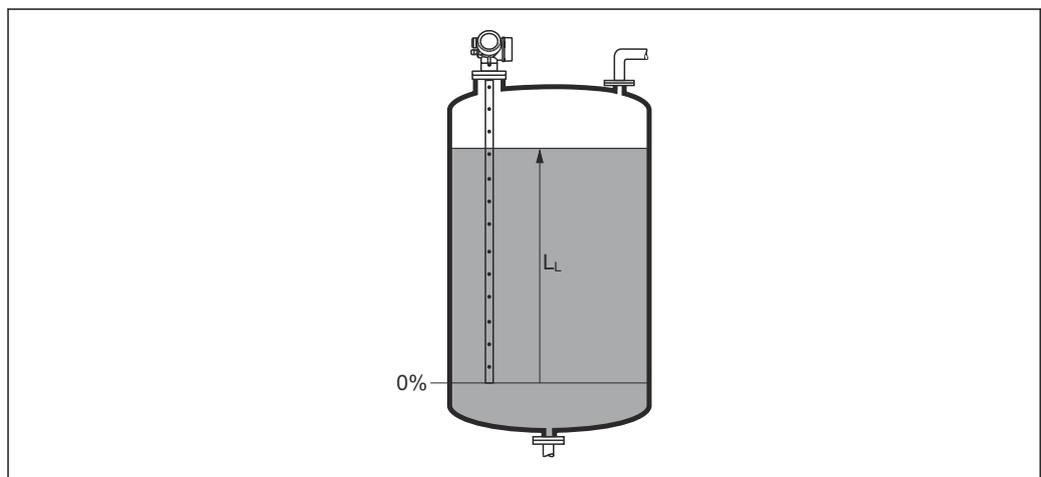
ナビゲーション

☰☰ 設定 → レベル

説明

測定レベル L_L (リニアライゼーションの前) を表示します。

追加情報



A0013194

図 43 液体計測時のレベル

i 単位は、**レベル単位** パラメータ (→ ☰ 118) で設定します。

距離

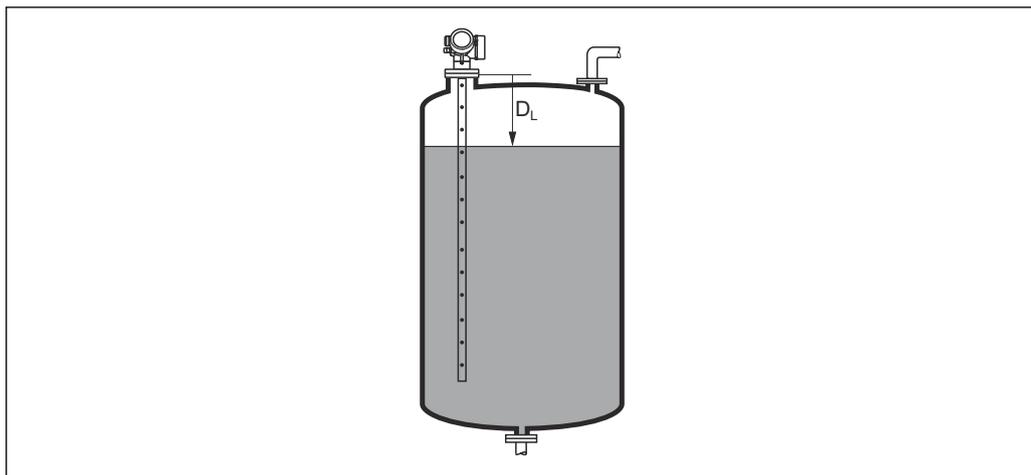
ナビゲーション

☰☰ 設定 → 距離

説明

測定基準点 (フランジまたはネジ込み接続の下端) からレベルまでの測定距離 D_L を表示します。

追加情報



A0013198

図 44 液体計測の距離

i 単位は、**距離の単位** パラメータ (→ 図 105) で設定します。

信号品質

ナビゲーション

設定 → 信号品質

説明

評価されたエコーの信号品質を表示します。

追加情報

表示選択の説明

- **強い**
評価されたエコーが、しきい値を 10 mV 以上超えています。
- **測定物**
評価されたエコーが、しきい値を 5 mV 以上超えています。
- **弱い**
評価されたエコーが、しきい値を 5 mV 未満超えています。
- **信号なし**
機器は有効なエコーを検出していません。

このパラメータで示される信号品質は、常に現在評価されているエコー、つまりレベル/界面エコー¹⁾、またはプローブ終端エコーのどちらかに対応します。この2つを区別するために、プローブ終端エコーは必ずカッコ内に表示されます。

i 反射がない場合 (**信号品質 = 信号なし**)、機器は以下のエラーメッセージを生成します。

- F941 : 出力エコー信号消失 (→ 図 130) = アラームの場合
- S941 : 出力エコー信号消失 (→ 図 130) で別のオプションが選択されている場合

1) 2つのうち品質が低い方

距離の確定



ナビゲーション

設定 → 距離の確定

説明

測定距離が実際の距離と一致するかどうかを設定します。
 選択項目に応じて、機器は自動的にマッピングレンジを設定します。

選択

- 手動マップ
- 距離 OK
- 距離不明
- 距離が短かすぎる^{*}
- 距離が長すぎる^{*}
- タンク空
- マップ削除

追加情報

選択項目の説明

- **手動マップ**
 マッピング範囲を選択することは、**マッピングの最終点** パラメータ (→ 111) を手動で定義することです。この場合、距離を確認する必要はありません。
 - **距離 OK**
 測定距離が実際の距離と一致している場合に選択します。機器はマッピングを実施します。
 - **距離不明**
 実際の距離が不明な場合に選択します。この場合、マッピングは実施できません。
 - **距離が短かすぎる**
 測定距離が実際の距離より短い場合に選択します。機器は次のエコーを探し、**距離の確定** パラメータに戻ります。距離の最計算が行なわれ、表示されます。表示された距離が実際の距離と一致するまで、比較を繰り返す必要があります。この後、**距離 OK** を選択するとマップの記録が開始されます。
 - **距離が長すぎる²⁾**
 測定距離が実際の距離を超過している場合に選択します。機器は信号の評価を調整し、**距離の確定** パラメータに戻ります。距離の最計算が行なわれ、表示されます。表示された距離が実際の距離と一致するまで、比較を繰り返す必要があります。この後、**距離 OK** を選択するとマップの記録が開始されます。
 - **タンク空**
 タンクが完全に空の場合に選択します。機器は測定範囲全体をカバーするマッピングを記録します。
 タンクが完全に空の場合に選択します。機器は **LN までマップのギャップ** を差し引いた測定範囲全体をカバーするマッピングを記録します。
 - **工場出荷時のマッピング**
 現在のマッピングカーブ (マッピングが記録されている場合) を削除する場合に選択します。機器は、**距離の確定** パラメータに戻り、新しいマッピングを記録できます。
- 表示モジュールを使用して操作している場合、参照用に、このパラメータと一緒に測定距離が表示されます。
- 距離を確認する前に、学習プロセス「**距離が短かすぎる オプション**」または「**距離が長すぎる オプション**」が終了した場合、マップは記録されず、学習プロセスは 60 秒後にリセットされます。

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

2) 「エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード パラメータ」 = 「短期履歴」または「長期履歴」の場合にのみ使用可能

現在のマッピング

ナビゲーション	 設定 → 現在のマッピング
説明	マッピングがすでにどの距離まで記録されているかを示します。

マッピングの最終点

ナビゲーション	 設定 → マッピングの最終点
必須条件	距離の確定 (→  110) = 手動マップ または 距離が短かすぎる
説明	マッピングの新しい最終点を設定します。
ユーザー入力	0~200 000.0 m
追加情報	<p>新しいマッピングをどの距離まで記録するかを設定します。測定基準点(フランジの取付部分またはネジ接続の下端)からの距離を測定します。</p> <p> 参照用に、現在のマッピング パラメータ (→  111)がこのパラメータと一緒に表示されます。これはマッピングがすでにどの距離まで記録されているかを示します。</p>

マップ記録

ナビゲーション	 設定 → マップ記録
必須条件	距離の確定 (→  110) = 手動マップ または 距離が短かすぎる
説明	マップの記録を開始します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ いいえ ■ マップ記録 ■ マップ削除
追加情報	<p>選択項目の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ いいえ マップは記録されません。 ■ マップ記録 マップは記録されます。記録が完了すると、新しい測定距離と新しいマッピングレンジがディスプレイに表示されます。現場表示器で操作している場合にこれらの値を確認するには、<input checked="" type="checkbox"/> を押します。 ■ マップ削除 マッピング (マッピングが記録されている場合) を削除し、機器は再計算した測定距離とマッピングレンジを表示します。現場表示器で操作している場合にこれらの値を確認するには、<input checked="" type="checkbox"/> を押します。

17.4.1 「マッピング」ウィザード

i マッピングウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、マッピングに関連するすべてのパラメータは、**設定**メニュー (→ ) 105) に直接表示されます。

i マッピングウィザードでは、表示モジュールに常に2つのパラメータが同時に表示されます。上側のパラメータは編集できますが、下側のパラメータは参照用に表示されているだけであり、編集できません。

ナビゲーション  設定 → マッピング

距離の確定

ナビゲーション  設定 → マッピング → 距離の確定

説明 →  110

マッピングの最終点

ナビゲーション  設定 → マッピング → マッピングの最終点

説明 →  111

マップ記録

ナビゲーション  設定 → マッピング → マップ記録

説明 →  111

距離

ナビゲーション  設定 → マッピング → 距離

説明 →  108

17.4.2 「高度な設定」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定

ロック状態

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → ロック状態

説明

現在有効になっている最高優先度の書き込み保護を示します。

ユーザーインターフェイス

- ハードウェア書き込みロック
- SIL ロック
- CT アクティブ (設定値)
- WHG ロック
- 一時ロック

追加情報

書込保護の優先度タイプの説明

- **ハードウェア書き込みロック (優先度 1)**
メイン電子モジュールのハードウェア書き込みロック用 DIP スイッチが有効になっています。これにより、パラメータへの書き込みアクセスを防ぐことができます。
- **SIL ロック (優先度 2)**
SIL モードが有効です。関連パラメータへの書込アクセスを防止できます。
- **WHG ロック (優先度 3)**
WHG モードが有効です。関連パラメータへの書込アクセスを防止できます。
- **一時ロック (優先度 4)**
機器の内部処理 (例: データアップロード/ダウンロード、リセットなど) を実行中のため、パラメータへの書き込みアクセスが一時的にロックされます。処理が完了次第、パラメータの変更ができます。

 表示モジュールでは、書き込み保護により変更できないパラメータの前には  シンボルが表示されます。

アクセスステータス ツール

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → アクセスステータス ツール

説明

操作ツールを介したパラメータへのアクセス権限を示します。

追加情報

 アクセス権を変更するには、**アクセスコード入力** パラメータ (→  114) を使用します。

 また、書き込み保護機能が有効な場合は、それによって現在のアクセス権がさらに制限されます。書込保護の状態を確認するには、**ロック状態** パラメータ (→  113) を使用します。

アクセスステータス表示

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → アクセスステータス表示

必須条件

現場表示器を使用する場合にのみ使用できます。

説明

ローカル ディスプレイを介したパラメータへのアクセス許可を示す。

追加情報

-  アクセス権を変更するには、**アクセスコード入力** パラメータ (→  114)を使用します。
-  また、書き込み保護機能が有効な場合は、それによって現在のアクセス権がさらに制限されます。書き込み保護の状態を確認するには、**ロック状態** パラメータ (→  113)を使用します。

アクセスコード入力

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → アクセスコード入力

説明

書き込みを許可するためにアクセスコードを入力。

ユーザー入力

0～9999

追加情報

- 現場操作の場合は、ユーザー固有のアクセスコードを**アクセスコード設定** パラメータ (→  158)に入力する必要があります。
 - 不正なアクセスコードが入力されると、現在のアクセス権が維持されます。
 - 書き込み保護は、本書の  シンボルが付いたすべてのパラメータに適用されます。現場表示器では、パラメータの前の  シンボルは、パラメータが書き込み保護されていることを示します。
 - 10 分間キーを押さなかった場合、またはナビゲーションモードや編集モードから測定値表示モードに移動した場合、さらに 60 秒 経過後に書き込み保護パラメータは自動的にロックされます。
-  アクセスコードを紛失した場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

「レベル」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → レベル測定物タイプ 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → レベル → 測定物タイプ

説明

測定物のタイプを設定します。

ユーザーインターフェイス

- 液体
- 粉体

工場出荷時設定

FMP50、FMP51、FMP52、FMP53、FMP54、FMP55 : 液体

追加情報

 このパラメータは、他の複数のパラメータの値を決定し、完全な信号評価に大きく影響します。そのため、初期設定を**変更しない**ことを強く推奨します。

測定物特性 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → レベル → 測定物特性

必須条件

EOP レベル評価 ≠ 固定 DC

説明

測定物の比誘電率 ϵ_r を設定します。

選択

- 不明
- DC 1.4 ... 1.6
- DC 1.6 ... 1.9
- DC 1.9 ... 2.5
- DC 2.5 ... 4
- DC 4 ... 7
- DC 7 ... 15
- DC > 15

工場出荷時設定

測定物タイプ (→  115) および測定物グループ (→  106) パラメータに応じて異なります。

追加情報

「測定物タイプ」と「測定物グループ」の相関関係

測定物タイプ (→ 115)	測定物グループ (→ 106)	測定物特性
粉体		不明
液体	水ベース (DC >= 4)	DC 4 ... 7
	その他	不明

i 産業で一般的に使用される多数の測定物の比誘電率値 (ϵ_r 値) については、以下を参照してください。

- カタログ「比誘電率 (ϵ_r 値) 一覧」(CP01076F)
- Endress+Hauser「DC Values (DC 値) アプリ」(Android および iOS で使用可能)

i EOP レベル評価 = 固定 DC の場合、DC 値 パラメータで正確な比誘電率を設定する必要があります。したがって、この場合は測定物特性 パラメータは適用されません。

プロセス特性



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → レベル → プロセス特性

説明

レベル変化の標準速度を設定します。

選択

「測定物タイプ」 = 「液体」

- 非常に高速 > 10 m (400in) /分
- 高速 > 1 m/min
- 標準速度 < 1 m/min
- 中速 < 10 cm/min
- 低速 < 1 cm/min
- フィルタなし

「測定物タイプ」 = 「粉体」

- 非常に高速 > 100m (333ft) /分
- 高速 > 10 m/h
- 標準速度 < 10 m/h
- 中速 < 1 m/h
- 低速 < 0.1 m/h
- フィルタなし

追加情報

このパラメータで設定されたレベル変化の標準速度に、機器は信号評価フィルタおよび出力信号のダンピングを調整します。

「動作モード」 = 「レベル」 および 「測定物タイプ」 = 「液体」

プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
非常に高速 > 10 m (400in) /分	5
高速 > 1 m/min	5
標準速度 < 1 m/min	14
中速 < 10 cm/min	39
低速 < 1 cm/min	76
フィルタなし	< 1

「動作モード」 = 「レベル」 および 「測定物タイプ」 = 「粉体」

プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
非常に高速 > 100m (333ft) /分	37
高速 > 10 m/h	37
標準速度 < 10 m/h	74
中速 < 1 m/h	146
低速 < 0.1 m/h	290
フィルタなし	< 1

「動作モード」 = 「界面」 または 「静電容量による界面」

プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
非常に高速 > 10 m (400in) /分	5
高速 > 1 m/min	5
標準速度 < 1 m/min	23
中速 < 10 cm/min	47
低速 < 1 cm/min	81
フィルタなし	2.2

高度なプロセス条件



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → レベル → 高度なプロセス条件

説明

(必要に応じて) 追加のプロセス条件を設定します。

選択

- なし
- 油/水 凝縮液
- プローブがタンク底面付近
- 付着
- 泡の厚み 5cm 以上

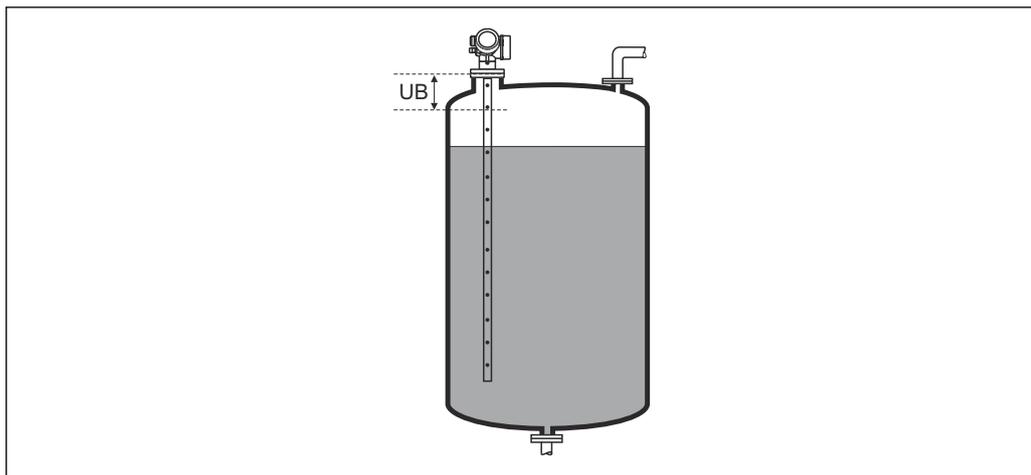
追加情報

選択項目の説明

- **油/水 凝縮液 (測定物タイプ = 液体の場合のみ)**
二相測定物の場合、全体レベルのみを確実に検出することが可能になります (例: 油/凝縮水アプリケーション)。
- **プローブがタンク底面付近 (測定物タイプ = 液体の場合のみ)**
特にプローブをタンク底部付近に取り付けた場合、空検出の精度が向上します。
- **付着**
付着物が原因でプローブ終端信号が変化した場合でも安全な空検出を確実に行うには、**EOP 範囲上部**を増やします。
付着物が原因でプローブ終端信号が変化した場合でも安全な空検出が可能になります。
- **泡の厚み 5cm 以上 (測定物タイプ = 液体の場合のみ)**
発泡を使用するアプリケーションで信号評価を最適化します。

レベル単位 									
ナビゲーション	  設定 → 高度な設定 → レベル → レベル単位								
説明	レベル単位を選択します。								
選択	<table border="0"> <tr> <td>SI 単位</td> <td>US 単位</td> </tr> <tr> <td>■ %</td> <td>■ ft</td> </tr> <tr> <td>■ m</td> <td>■ in</td> </tr> <tr> <td>■ mm</td> <td></td> </tr> </table>	SI 単位	US 単位	■ %	■ ft	■ m	■ in	■ mm	
SI 単位	US 単位								
■ %	■ ft								
■ m	■ in								
■ mm									
追加情報	<p>レベル単位は、距離の単位 パラメータ (→  105) で設定した距離単位とは異なる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 距離の単位 パラメータで設定した単位は、基本校正 (空校正 (→  107)) と 満量校正 (→  107)) に使用します。 ■ レベル単位 パラメータで設定した単位は、(リニアライズされていない) レベルの表示に使用します。 								

不感知距離 	
ナビゲーション	  設定 → 高度な設定 → レベル → 不感知距離
説明	上部不感知距離 (UB) を設定します。
ユーザー入力	0~200 m
工場出荷時設定	8 m (26 ft) までのロッドプローブ/ローププローブ : 200 mm (8 in)
追加情報	<p>上部不感知距離の信号は、機器がオンになったときに不感知距離の範囲外にあり、操作中のレベル変更によって不感知距離内に移動した場合にのみ評価されます。機器がオンになったとき、すでに不感知距離内にあった信号は無視されます。</p> <p> 以下の 2 つの条件を満たしている場合のみ、この挙動が示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード = 短期履歴 または 長期履歴 ■ エキスパート → センサ → 気相補正 → 気相補正モード = オン、補正なし または 外部訂正 <p>条件の 1 つを満たしていない場合、不感知距離内の信号は常に無視されます。</p> <p> 不感知距離内の信号に関して、別の挙動を 不感知距離評価モード パラメータ で設定することが可能です。</p> <p> 必要に応じて、不感知距離内の信号に関する別の挙動を弊社サービスが設定します。</p>



A0013219

図 45 液体計測の不感知距離 (UB)

レベル補正



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → レベル → レベル補正

説明

(必要に応じて) レベル補正を設定します。

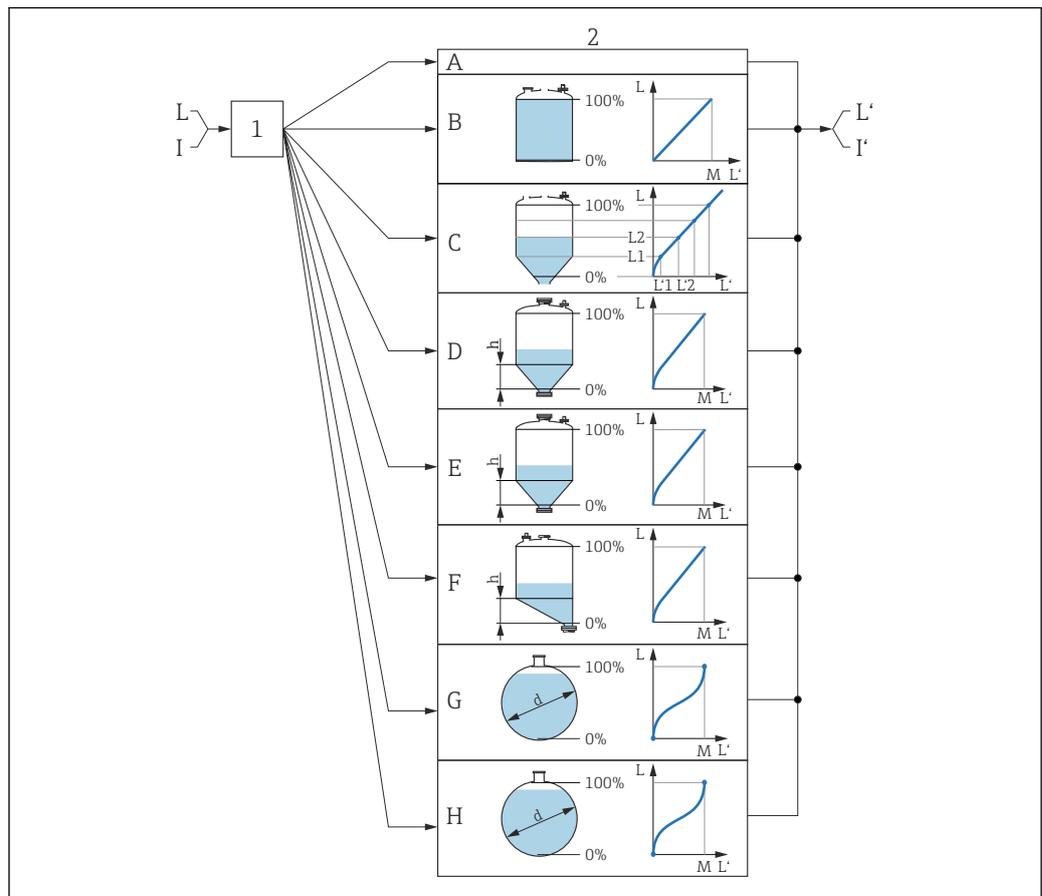
ユーザー入力

-200 000.0 ~ 200 000.0 %

追加情報

このパラメータで設定した値は、測定レベル (リニアライゼーションの前) に追加されます。

「リニアライゼーション」サブメニュー



A0016084

図 46 リニアライゼーション：レベルから、および（該当する場合は）界面から体積または質量に変換。変換は容器の形状に依存

- 1 リニアライゼーションの方式と単位の選択
- 2 リニアライゼーションの設定
- A リニアライゼーションの方式 (→ 123) = なし
- B リニアライゼーションの方式 (→ 123) = リニア
- C リニアライゼーションの方式 (→ 123) = テーブル
- D リニアライゼーションの方式 (→ 123) = 角錐底
- E リニアライゼーションの方式 (→ 123) = 円錐底
- F リニアライゼーションの方式 (→ 123) = 傾斜底
- G リニアライゼーションの方式 (→ 123) = 水平円筒
- H リニアライゼーションの方式 (→ 123) = 球形
- I 「動作モード」 = 「界面」 または 「静電容量による界面」 の場合：リニアライゼーション前の界面（レベル単位での測定）
- I' 「動作モード」 = 「界面」 または 「静電容量による界面」 の場合：リニアライゼーション後の界面（容量または質量に対応）
- L リニアライゼーション前のレベル（レベル単位で測定）
- L' リニアライゼーションされたレベル (→ 126)（容量または質量に対応）
- M 最大値 (→ 126)
- d 直径 (→ 126)
- h 中間高さ (→ 127)

現場表示器のサブメニューの構成

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション

▶ リニアライゼーション

リニアライゼーションの方式

リニアライゼーション後の単位

フリーテキスト

最大値

直径

中間高さ

テーブルモード

▶ テーブルの編集

レベル

ユーザー様の値

テーブルを有効にする

操作ツール（例：FieldCare）のサブメニューの構成

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション

▶ リニアライゼーション
リニアライゼーションの方式
リニアライゼーション後の単位
フリーテキスト
リニアライゼーションされたレベル
最大値
直径
中間高さ
テーブルモード
テーブル番号
レベル
レベル
ユーザー様の値
テーブルを有効にする

パラメータの説明

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション

リニアライゼーションの方式



ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → リニアライゼーション方式

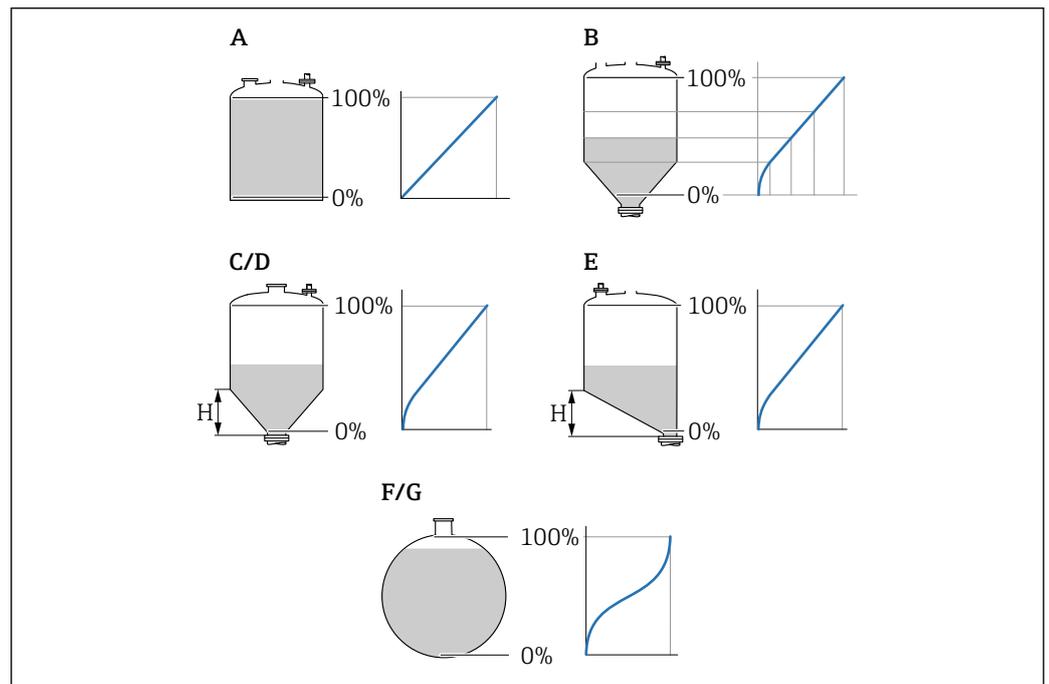
説明

リニアライゼーション方式を選択します。

選択

- なし
- リニア
- テーブル
- 角錐底
- 円錐底
- 傾斜底
- 水平円筒
- 球形

追加情報



A0021476

 47 リニアライゼーション方式

- A なし
- B テーブル
- C 角錐底
- D 円錐底
- E 傾斜底
- F 球形
- G 水平円筒

選択項目の説明

■ なし

レベルは、事前に変換（リニアライズ）されることなくレベル単位で出力されます。

■ リニア

出力値（体積/質量）はレベルLに比例します。これは、縦型円筒形タンクやサイロなどに適用されます。以下のパラメータも設定する必要があります。

■ リニアライゼーション後の単位 (→ 124)

■ 最大値 (→ 126)：最大容量または質量

■ テーブル

測定レベルLと出力値（体積/質量）の関係はリニアライゼーションテーブルによって設定されます。この表は「レベル-体積」または「レベル-質量」の最大32点の値で構成されます。以下のパラメータも設定する必要があります。

■ リニアライゼーション後の単位 (→ 124)

■ テーブルモード (→ 127)

■ テーブルの各ポイント：レベル (→ 128)

■ テーブルの各ポイント：ユーザー様の値 (→ 129)

■ テーブルを有効にする (→ 129)

■ 角錐底

出力値は角錐底型サイロ内の体積または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

■ リニアライゼーション後の単位 (→ 124)

■ 最大値 (→ 126)：最大容量または質量

■ 中間高さ (→ 127)：角錐部の高さ

■ 円錐底

出力値はコニカルタンク内の体積または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

■ リニアライゼーション後の単位 (→ 124)

■ 最大値 (→ 126)：最大容量または質量

■ 中間高さ (→ 127)：円錐部の高さ

■ 傾斜底

出力値は傾斜底のサイロの容量または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

■ リニアライゼーション後の単位 (→ 124)

■ 最大値 (→ 126)：最大容量または質量

■ 中間高さ (→ 127)：傾斜底の高さ

■ 水平円筒

出力値は枕タンクの容量または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

■ リニアライゼーション後の単位 (→ 124)

■ 最大値 (→ 126)：最大容量または質量

■ 直径 (→ 126)

■ 球形

出力値は球形タンクの容量または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

■ リニアライゼーション後の単位 (→ 124)

■ 最大値 (→ 126)：最大容量または質量

■ 直径 (→ 126)

リニアライゼーション後の単位



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 線形化後の単位

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ 123) ≠ なし

説明

リニアライズされた値の単位を選択します。

選択

選択/入力 (uint16)

- 1095 = [short Ton]
- 1094 = [lb]
- 1088 = [kg]
- 1092 = [Ton]
- 1048 = [US Gal.]
- 1049 = [Imp. Gal.]
- 1043 = [ft³]
- 1571 = [cm³]
- 1035 = [dm³]
- 1034 = [m³]
- 1038 = [l]
- 1041 = [hl]
- 1342 = [%]
- 1010 = [m]
- 1012 = [mm]
- 1018 = [ft]
- 1019 = [inch]
- 1351 = [l/s]
- 1352 = [l/min]
- 1353 = [l/h]
- 1347 = [m³/s]
- 1348 = [m³/min]
- 1349 = [m³/h]
- 1356 = [ft³/s]
- 1357 = [ft³/min]
- 1358 = [ft³/h]
- 1362 = [US Gal./s]
- 1363 = [US Gal./min]
- 1364 = [US Gal./h]
- 1367 = [Imp. Gal./s]
- 1358 = [Imp. Gal./min]
- 1359 = [Imp. Gal./h]
- 32815 = [ML/s]
- 32816 = [ML/min]
- 32817 = [ML/h]
- 1355 = [ML/d]

追加情報

選択した単位は表示のためだけに使用されます。選択した単位に基づく測定値の変換は行われません。

 距離/距離のリニアライゼーション、つまり、レベル単位から別の長さ単位へのリニアライゼーションも可能です。このためには、**リニア** リニアライゼーションモードを選択してください。新しいレベル単位を設定するには、**リニアライゼーション後の単位** パラメータで **Free text** オプションを選択し、**フリーテキスト** パラメータ (→  125) に単位を入力します。

フリーテキスト



ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → フリーテキスト

必須条件

リニアライゼーション後の単位 (→  124) = **Free text** に設定します。

説明

単位シンボルを入力します。

ユーザー入力 最大 32 文字 (英字、数字、特殊文字)

リニアライゼーションされたレベル

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → リニアライズされたレベル

説明 リニアライズされたレベルを表示します。

追加情報  この単位は**リニアライゼーション後の単位**パラメータで設定します。

最大値

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 最大値

必須条件 **リニアライゼーションの方式** (→  123)は、以下のいずれかの値を取ります。

- リニア
- 角錐底
- 円錐底
- 傾斜底
- 水平円筒
- 球形

説明 100%レベルに相当するリニアライゼーションされた値。

ユーザー入力 -50000.0～50000.0 %

直径

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 直径

必須条件 **リニアライゼーションの方式** (→  123)は、以下のいずれかの値を取ります。

- 水平円筒
- 球形

説明 円筒タンクもしくは球形タンクの直径。

ユーザー入力 0～9999.999 m

追加情報 単位は、**距離の単位**パラメータ (→  105)で設定します。

中間高さ



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 中間高さ

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ 123) は、以下のいずれかの値を取ります。

- 角錐底
- 円錐底
- 傾斜底

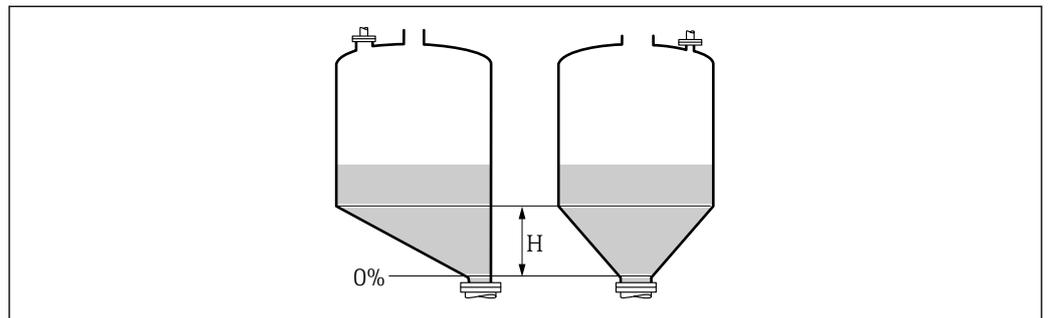
説明

角錐部、コニカル部、角度の付いた底部の高さ。

ユーザー入力

0~200 m

追加情報



A0013264

H 中間高さ

単位は、**距離の単位** パラメータ (→ 105) で設定します。

テーブルモード



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → テーブルモード

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ 123) = **テーブル** に設定します。

説明

リニアライゼーションテーブルの編集モードを選択します。

選択

- 手動
- 半自動式
- テーブルをクリア
- テーブルの並べ替え

追加情報

選択項目の説明

- **手動**
レベルおよび関連するリニアライズされた値が、各リニアライゼーション点に対して手動入力されます。
- **半自動式**
各リニアライゼーション点に対して、機器がレベルを測定します。関連するリニアライズされた値は手動入力します。
- **テーブルをクリア**
既存のリニアライゼーションテーブルを削除します。
- **テーブルの並べ替え**
リニアライゼーション点を昇順に並べ替えます。

リニアライゼーションテーブルは以下の条件を満たす必要があります。

- テーブルを構成できるのは最大 32 点の値「レベル-リニアライズされた値」
- テーブルが単調であること（単調増加または単調減少）
- 最初のリニアライゼーション点が最低レベルに対応すること
- 最後のリニアライゼーション点が最高レベルに対応すること

i リニアライゼーションテーブルを入力する前に、**空校正** (→  **107**) および **満量校正** (→  **107**) の値を正しく設定する必要があります。

満量校正または空校正の後でテーブルの値を変更する必要がある場合、既存テーブルを消去し、再度すべてのテーブルを入力しない限り適切な評価は保証されません。それには、まず既存テーブルを消去します (**テーブルモード** (→  **127**) = **テーブルをクリア**)。その後、新しいテーブルを入力します。

テーブルの入力方法

- FieldCare 経由

テーブル番号 (→  **128**)、**レベル** (→  **128**)、および **ユーザー様の値** (→  **129**) パラメータを使用して、テーブルポイントを入力します。あるいは、グラフィカルテーブルエディタを使用できます (機器の操作 → 機器の機能 → 追加機能 → リニアライゼーション (オンライン/オフライン))。

- 現場表示器を介して

テーブルの編集 サブメニューを選択して、グラフィカルテーブルエディタを呼び出します。テーブルが表示され、行単位の編集が可能になります。

i レベル単位の出荷時設定は「%」です。リニアライゼーションテーブルを物理単位で入力するには、事前に **レベル単位** パラメータ (→  **118**) で適切な単位を選択しておく必要があります。

i 減少テーブルを入力した場合、20 mA および 4 mA の電流出力値が入れ替わります。つまり、20 mA が最低レベルを表し、4 mA が最高レベルを表します。

テーブル番号	
ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → テーブル番号
必須条件	リニアライゼーションの方式 (→  123) = テーブル に設定します。
説明	入力または変更するテーブルポイントを選択します。
ユーザー入力	1~32

レベル (手動)	
ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → レベル
必須条件	<ul style="list-style-type: none"> ■ リニアライゼーションの方式 (→  123) = テーブル ■ テーブルモード (→  127) = 手動
説明	テーブルポイントのレベル値 (リニアライゼーション前の値) を入力します。
ユーザー入力	符号付き浮動小数点数

レベル（半自動式）

ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → レベル
必須条件	<ul style="list-style-type: none"> ■ リニアライゼーションの方式 (→  123) = テーブル に設定します。 ■ テーブルモード (→  127) = 半自動式 に設定します。
説明	測定レベル (リニアライゼーション前の値) を表示します。この値はテーブルに伝送されます。

ユーザー様の値

ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → ユーザー様の値
必須条件	リニアライゼーションの方式 (→  123) = テーブル に設定します。
説明	テーブルポイントのリニアライズされた値を入力します。
ユーザー入力	符号付き浮動小数点数

テーブルを有効にする

ナビゲーション	  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → テーブルを有効にする
必須条件	リニアライゼーションの方式 (→  123) = テーブル に設定します。
説明	リニアライゼーションテーブルを有効または無効にします。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ 無効 ■ 有効
追加情報	<p>選択項目の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 無効 測定レベルはリニアライズされません。 同時に、リニアライゼーションの方式 (→  123) = テーブル の場合、機器はエラーメッセージ F435 を出力します。 ■ 有効 テーブルに基づいて測定レベルはリニアライズされます。 <p> テーブルを編集すると、テーブルを有効にする パラメータが自動的に無効にリセットされるため、テーブルの入力後に有効にリセットする必要があります。</p>

「安全設定」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 安全な設定出力エコー信号消失 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 安全な設定 → 出力エコー信号消失

説明

反射がない場合の出力信号。

選択

- 最後の有効値
- エコー信号消失時急上昇
- エコー信号消失時の値
- アラーム

追加情報

選択項目の説明

- **最後の有効値**
反射がない場合、最後の有効値が保持されます。
- **エコー信号消失時急上昇³⁾**
反射がない場合、出力値は連続して 0% または 100% に変わります。ランプのスロープは **エコー信号消失時急上昇** パラメータ (→  131) で指定されます。
- **エコー信号消失時の値³⁾**
エコーロストの場合、**エコー信号消失時の値** パラメータ (→  130) に定義された値が出力されます。
- **アラーム**
エコーロストの場合、アラームが発報されます。**フェールセーフモード** パラメータ (→  141) を参照してください。

エコー信号消失時の値 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 安全な設定 → エコー信号消失時の値

必須条件

出力エコー信号消失 (→  130) = **エコー信号消失時の値** に設定します。

説明

反射がない場合の出力値。

ユーザー入力

0~200000.0 %

追加情報

測定値出力用に設定した単位を使用します。

- リニアライゼーションなし： **レベル単位** (→  118)
- リニアライゼーションあり： **リニアライゼーション後の単位** (→  124)

3) "リニアライゼーションの方式 (→  123)" = "なし" の場合にのみ視認できます。

エコー信号消失時急上昇



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 安全な設定 → エコー消失時急上昇

必須条件

出力エコー信号消失 (→ ☰ 130) = エコー信号消失時急上昇 に設定します。

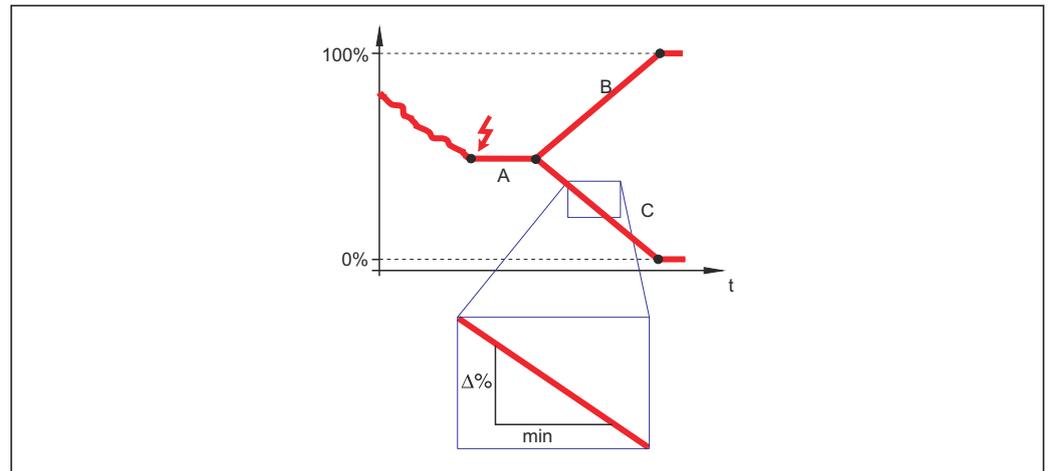
説明

反射がない場合の傾斜の勾配。

ユーザー入力

符号付き浮動小数点数

追加情報



A0013269

- A エコーロスト時遅延時間
 B エコー信号消失時急上昇 (→ ☰ 131) (正の値)
 C エコー信号消失時急上昇 (→ ☰ 131) (負の値)

- 傾斜の勾配の単位は、「1分あたりの測定範囲のパーセント」(%/min) です。
- 負の傾斜の勾配の場合：測定値は0%に達するまで継続的に減少します。
- 正の傾斜の勾配の場合：測定値は100%に達するまで継続的に増加します。

不感知距離



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 安全な設定 → 不感知距離

説明

上部不感知距離 (UB) を設定します。

ユーザー入力

0~200 m

工場出荷時設定

8 m (26 ft) までのロッドプローブ/ローププローブ : 200 mm (8 in)

追加情報

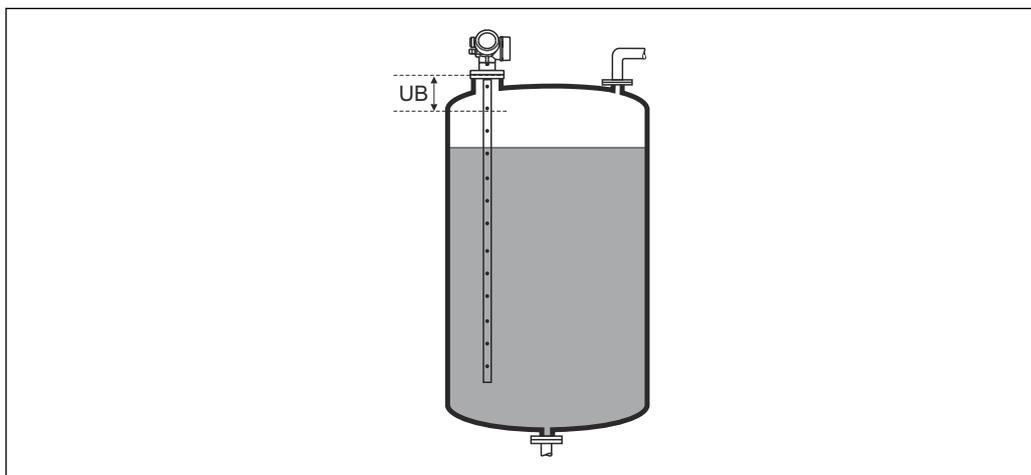
上部不感知距離の信号は、機器がオンになったときに不感知距離の範囲外にあり、操作中のレベル変更によって不感知距離内に移動した場合にのみ評価されます。機器がオンになったとき、すでに不感知距離内にあった信号は無視されます。

- i** 以下の2つの条件を満たしている場合のみ、この挙動が示されます。
- エキスパート → センサ → エコーラッキング → 評価モード = **短期履歴** または **長期履歴**
 - エキスパート → センサ → 気相補正 → 気相補正モード = **オン**、**補正なし** または **外部訂正**

条件の1つを満たしていない場合、不感知距離内の信号は常に無視されます。

- i** 不感知距離内の信号に関して、別の挙動を **不感知距離評価モード** パラメータ で設定することが可能です。

- i** 必要に応じて、不感知距離内の信号に関する別の挙動を弊社サービスが設定します。



A0013219

図 48 液体計測の不感知距離 (UB)

「SIL/WHG 確認」ウィザード

 **SIL/WHG 確認** ウィザードは、SIL または WHG 認証機器（仕様コード 590 : 「追加認証」 オプション LA : 「SIL」 または LC : 「WHG あふれ防止」）で、現在 SIL または WHG ロック状態になっていない場合にのみ使用可能です。

SIL/WHG 確認 ウィザードは、SIL または WHG に従って機器をロックする場合に必要です。詳細については、ロック手順とシーケンスのパラメータについて説明した各機器の「機能安全マニュアル」を参照してください。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → SIL/WHG 確認

「SIL/WHG 無効」ウィザード

i **SIL/WHG 無効** ウィザード (→ 134) は、機器が SIL ロックまたは WHG ロックの場合にのみ表示されます。詳細については個々の機器の「機能安全マニュアル」を参照してください。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → SIL/WHG 無効

書き込み保護のリセット **ナビゲーション**

 設定 → 高度な設定 → SIL/WHG 無効 → 書き込み保護のリセット

説明

ロック解除コードを入力します。

ユーザー入力

0~65535

不適切なコード **ナビゲーション**

 設定 → 高度な設定 → SIL/WHG 無効 → 不適切なコード

説明

不正なロック解除コードが入力されたことを示します。手順を選択します。

選択

- 再入力コード
- 中止, 次へ

「プローブ設定」サブメニュー

プローブ設定 サブメニューは、機器が反射波形内のプローブ終端信号を正確に割り当てるのに役立ちます。機器に表示されるプローブ長が実際のプローブ長と一致する場合に、割り当ては正しくなります。自動プローブ長補正は、プローブが容器内に取り付けられ、プローブ全体が完全に露出している（測定物なし）場合にのみ実施できます。容器の一部が充填されている場合、およびプローブ長が既知の場合に値を手動で入力するには、**プローブ長の確認 (→ 136) = 手動入力**を選択します。

i プローブの切断後にマッピングが記録された場合、自動プローブ長補正を実行できなくなります。その場合は、以下の2つの方法があります。

- **マップ記録** パラメータ (→ 111)を使用してマッピングカーブを削除すると、プローブ長補正を実行できるようになります。プローブ長補正が完了したら、**マップ記録** パラメータ (→ 111)を使用して新しいマッピングカーブを記録できます。
- **プローブ長の確認 (→ 136) = 手動入力**を選択し、**実際のプローブ長**パラメータにプローブ長を手動で入力します。

i **プローブ接地** パラメータ (→ 135)で正しい項目が選択されていないと、自動プローブ長補正を実行することはできません。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → プローブ設定

プローブ接地

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ接地

必須条件

動作モード = レベル

説明

プローブが接地されているかどうかを設定します。

選択

- いいえ
- はい

実際のプローブ長

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → 実際のプローブ長

説明

- ほとんどの場合：
現在測定されているプローブ終端信号に応じてプローブ長を表示します。
- **プローブ長の確認 (→ 136) = 手動入力**：
実際のプローブ長を入力します。

ユーザー入力

0~200 m

プローブ長の確認



ナビゲーション

☐ 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の確認

説明

実際のプローブ長 パラメータに表示される値が実際のプローブ長と一致しているかどうかを指定します。この入力に基づいて、プローブ長補正が実施されます。

選択

- プローブ長 OK
- プローブ長が短すぎる
- プローブ長が長すぎる
- 埋まっているプローブ
- 手動入力
- プローブ長不明

追加情報

選択項目の説明

- **プローブ長 OK**
正しいプローブ長が表示された場合は、これを選択します。補正は必要ありません。機器はシーケンスを終了します。
- **プローブ長が短すぎる**
表示された長さが実際のプローブ長より短い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが**実際のプローブ長**パラメータに表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。
- **プローブ長が長すぎる**
表示された長さが実際のプローブ長より長い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが**実際のプローブ長**パラメータに表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。
- **埋まっているプローブ**
プローブが覆われている（一部または完全に）場合は、これを選択します。この場合は、プローブ長補正を行うことができません。
- **手動入力**
自動プローブ長補正を実施しない場合は、これを選択します。代わりに、実際のプローブ長を**実際のプローブ長**パラメータに手動で入力する必要があります。⁴⁾
- **プローブ長不明**
実際のプローブ長が不明な場合は、これを選択します。この場合は、プローブ長補正を行うことができません。

4) FieldCare から操作している場合は、**手動入力** オプションを選択する必要はなく、いつでもプローブ長を手動で編集できます。

「プローブ長の補正」ウィザード

 **プローブ長の補正** ウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、プローブ長の補正に関連するパラメータは、**プローブ設定** サブメニュー (→  135) に直接表示されます。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正

プローブ長の確認



ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → プローブ長の確認

説明

実際のプローブ長 パラメータに表示される値が実際のプローブ長と一致しているかどうかを指定します。この入力に基づいて、プローブ長補正が実施されます。

選択

- プローブ長 OK
- プローブ長が短すぎる
- プローブ長が長すぎる
- 埋まっているプローブ
- 手動入力
- プローブ長不明

追加情報

選択項目の説明

- **プローブ長 OK**
正しいプローブ長が表示された場合は、これを選択します。補正は必要ありません。機器はシーケンスを終了します。
- **プローブ長が短すぎる**
表示された長さが実際のプローブ長より短い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが**実際のプローブ長**パラメータに表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。
- **プローブ長が長すぎる**
表示された長さが実際のプローブ長より長い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが**実際のプローブ長**パラメータに表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。
- **埋まっているプローブ**
プローブが覆われている（一部または完全に）場合は、これを選択します。この場合は、プローブ長補正を行うことができません。
- **手動入力**
自動プローブ長補正を実施しない場合は、これを選択します。代わりに、実際のプローブ長を**実際のプローブ長**パラメータに手動で入力する必要があります。⁵⁾
- **プローブ長不明**
実際のプローブ長が不明な場合は、これを選択します。この場合は、プローブ長補正を行うことができません。

5) FieldCare から操作している場合は、**手動入力** オプションを選択する必要はなく、いつでもプローブ長を手動で編集できます。

実際のプローブ長



ナビゲーション

☰ 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → 実際のプローブ長

説明

- ほとんどの場合：
現在測定されているプローブ終端信号に応じてプローブ長を表示します。
- **プローブ長の確認 (→ ☰ 136) = 手動入力：**
実際のプローブ長を入力します。

ユーザー入力

0～200 m

「電流出力 1~2」サブメニュー

 **電流出力 2** サブメニュー (→ 139)は、2つの電流出力を備える機器でのみ使用できます。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2

電流出力 1~2 の割り当て 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 電流出力 の割り当て

説明

電流出力に割り当てるプロセス変数を選択。

選択

- リニアライゼーションされたレベル
- 距離
- 電気部内温度
- エコーの相対振幅
- アナログ出力の高度な診断 1
- アナログ出力の高度な診断 2

工場出荷時設定

レベル測定の場合

- 電流出力 1：リニアライゼーションされたレベル
- 電流出力 2⁶⁾：リニアライゼーションされたレベル

追加情報

プロセス変数の電流範囲の設定

プロセス変数	4mA の値	20mA の値
リニアライゼーションされたレベル	0% ¹⁾ または関連するリニアライズされた値で設定します。	100% ²⁾ または関連するリニアライズされた値で設定します。
距離	0 (レベルは測定基準点)	空校正 (→ 107) (レベルは 0%)
電気部内温度	-50 °C (-58 °F)	100 °C (212 °F)
エコーの相対振幅	0 mV	2 000 mV
アナログ出力の高度な診断 1/2	高度な診断のパラメータ設定に応じて異なる	

- 1) 0% レベルは、**空校正** パラメータ (→ 107)
- 2) 100% レベルは、**満量校正** パラメータ (→ 107)

 アプリケーションに応じて 4mA および 20mA の値の調整が必要になることがあります (特に、**アナログ出力の高度な診断 1/2** オプションの場合)。

これは、以下のパラメータで実施できます。

- エキスパート → 出力 → 電流出力 1~2 → ターンダウン
- エキスパート → 出力 → 電流出力 1~2 → 4mA の値
- エキスパート → 出力 → 電流出力 1~2 → 20mA の値

6) 機器が 2つの電流出力を備える場合のみ

電流スパン



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 電流スパン

説明

「4...20mA」：
測定変数：4~20mA

「4...20mA NAMUR」：
測定変数：3.8~20.5 mA

「4...20mA US」：
測定変数：3.9~20.8 mA

「固定電流値」：
測定変数は HART を通してのみ伝送されます。

注意：
3.6mA 未満もしくは 21.95mA を超える電流値はアラーム信号として使用されます。

選択

- 4...20 mA
- 4...20 mA NAMUR
- 4...20 mA US
- 固定電流値

追加情報

選択項目の説明

選択項目	プロセス変数の電流範囲	アラームの下限信号レベル	アラームの上限信号レベル
4...20 mA	4~20.5 mA	< 3.6 mA	> 21.95 mA
4...20 mA NAMUR	3.8~20.5 mA	< 3.6 mA	> 21.95 mA
4...20 mA US	3.9~20.8 mA	< 3.6 mA	> 21.95 mA
固定電流値	電流が 固定電流値 パラメータ (→ ☰ 140) で定義された固定電流であること。		

- エラーの場合、出力電流は**フェールセーフモード** パラメータ (→ ☰ 141) に定義された値になります。
- 測定値が測定範囲を外れた場合、診断メッセージ **電流出力** が出力されます。
- HART マルチドロップループでは、1つの機器だけが信号を送送するためにアナログ電流値を使用できます。他の機器はすべて、以下のように設定する必要があります。
 - **電流スパン** = **固定電流値** に設定します。
 - **固定電流値** (→ ☰ 140) = **4 mA** に設定します。

固定電流値



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 固定電流値

必須条件

電流スパン (→ ☰ 140) = **固定電流値** に設定します。

説明

出力電流の値を定義します。

ユーザー入力

4~22.5 mA

出力のダンピング



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 出力のダンピング

説明

測定値の変動に対する出力信号の応答時間。

ユーザー入力

0.0~999.9 秒

追加情報

測定値の変動により、このパラメータで設定した時定数 τ の指数関数的遅延が出力電流に生じます。時定数が小さい場合、出力は測定値の変動に直ちに反応します。時定数が大きい場合、出力の反応は遅くなります。 $\tau=0$ (初期設定) の場合、ダンピングは発生しません。

フェールセーフモード



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → フェールセーフモード

必須条件

電流スパン (→ 140) ≠ 固定電流値

説明

エラー発生時の出力電流を定義します。

「最小」:

< 3.6mA

「最大」:

> 21.95mA

「最後の有効値」:

エラーが発生する前に最後に有効であった値

「現在の値」:

出力電流は現在の測定値となります。; エラーは無視されます。

「決定した値」:

ユーザーが決定した値となります。

選択

- 最少
- 最大
- 最後の有効値
- 実際の値
- 決めた値

追加情報

選択項目の説明

- **最少**
電流スパン パラメータ (→ 140)に基づいて、アラームの下限レベル値を出力します。
 - **最大**
電流スパン パラメータ (→ 140)に基づいて、アラームの上限レベル値を出力します。
 - **最後の有効値**
電流は、エラーが発生する直前の値を維持します。
 - **実際の値**
出力電流は実際の測定値を取り、エラーは無視されます。
 - **決めた値**
出力電流は、**故障時の電流値** パラメータ (→ 142)で設定した値を取ります。
-  他の出力チャンネルのエラー動作については、これらの設定の影響を受けることなく、個別のパラメータで設定します。

故障時の電流値 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 故障時の電流値

必須条件

フェールセーフモード (→ 141) = **決めた値** に設定します。

説明

エラー発生時にどの電流出力に設定するか定義して下さい。

ユーザー入力

3.59~22.5 mA

出力電流 1~2

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 出力電流 1~2

説明

電流出力の実際の計算値を示します。

「スイッチ出力」サブメニュー

 The **スイッチ出力** サブメニュー (→  143)は、スイッチ出力付き機器でのみ使用できます。⁷⁾

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → スイッチ出力

スイッチ出力機能



ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチ出力機能

説明

スイッチ出力の機能を定義します。

「オフ」

スイッチ出力は常にオープン（非導通）となります。

「オン」

スイッチ出力は常にクローズ（導通）となります。

「診断動作」

スイッチ出力は通常クローズとなり診断イベントが発生した場合にオープンとなります。

「リミット」

スイッチ出力は通常クローズとなり、測定値が定義した値を超えた場合のみオープンとなります。

「デジタル出力」

スイッチ出力は機器のデジタル出力ブロックの一つによってコントロールされます。

選択

- オフ
- オン
- 診断動作
- リミット
- デジタル出力

追加情報

選択項目の説明

▪ オフ

出力は常にオープンです（非導通）。

▪ オン

出力は常にクローズです（導通）。

▪ 診断動作

出力は通常はクローズで、診断イベントが発生したときのみオープンになります。**診断動作の割り当て** パラメータ (→  144)は、出力がオープンになるイベントタイプを設定します。

▪ リミット

出力は通常はクローズで、測定変数が設定したリミット値を超過または下回ったときのみオープンになります。リミット値は以下のパラメータで設定します。

▪ リミットの割り当て (→ 144)

▪ スイッチオンの値 (→ 145)

▪ スイッチオフの値 (→ 146)

▪ デジタル出力

出力のスイッチング状況は、DI 機能ブロックの出力値を追跡します。機能ブロックは、**ステータスの割り当て** パラメータ (→  144)で選択します。

 **オフ**および**オン**オプションを使用すると、スイッチ出力をシミュレートできます。

7) オーダーコード 020 「電源 ; 出力」、オプション B、E または G

ステータスの割り当て



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → ステータスの割り当て

必須条件

スイッチ出力機能 (→ 143) = デジタル出力

説明

ディスクリート出力ブロックもしくは高度な診断ブロックをスイッチ出力に割り当てます。

選択

- オフ
- デジタル出力の高度な診断 1
- デジタル出力の高度な診断 2

追加情報

デジタル出力の高度な診断 1 および **デジタル出力の高度な診断 2** は、高度な診断ブロックに関係します。このブロックで生成されたスイッチ信号はスイッチ出力を介して出力できます。

リミットの割り当て



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → リミットの割り当て

必須条件

スイッチ出力機能 (→ 143) = リミット に設定します。

説明

どのプロセス変数をリミット設定として確認するか定義します。

選択

- オフ
- リニアライゼーションされたレベル
- 距離
- リニアライゼーションされた界面 *
- 界面距離 *
- 上層部の厚さ *
- 端子電圧
- 電気部内温度
- 測定された静電容量 *
- エコーの相対振幅
- 界面の相対振幅 *
- エコーの絶対振幅
- 界面の絶対振幅 *

診断動作の割り当て



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → 診断動作の割り当て

必須条件

スイッチ出力機能 (→ 143) = 診断動作 に設定します。

説明

どの動作の診断イベントをスイッチ出力に反映させるか定義します。

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

選択

- アラーム
- アラーム + 警告
- 警告

スイッチオンの値



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオンの値

必須条件

スイッチ出力機能 (→ ☰ 143) = リミット に設定します。

説明

スイッチがオンとなるポイントを定義します。
出力は割り当てられたプロセス変数がこのポイントよりも大きくなった場合にクローズとなります。

ユーザー入力

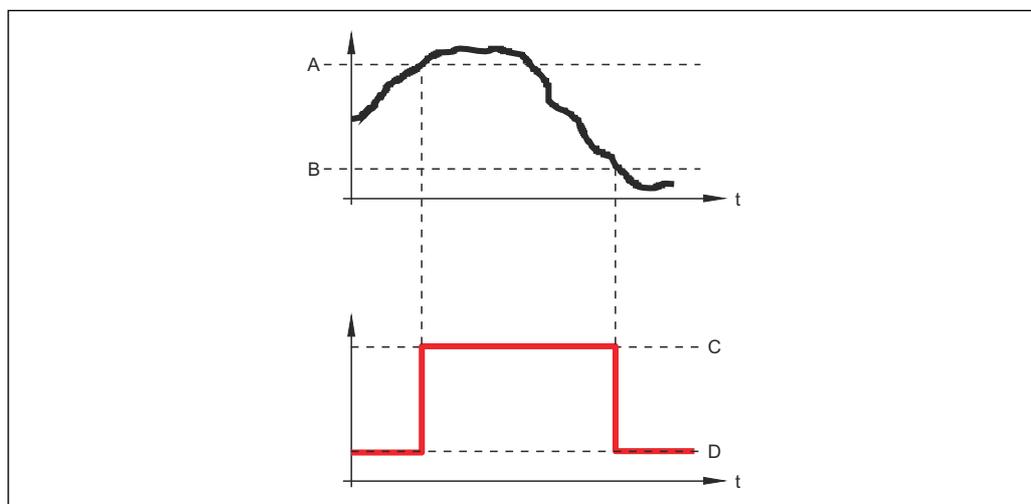
符号付き浮動小数点数

追加情報

スイッチ動作は、**スイッチオンの値**および**スイッチオフの値**パラメータの相対位置に応じて異なります。

スイッチオンの値 > スイッチオフの値

- 測定値が**スイッチオンの値**より大きい場合、出力はクローズになります。
- 測定値が**スイッチオフの値**より小さい場合、出力はオープンになります。

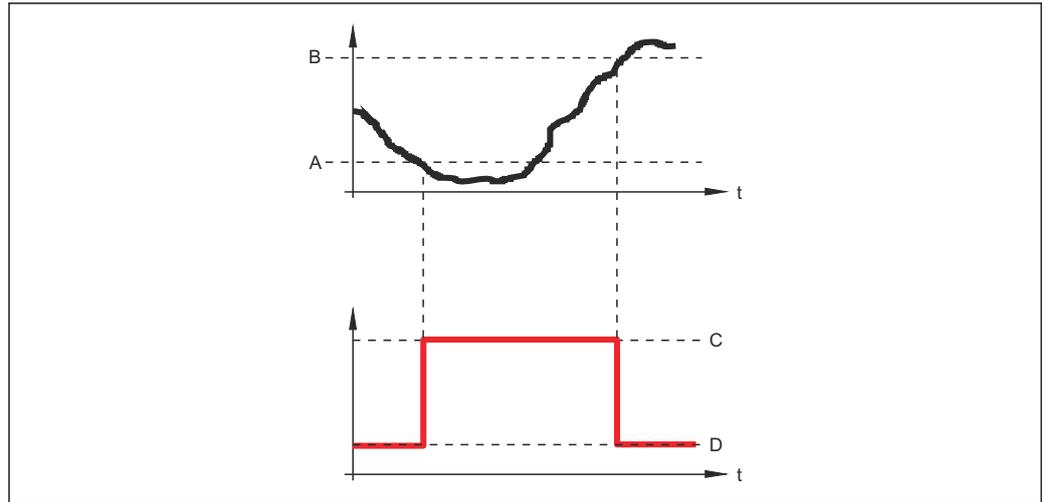


A0015585

- A スイッチオンの値
- B スイッチオフの値
- C 出力クローズ (導通)
- D 出力オープン (非導通)

スイッチオンの値 < スイッチオフの値

- 測定値が**スイッチオンの値**より小さい場合、出力はクローズになります。
- 測定値が**スイッチオフの値**より大きい場合、出力はオープンになります。



A0015586

- A スイッチオンの値
- B スイッチオフの値
- C 出力クローズ (導通)
- D 出力オープン (非導通)

スイッチオンの遅延



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオンの遅延

必須条件

- スイッチ出力機能 (→ ④ 143) = リミット に設定します。
- リミットの割り当て (→ ④ 144) ≠ オフ

説明

出力がスイッチオンされる前に適用される遅延時間を定義して下さい。

ユーザー入力

0.0～100.0 秒

スイッチオフの値



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオフの値

必須条件

スイッチ出力機能 (→ ④ 143) = リミット に設定します。

説明

スイッチがオフとなるポイントを定義して下さい。
出力は割り当てられたプロセス変数がこの値よりも下に下がった場合に、オープンとなります。

ユーザー入力

符号付き浮動小数点数

追加情報

スイッチ動作は、**スイッチオンの値**および**スイッチオフの値**パラメータの相対位置に応じて異なります。詳細については、**スイッチオンの値**パラメータ (→ ④ 145)を参照してください。

スイッチオフの遅延
**ナビゲーション**

☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオフの遅延

必須条件

- スイッチ出力機能 (→ ☰ 143) = リミット に設定します。
- リミットの割り当て (→ ☰ 144) ≠ オフ

説明

出力がスイッチオフされる前に適用される遅延時間を定義して下さい。

ユーザー入力

0.0~100.0 秒

フェールセーフモード
**ナビゲーション**

☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → フェールセーフモード

必須条件

スイッチ出力機能 (→ ☰ 143) = リミット または デジタル出力

説明

エラーの場合のスイッチ出力の状態を定義して下さい。

選択

- 実際のステータス
- オープン
- クローズ

追加情報

スイッチの状態
ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチの状態

説明

スイッチ出力の現在の状態。

出力信号の反転
**ナビゲーション**

☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → 出力信号の反転

説明

「いいえ」
 スイッチ出力は前述のパラメータ設定に応じて動作します。
 「はい」
 スイッチ出力は前述のパラメータ設定に対して反対に動作します。

選択

- いいえ
- はい

追加情報

選択項目の説明

- いいえ
スイッチ出力の挙動は上記説明の通りです。
- はい
オープンおよび**クローズ**のステータスは、上記説明の逆になります。

「表示」サブメニュー

 **表示** サブメニューは、表示モジュールを機器に接続している場合にのみ表示されます。

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示

Language

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示 → Language

説明 表示言語を設定。

選択

- English
- Deutsch *
- Français *
- Español *
- Italiano *
- Nederlands *
- Portuguesa *
- Polski *
- русский язык (Russian) *
- Svenska *
- Türkçe *
- 中文 (Chinese) *
- 日本語 (Japanese) *
- 한국어 (Korean) *
- Bahasa Indonesia *
- tiếng Việt (Vietnamese) *
- čeština (Czech) *

工場出荷時設定 製品構成の仕様コード 500 で選択した言語。
言語を選択しなかった場合：**English**

追加情報

表示形式

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示形式

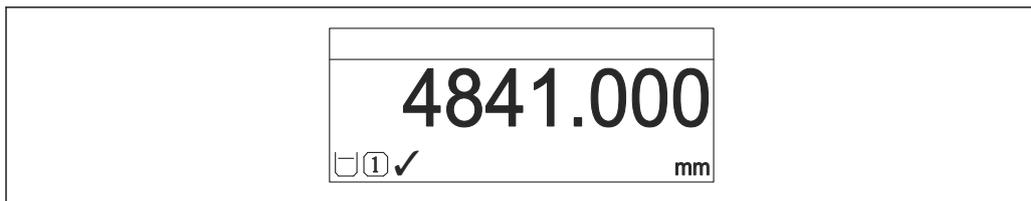
説明 測定値のディスプレイへの表示方法を選択。

選択

- 1つの値、最大サイズ
- 1つの値 + バーグラフ
- 2つの値
- 1つの値はサイズ大 + 2つの値
- 4つの値

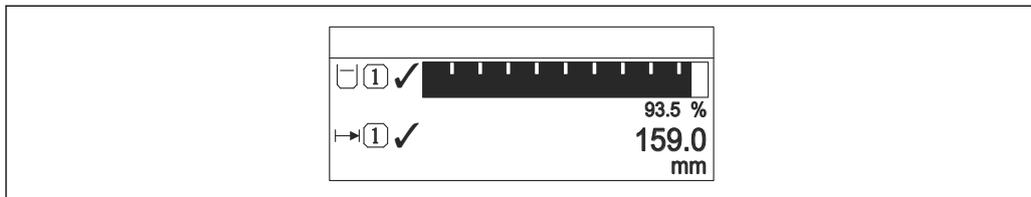
* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

追加情報



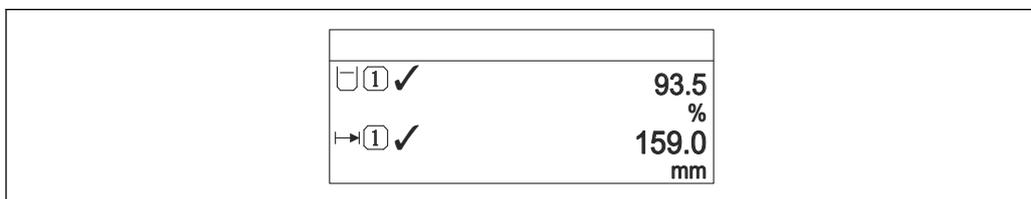
A0019963

図 49 「表示形式」 = 「1 つの値、最大サイズ」



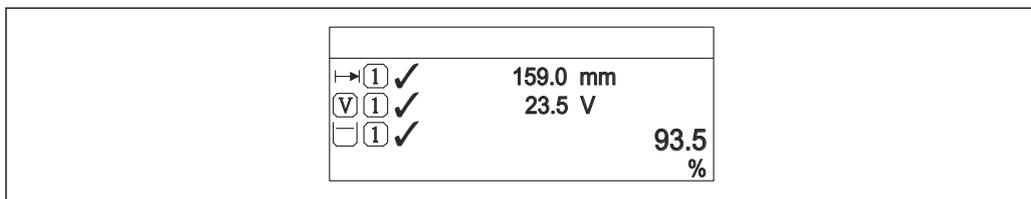
A0019964

図 50 「表示形式」 = 「1 つの値 + バーグラフ」



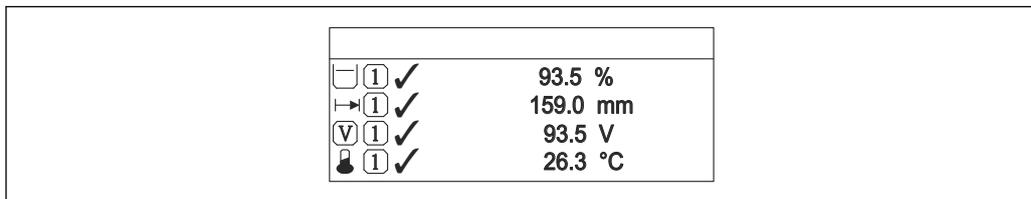
A0019965

図 51 「表示形式」 = 「2 つの値」



A0019966

図 52 「表示形式」 = 「1 つの値はサイズ大 + 2 つの値」



A0019968

図 53 「表示形式」 = 「4 つの値」

- **1~4 の値表示**パラメータを使用して、現場表示器に表示する測定値と表示順序を設定します。
- 選択した表示モードで許容される数より多くの測定値を指定した場合は、機器表示部上で値が交互に表示されます。次の値に変わるまでの表示時間は**表示間隔**パラメータ (→ 図 151)で設定します。

1~4 の値表示



ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 1 の値表示
説明	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ リニアライゼーションされたレベル ■ 距離 ■ リニアライゼーションされた界面* ■ 界面距離* ■ 上層部の厚さ* ■ 電流出力 1 ■ 測定した電流 ■ 電流出力 2* ■ 端子電圧 ■ 電気部内温度 ■ 測定された静電容量* ■ アナログ出力の高度な診断 1 ■ アナログ出力の高度な診断 2
工場出荷時設定	<p>レベル測定の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1 の値表示: リニアライゼーションされたレベル ■ 2 の値表示: 距離 ■ 3 の値表示: 電流出力 1 ■ 4 の値表示: なし

小数点桁数 1~4



ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 小数点桁数 1
説明	この選択は、機器の計測や計算精度に影響を与えません
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX
追加情報	この設定は、機器の測定や計算の精度には影響しません。

表示間隔

ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示間隔
説明	測定値の切り替え表示の時に測定値を表示する時間を設定。
ユーザー入力	1~10 秒

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

追加情報 このパラメータは、選択された表示形式で同時に表示可能な数を、選択された測定値の数が超えた場合にのみ適用されます。

表示のダンピング

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示のダンピング

説明 測定値の変動に対する表示の応答時間を設定。

ユーザー入力 0.0～999.9 秒

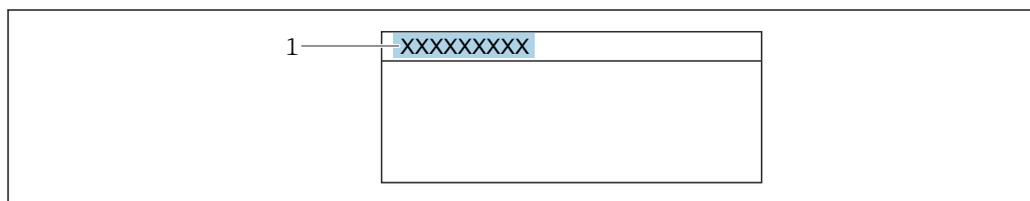
ヘッダー

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示 → ヘッダー

説明 ローカル ディスプレイのヘッダーの内容を選択。

- 選択**
- デバイスのタグ
 - フリーテキスト

追加情報



A0029422

1 表示部のヘッダーテキストの位置

選択項目の説明

- **デバイスのタグ**
デバイスのタグ パラメータ (→  105)で設定します。
- **フリーテキスト**
ヘッダーテキスト パラメータ (→  152)で設定します。

ヘッダーテキスト

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示 → ヘッダーテキスト

必須条件 ヘッダー (→  152) = フリーテキスト に設定します。

説明 ディスプレイのヘッダーのテキストを入力。

ユーザー入力 数字、英字、特殊文字からなる文字列 (12)

追加情報 表示できる文字数は使用される文字に応じて異なります。

区切り記号



ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 表示 → 区切り記号

説明 数値表示の桁区切り記号を選択。

選択

- .
- ,

数値形式



ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 表示 → 数値形式

説明 ディスプレイの選択番号の形式。

選択

- 十進法
- ft-in-1/16"

追加情報 **ft-in-1/16"** オプションは、距離単位でのみ有効です。

小数点桁数メニュー



ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 表示 → 小数点桁数メニュー

説明 操作メニュー内の数値の小数点桁数を選択します。

選択

- X
- X.X
- X.XX
- X.XXX
- X.XXXX

追加情報

- 操作メニュー内の数値（**空校正**や**満量校正**など）に対してのみ有効で、測定値表示部には無効です。測定値表示部の小数点以下の桁数は、**小数点桁数 1~4** パラメータで設定します。
- この設定は、機器の測定や値計算の精度には影響しません。

バックライト

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 表示 → バックライト

必須条件 SD03 現場表示器（光学式キー付き）を使用する場合にのみ実行できます。

説明 ローカル ディスプレイのバックライトのオンとオフを切り替え。

選択	<ul style="list-style-type: none">■ 無効■ 有効
追加情報	<p>選択項目の説明</p> <ul style="list-style-type: none">■ 無効 バックライトをオフにします。■ 有効 バックライトをオンにします。 <p> このパラメータの設定に関係なく、機器の供給電圧が低すぎる場合は自動的にバックライトがオフになります。</p>

表示のコントラスト

ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示のコントラスト
説明	周囲条件 (照明、読み取り角度など) に合わせてローカル ディスプレイのコントラスト設定を調整。
ユーザー入力	20～80 %
工場出荷時設定	ディスプレイに応じて異なります。
追加情報	<p> 押しボタンでコントラストを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ より暗く：  ボタンを同時に押します。■ より明るく：  ボタンを同時に押します。

「設定バックアップの表示」サブメニュー

 このサブメニューは、表示モジュールを機器に接続している場合にのみ表示されません。

機器の設定は、特定の時点表示モジュールに保存することが可能です (バックアップ)。保存された設定は、必要に応じて機器に復元できます (例: 機器を特定の状態に戻すため)。表示モジュールを使用して、その設定を同タイプの別の機器に伝送することも可能です。

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示

稼働時間

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 稼働時間

説明

装置の稼働時間を示す。

追加情報

最大時間
9999 d (≈ 27 年)

最後のバックアップ

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 最後のバックアップ

説明

最後のデータのバックアップがディスプレイ モジュールに保存された時を示す。

設定管理

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 設定管理

説明

ディスプレイ モジュール内の機器データを管理する操作を選択。

選択

- キャンセル
- バックアップの実行
- 復元
- 複製
- 比較
- バックアップデータの削除

追加情報

選択項目の説明

■ キャンセル

何も実行せずにこのパラメータを終了します。

■ バックアップの実行

HistoROM（機器に内蔵）にある現在の機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールに保存します。

■ 復元

機器設定のバックアップコピーを、表示モジュールから機器の HistoROM にコピーします。

■ 複製

変換器の表示モジュールを使用して、変換器設定を別の機器に複製します。以下は個々の測定点の特性を設定するパラメータであり、伝送される設定には**含まれません**。

- HART データコード
- HART ショートタグ
- HART メッセージ
- HART 記述子
- HART アドレス
- デバイスのタグ
- 測定物タイプ

■ 比較

表示モジュールに保存された機器設定と HistoROM の現在の機器設定とを比較します。この比較結果は、**比較の結果** パラメータ (→  156)パラメータに表示されます。

■ バックアップデータの削除

機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールから削除します。



この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。



復元 オプションを使用して既存のバックアップを別の機器に復元した場合、同じ機器機能が使用できなくなる場合があります。場合によっては、機器をリセットしても元の状態に復元できないことがあります。

設定を別の機器に伝送する場合は、必ず**複製** オプションを使用してください。

バックアップのステータス

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → バックアップのステータス

説明

バックアップ動作の現在の進捗状況を表示します。

比較の結果

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 比較の結果

説明

現在の機器データと表示したバックアップデータの比較。

追加情報

表示選択の説明

- **設定データは一致する**
HistoROM の現在の機器設定と表示モジュールのバックアップコピーは一致します。
- **設定データは一致しない**
HistoROM の現在の機器設定と表示モジュールのバックアップコピーは一致しません。
- **バックアップデータはありません**
HistoROM の機器設定のバックアップコピーが表示モジュールにはありません。
- **保存データの破損**
HistoROM の現在の機器設定が破損しているか、または表示モジュールのバックアップコピーとの互換性はありません。
- **チェック未完了**
HistoROM の機器設定と表示モジュールのバックアップコピーとの比較がまだ完了していません。
- **データセット非互換**
データセットに互換性がないため比較できません。

 比較を開始するには、**設定管理 (→ 155) = 比較**を設定します。

 **設定管理 (→ 155) = 複製**によって変換器の設定を別の機器から複製した場合、HistoROM の新しい機器設定は、表示モジュールに保存されている設定の一部として一致しません。センサ固有の特性 (マッピングカーブなど) は複製されません。したがって、比較結果は、**設定データは一致しない**になります。

「管理」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理アクセスコード設定 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定

説明

パラメータへの書き込み権のためのアクセスコードを定義。

ユーザー入力

0~9999

追加情報

-  工場設定を変更していない場合、または「0」を入力している場合、パラメータは書き込み保護されないため、機器設定データはいつでも変更可能な状態となります。ログインするユーザーの役割は「メンテナンス」になります。
-  書き込み保護は、本書の  シンボルが付いたすべてのパラメータに適用されます。現場表示器でパラメータの前に  シンボルが表示される場合、そのパラメータが書き込み保護されていることを示します。
-  アクセスコードを設定すると、書き込み保護されたパラメータは、**アクセスコード入力** パラメータ (→  114) でアクセスコードを入力しない限り変更できません。
-  アクセスコードを紛失した場合は、当社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。
-  現場表示器による操作の場合：新しいアクセスコードは、**アクセスコードの確認** パラメータ (→  160) で確認した後、有効になります。

機器リセット 

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 管理 → 機器リセット

説明

機器の設定をリセットします-全部または一部を-決められた状態に。

選択

- キャンセル
- 工場出荷設定に
- 納入時の状態に
- ユーザ設定の
- 変換器初期状態へ
- 機器の再起動

追加情報

選択項目の説明

- **キャンセル**
動作なし
- **工場出荷設定に**
すべてのパラメータをオーダーコードで指定された初期設定にリセットします。
- **納入時の状態に**
すべてのパラメータを納入時の設定にリセットします。ユーザー固有の設定が注文された場合は、出荷時の設定が工場の初期設定と異なる場合があります。ユーザー固有の設定を注文している場合のみ、この選択項目が表示されます。

- **ユーザ設定の**

すべてのユーザーパラメータをその初期設定にリセットします。ただし、サービスパラメータは変更されません。

- **変換器初期状態へ**

すべての測定関連パラメータを工場出荷時の設定にリセットします。ただし、サービスパラメータおよび通信関連パラメータは変更されません。

- **機器の再起動**

再起動により、揮発性メモリ (RAM) に保存されているすべてのパラメータを初期設定にリセットします (例: 測定値データ)。機器設定に変更はありません。

「アクセスコード設定」ウィザード

i **アクセスコード設定** ウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、**アクセスコード設定** パラメータは**管理**サブメニューに直接表示されます。**アクセスコードの確認** パラメータは、操作ツールからは使用できません。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定

アクセスコード設定

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコード設定

説明 →  158

アクセスコードの確認

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコードの確認

説明 入力されたアクセスコードを確認してください。

ユーザー入力 0～9999

17.5 「診断」メニュー

ナビゲーション   診断

現在の診断結果

ナビゲーション

  診断 → 現在の診断結果

説明

現在の診断メッセージを表示します。

追加情報

表示の構成：

- イベント動作のシンボル
- 診断動作のコード
- イベントの発生時間
- イベントテキスト

 同時に複数のメッセージがオンの場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示されます。

 メッセージの原因および対策の情報については、表示器の  シンボルで表示されます。

タイムスタンプ

ナビゲーション

 診断 → タイムスタンプ

説明

現在の診断メッセージのタイムスタンプ表示。

前回の診断結果

ナビゲーション

  診断 → 前回の診断結果

説明

現在の診断メッセージが出力されるまで有効であった前回の診断メッセージを表示します。

追加情報

表示の構成：

- イベント動作のシンボル
- 診断動作のコード
- イベントの発生時間
- イベントテキスト

 表示される状態がまだ継続している可能性があります。メッセージの原因および対策の情報については、表示器の  シンボルで表示されます。

タイムスタンプ

ナビゲーション

☐ 診断 → タイムスタンプ

説明

前回の診断メッセージのタイムスタンプを表示。

再起動からの稼働時間

ナビゲーション

☐☐ 診断 → 再起動からの稼働時間

説明

前回の機器の再起動からの稼働時間を表示します。

稼働時間

ナビゲーション

☐☐ 診断 → 稼働時間

説明

装置の稼働時間を示す。

追加情報最大時間
9999 d (≈ 27 年)

17.5.1 「診断リスト」サブメニュー

ナビゲーション   診断 → 診断リスト

診断 1~5

ナビゲーション

  診断 → 診断リスト → 診断 1

説明

現在の診断メッセージの中で最も優先度の高い5つのメッセージを表示します。

追加情報

表示の構成：

- イベント動作のシンボル
- 診断動作のコード
- イベントの発生時間
- イベントテキスト

タイムスタンプ 1~5

ナビゲーション

  診断 → 診断リスト → タイムスタンプ 1~5

説明

診断メッセージのタイムスタンプ。

17.5.2 「イベントログブック」サブメニュー

i イベントログブックサブメニューは、現場表示器による操作でのみ使用できます。FieldCare の操作時には、FieldCare の「イベントリスト/HistoROM」機能でイベントリストを表示できます。

ナビゲーション  診断 → イベントログブック

フィルタオプション

ナビゲーション

 診断 → イベントログブック → フィルタオプション

説明

どのカテゴリのイベントメッセージがイベントリストサブメニューに表示されるかを定義します。

選択

- すべて
- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)
- 情報 (I)

追加情報

- i** ▪ このパラメータは、現場表示器による操作でのみ使用できます。
▪ ステータス信号は NAMUR NE 107 に従って分類されます。

「イベントリスト」サブメニュー

イベントリスト サブメニューには、**フィルタオプション** パラメータ (→  164) で選択したカテゴリの過去のイベントの履歴が表示されます。最大 100 件のイベントを時系列に表示できます。

以下のシンボルは、イベントの発生または終了を示すものです。

-  : イベント発生
-  : イベント終了

i メッセージの原因および対策の情報については、 ボタンで確認できます。

表示形式

- カテゴリ I のイベントメッセージの場合：情報イベント、イベントテキスト、「記録イベント」シンボル、イベント発生時刻
- カテゴリ F、M、C、S (ステータス信号) のイベントメッセージの場合：診断イベント、イベントテキスト、「記録イベント」シンボル、イベント発生時刻

ナビゲーション  診断 → イベントログブック → イベントリスト

17.5.3 「機器情報」サブメニュー

ナビゲーション   診断 → 機器情報

デバイスのタグ

ナビゲーション   診断 → 機器情報 → デバイスのタグ

説明 機器のタグを入力。

ユーザーインターフェイス 数字、英字、特殊文字からなる文字列

シリアル番号

ナビゲーション   診断 → 機器情報 → シリアル番号

説明 機器のシリアル番号の表示。

追加情報

-  **シリアル番号の用途**
 - 機器を迅速に識別するため（例：Endress+Hauser への問い合わせの際）
 - 機器ビューアー www.endress.com/deviceviewer を使用して詳細な機器情報を得るため
-  シリアル番号は型式銘板にも記載されています。

ファームウェアのバージョン

ナビゲーション   診断 → 機器情報 → ファームのバージョン

説明 ファームウェアバージョンの表示。

ユーザーインターフェイス xx.yy.zz

追加情報  ファームウェアのバージョンが最後の 2 桁（「zz」）のみ異なる場合、機能と操作に関する違いはありません。

機器名

ナビゲーション   診断 → 機器情報 → 機器名

説明 変換器の名称の表示。

オーダーコード 

ナビゲーション	  診断 → 機器情報 → オーダーコード
説明	機器のオーダーコードの表示。
ユーザーインターフェイス	数字、英字、特殊文字からなる文字列
追加情報	オーダーコードは、機器の製品構成に関するすべての仕様項目を明示する拡張オーダーコードから生成されたものです。一方で、オーダーコードから直接機器仕様項目を読み取ることはできません。

拡張オーダーコード 1~3 

ナビゲーション	  診断 → 機器情報 → 拡張オーダーコード 1
説明	拡張オーダーコードの 3 つのパートが表示されます。
ユーザーインターフェイス	数字、英字、特殊文字からなる文字列
追加情報	拡張オーダーコードは、機器の製品構成に関するすべての仕様項目を示すものであり、それにより機器を一意的に識別することが可能です。

機器リビジョン

ナビゲーション	  診断 → 機器情報 → 機器リビジョン
説明	HART 協会へ登録してあるデバイスリビジョンの表示。
追加情報	機器リビジョンは、機器に適切な DD ファイルを割り当てるために使用します。

機器 ID

ナビゲーション	  診断 → 機器情報 → 機器 ID
説明	HART ネットワーク内で機器を認識するために機器 ID を表示します。
追加情報	機器タイプと製造者 ID に加えて、機器 ID は機器の固有 ID の一部であり、各 HART 機器を明確に特定します。

機器タイプ

ナビゲーション	☰☰ 診断 → 機器情報 → 機器タイプ
説明	HART 協会へ登録しているデバイスタイプの表示。
追加情報	

製造者 ID

ナビゲーション	☰☰ 診断 → 機器情報 → 製造者 ID
説明	この機能を使用して、HART Communication Foundation に登録されている、機器の製造者 ID を表示します。
ユーザーインターフェイス	2 桁の 16 進数
工場出荷時設定	0x11 (Endress+Hauser の場合)

17.5.4 「測定値」サブメニュー

ナビゲーション  診断 → 測定値

距離

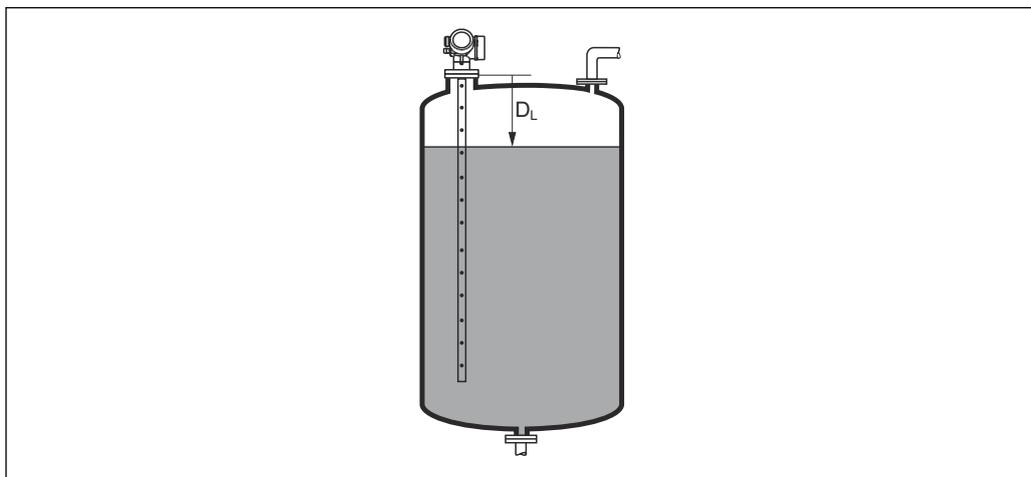
ナビゲーション

 診断 → 測定値 → 距離

説明

測定基準点（フランジまたはネジ込み接続の下端）からレベルまでの測定距離 D_L を表示します。

追加情報



A0013198

 54 液体計測の距離

 単位は、**距離の単位** パラメータ (→  105) で設定します。

リニアライゼーションされたレベル

ナビゲーション

 診断 → 測定値 → リニアライズされたレベル

説明

リニアライズされたレベルを表示します。

追加情報

 この単位は**リニアライゼーション後の単位** パラメータで設定します。

出力電流 1~2

ナビゲーション

 診断 → 測定値 → 出力電流 1~2

説明

電流出力の実際の計算値を示します。

測定した電流 1

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 測定値 → 測定した電流 1

必須条件

電流出力 1 でのみ使用できます。

説明現在測定されている電流出力の現在の値を示します。

端子電圧 1

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 測定値 → 端子電圧 1

説明

電流出力端子にかかっている現在の電圧を示します。

17.5.5 「データのログ」サブメニュー

ナビゲーション  診断 → データのログ

チャンネル 1~4 の割り当て

ナビゲーション

 診断 → データのログ → チャンネル 1~4 の割り当て

説明

ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。

選択

- オフ
- リニアライゼーションされたレベル
- 距離
- フィルタ処理なしの距離
- リニアライゼーションされた界面*
- 界面距離*
- フィルタ処理なしの界面距離
- 上層部の厚さ*
- 電流出力 1
- 測定した電流
- 電流出力 2*
- 端子電圧
- 電気部内温度
- 測定された静電容量*
- エコーの絶対振幅
- エコーの相対振幅
- 界面の絶対振幅*
- 界面の相対振幅*
- 絶対 EOP 振幅
- EOP シフト
- 信号ノイズ
- DC の計算値*
- アナログ出力の高度な診断 1
- アナログ出力の高度な診断 2

追加情報

合計 1000 個の測定値をロギングできます。つまり、

- ロギングチャンネルを 1 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 1000 個
- ロギングチャンネルを 2 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 500 個
- ロギングチャンネルを 3 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 333 個
- ロギングチャンネルを 4 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 250 個

データポイントが最大数に達すると、データログの最も古いデータポイントが周期的に上書きされ、必ず最新の測定値 1000、500、333、または 250 個がログに保存されます（リングメモリ形式）。

 このパラメータで新しいオプションを選択すると、ログデータは削除されます。

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

ロギングの時間間隔



ナビゲーション

- 診断 → データのログ → ロギングの時間間隔
- 診断 → データのログ → ロギングの時間間隔

説明

データロギングの間隔を定義します。この値はメモリ内の個々のデータ間隔の時間を定義します。

ユーザー入力

1.0~3 600.0 秒

追加情報

このパラメータは、データログの各データポイント間の時間間隔を設定するもので、それにより、ロギング可能な最大の時間 T_{log} が決まります。

- ロギングチャンネルを1つ使用する場合： $T_{log} = 1000 \cdot t_{log}$
- ロギングチャンネルを2つ使用する場合： $T_{log} = 500 \cdot t_{log}$
- ロギングチャンネルを3つ使用する場合： $T_{log} = 333 \cdot t_{log}$
- ロギングチャンネルを4つ使用する場合： $T_{log} = 250 \cdot t_{log}$

設定時間が経過すると、データログの最も古いデータポイントが周期的に上書きされ、必ず T_{log} の時間がメモリに保存されます（リングメモリ形式）。



このパラメータを変更すると、ログデータは削除されます。

例

ロギングチャンネルを1つ使用する場合

- $T_{log} = 1000 \cdot 1 \text{ 秒} = 1000 \text{ 秒} \approx 16.5 \text{ min}$
- $T_{log} = 1000 \cdot 10 \text{ 秒} = 1000 \text{ 秒} \approx 2.75 \text{ h}$
- $T_{log} = 1000 \cdot 80 \text{ 秒} = 80000 \text{ 秒} \approx 22 \text{ h}$
- $T_{log} = 1000 \cdot 3600 \text{ 秒} = 3600000 \text{ 秒} \approx 41 \text{ d}$

すべてのログをリセット



ナビゲーション

- 診断 → データのログ → すべてのログをリセット
- 診断 → データのログ → すべてのログをリセット

説明

全てのロギングデータをクリア。

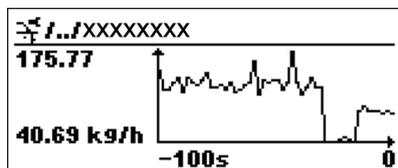
選択

- キャンセル
- データ削除

「チャンネル 1~4 表示」サブメニュー

i チャンネル 1~4 表示サブメニューは、現場表示器による操作でのみ使用できます。FieldCare の操作時には、FieldCare の「イベントリスト/HistoROM」機能でログダイアグラムを表示できます。

チャンネル 1~4 表示サブメニューは、各チャンネルのログ履歴のダイアグラムを表示します。



- x 軸：選択されたチャンネル数に応じて 250 ~ 1000 個のプロセス変数の測定値が表示されます。
- y 軸：常に測定中の値に合わせて、おおまかな測定値スパンを示します。

i 操作メニューに戻るには、**田** と **田** を同時に押します。

ナビゲーション **田田** 診断 → データのログ → チャンネル 1~4 表示

17.5.6 「シミュレーション」サブメニュー

シミュレーションサブメニューは、特定の測定値または別の条件のシミュレーションに使用されます。これにより、機器や接続した制御ユニットが正しく設定されているか確認できます。

シミュレーション可能な条件

シミュレートする条件	関連するパラメータ
プロセス変数の特定値	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 測定値の割り当て (→ 175) ▪ 測定値 (→ 175)
出力電流の特定値	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 電流出力のシミュレーション (→ 175) ▪ 電流出力の値 (→ 176)
スイッチ出力の特定状態	<ul style="list-style-type: none"> ▪ シミュレーションスイッチ出力 (→ 176) ▪ スイッチの状態 (→ 176)
アラームの有無	機器アラームのシミュレーション (→ 177)
特定の診断メッセージの有無	診断イベントのシミュレーション (→ 177)

サブメニューの構成

ナビゲーション  エキスパート → 診断 → シミュレーション

▶ シミュレーション	
測定値の割り当て	→  175
測定値	→  175
電流出力 1~2 のシミュレーション	→  175
電流出力 1~2 の値	→  176
シミュレーションスイッチ出力	→  176
スイッチの状態	→  176
機器アラームのシミュレーション	→  177
診断イベントのシミュレーション	→  177

パラメータの説明

ナビゲーション  エキスパート → 診断 → シミュレーション

測定値の割り当て

ナビゲーション	 エキスパート → 診断 → シミュレーション → 測定値の割り当て
説明	シミュレーションを実行するためのプロセス変数を定義します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ レベル ■ 界面* ■ 上層部の厚さ* ■ リニアライゼーションされたレベル ■ リニアライゼーションされた界面 ■ リニアライゼーションされた厚み
追加情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ シミュレートする変数の値は、測定値 パラメータ (→  175) で設定します。 ■ 測定値の割り当て ≠ オフの場合、シミュレーションはオンです。これは、機能チェック (C) カテゴリの診断メッセージで確認できます。

測定値

ナビゲーション	 エキスパート → 診断 → シミュレーション → 測定値
必須条件	測定値の割り当て (→  175) ≠ オフ
説明	選択した変数の値を定義します。 出力はこの値に従って値もしくは状態を想定します。
ユーザー入力	符号付き浮動小数点数
追加情報	その後の測定値処理と信号出力には、このシミュレーション値を使用します。これにより、機器が正しく設定されているかどうかを確認できます。

電流出力 1~2 のシミュレーション

ナビゲーション	 エキスパート → 診断 → シミュレーション → 電流 1~2 のシミュレーション
説明	電流出力のシミュレーションをオン、オフします。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ オン

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

追加情報 有効なシミュレーションは、機能チェック (C) カテゴリの診断メッセージで確認できます。

電流出力 1~2 の値


ナビゲーション エキスパート → 診断 → シミュレーション → 電流出力 1~2 の値

必須条件 電流出力のシミュレーション (→ 175) = オン に設定します。

説明 シミュレーションの出力電流値を定義して下さい。

ユーザー入力 3.59~22.5 mA

追加情報 電流出力は、このパラメータで設定した値を取ります。これにより、電流出力の適切な調整、および接続された制御ユニットが正しく機能することを確認できます。

シミュレーションスイッチ出力


ナビゲーション エキスパート → 診断 → シミュレーション → シミュレーションスイッチ

説明 スイッチ出力のシミュレーションをオン、オフします。

選択

- オフ
- オン

スイッチの状態


ナビゲーション エキスパート → 診断 → シミュレーション → スイッチの状態

必須条件 シミュレーションスイッチ出力 (→ 176) = オン に設定します。

説明 スイッチ出力の現在の状態。

選択

- オープン
- クローズ

追加情報 スイッチ状態は、このパラメータで設定した値を取ります。これにより、接続した制御ユニットが正しく動作することを確認できます。

機器アラームのシミュレーション**ナビゲーション**

  エキスパート → 診断 → シミュレーション → アラームのシミュレーション

説明

デバイスアラームのシミュレーションをオン、オフします。

選択

- オフ
- オン

追加情報

オン オプションを選択すると、アラームが生成されます。これにより、アラームが発生した場合の機器の出力動作が適切であるかどうかを確認できます。

アクティブなシミュレーションは診断メッセージ **✖C484 エラーモードのシミュレーション** で表示されます。

診断イベントのシミュレーション**ナビゲーション**

  エキスパート → 診断 → シミュレーション → 診断シミュレーション

説明

シミュレーションする診断イベントを選択

注意:

シミュレーションを止めるには、'オフ'を選択します。

追加情報

現場表示器を介して操作する場合、選択リストはイベントカテゴリーに応じてフィルタリングできます (**診断イベントの種類** パラメータ)。

17.5.7 「機器チェック」サブメニュー

ナビゲーション  診断 → 機器チェック

機器チェック開始 	
ナビゲーション	 診断 → 機器チェック → 機器チェック開始
説明	機器チェックを開始します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ いいえ ■ はい
追加情報	反射がない場合、機器チェックは実施できません。
機器チェックの結果	
ナビゲーション	 診断 → 機器チェック → 機器チェックの結果
説明	機器チェックの結果を表示します。
追加情報	<p>表示選択の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インストール OK 制限のない測定が可能です。 ■ 精度制限あり 測定は可能です。ただし、信号振幅により測定精度が低下する可能性があります。 ■ 測定機能低下 現時点で測定は可能です。ただし、エコー信号を見失う可能性があります。機器の取付位置と測定物の比誘電率を確認してください。 ■ チェック未完了 機器チェックは実施されていません。
前回のチェック時刻	
ナビゲーション	 診断 → 機器チェック → 前回のチェック時刻
説明	前回の機器チェックが実施されたときの稼働時間を表示します。
ユーザーインターフェイス	数字、英字、特殊文字からなる文字列

レベル信号

ナビゲーション	☰☰ 診断 → 機器チェック → レベル信号
必須条件	機器チェックを実施した場合にのみ表示されます。
説明	レベル信号の機器チェックの結果を表示します。
ユーザーインターフェイス	<ul style="list-style-type: none">■ チェック未完了■ チェック NG■ チェック OK
追加情報	レベル信号 = チェック NG : 機器の取付位置と測定物の比誘電率を確認してください。

開始信号

ナビゲーション	☰☰ 診断 → 機器チェック → 開始信号
必須条件	機器チェックを実施した場合にのみ表示されます。
説明	開始信号の表示チェックの結果を表示します。
ユーザーインターフェイス	<ul style="list-style-type: none">■ チェック未完了■ チェック NG■ チェック OK
追加情報	開始信号 = チェック NG : 機器の取付位置を確認してください。非金属タンクの場合は、金属板または金属フランジを使用します。

17.5.8 「Heartbeat」サブメニュー

 **Heartbeat** サブメニューは **FieldCare** または **DeviceCare** を介してのみ使用可能です。**Heartbeat 検証** および **Heartbeat モニタリング** アプリケーションパッケージの一部のウィザードが含まれます。

詳細な説明
SD01872F

ナビゲーション  診断 → Heartbeat

索引

記号

安全設定 (サブメニュー)	130
稼働時間 (パラメータ)	155, 162
開始信号 (パラメータ)	179
拡張オーダーコード 1 (パラメータ)	166
管理 (サブメニュー)	158
機器 ID (パラメータ)	166
機器アラームのシミュレーション (パラメータ)	177
機器タイプ (パラメータ)	167
機器チェック (サブメニュー)	178
機器チェックの結果 (パラメータ)	178
機器チェック開始 (パラメータ)	178
機器リセット (パラメータ)	158
機器リビジョン (パラメータ)	166
機器情報 (サブメニュー)	165
機器名 (パラメータ)	165
距離 (パラメータ)	108, 112, 168
距離の確定 (パラメータ)	110, 112
距離の単位 (パラメータ)	105
区切り記号 (パラメータ)	153
空校正 (パラメータ)	107
現在のマッピング (パラメータ)	111
現在の診断結果 (パラメータ)	161
固定電流値 (パラメータ)	140
故障時の電流値 (パラメータ)	142
高度なプロセス条件 (パラメータ)	117
高度な設定 (サブメニュー)	113
再起動からの稼働時間 (パラメータ)	162
最後のバックアップ (パラメータ)	155
最大値 (パラメータ)	126
実際のプローブ長 (パラメータ)	135, 138
出力のダンピング (パラメータ)	141
出力エコー信号消失 (パラメータ)	130
出力信号の反転 (パラメータ)	147
出力電流 1~2 (パラメータ)	142, 168
書き込み保護のリセット (パラメータ)	134
小数点桁数 1 (パラメータ)	151
小数点桁数メニュー (パラメータ)	153
信号品質 (パラメータ)	109
診断 (メニュー)	161
診断 1 (パラメータ)	163
診断イベントのシミュレーション (パラメータ)	177
診断リスト (サブメニュー)	163
診断動作の割り当て (パラメータ)	144
数値形式 (パラメータ)	153
製造者 ID (パラメータ)	167
設定 (メニュー)	105
設定バックアップの表示 (サブメニュー)	155
設定管理 (パラメータ)	155
前回のチェック時刻 (パラメータ)	178
前回の診断結果 (パラメータ)	161
測定した電流 1 (パラメータ)	169
測定値 (サブメニュー)	168
測定値 (パラメータ)	175
測定値の割り当て (パラメータ)	175
測定物グループ (パラメータ)	106
測定物タイプ (パラメータ)	115
測定物特性 (パラメータ)	115
端子電圧 1 (パラメータ)	169
中間高さ (パラメータ)	127
直径 (パラメータ)	126
電流スパン (パラメータ)	140
電流出力 1~2 (サブメニュー)	139
電流出力 1~2 のシミュレーション (パラメータ)	175
電流出力 1~2 の値 (パラメータ)	176
電流出力の割り当て (パラメータ)	139
比較の結果 (パラメータ)	156
表示 (サブメニュー)	149
表示のコントラスト (パラメータ)	154
表示のダンピング (パラメータ)	152
表示間隔 (パラメータ)	151
表示形式 (パラメータ)	149
不感知距離 (パラメータ)	118, 131
不適切なコード (パラメータ)	134
返却	77
満量校正 (パラメータ)	107
0~9	
1 の値表示 (パラメータ)	151
B	
Bluetooth® ワイヤレス技術	53
Bluetooth® ワイヤレス技術	39
D	
DD ファイル	52
DIP スイッチ	
書き込み保護スイッチを参照	
F	
FHX50	38
FV (HART 変数)	52
H	
HART プロトコル	38
HART 変数	52
Heartbeat (サブメニュー)	180
L	
Language (パラメータ)	149
P	
PV (HART 変数)	52
S	
SIL/WHG 確認 (ウィザード)	133
SIL/WHG 無効 (ウィザード)	134
SV (HART 変数)	52
T	
TV (HART 変数)	52

ア

アクセサリ	
機器固有の	78
サービス関連	85
システムコンポーネント	85
通信関連	84
アクセスコード	41
不正な入力	41
アクセスコードの設定	41
アクセスコードの確認 (パラメータ)	160
アクセスコード設定 (ウィザード)	160
アクセスコード設定 (パラメータ)	158, 160
アクセスコード入力 (パラメータ)	114
アクセスステータス ツール (パラメータ)	113
アクセスステータス表示 (パラメータ)	114
アプリケーション	9
安全上の注意事項	
基本	9

イ

イベントテキスト	65
イベントリスト	71
イベントリスト (サブメニュー)	164
イベント履歴	71
イベントレベル	
シンボル	65
説明	65
イベントログブック (サブメニュー)	164
イベントログブックのフィルタ処理	71

ウ

ウィザード	
SIL/WHG 確認	133
SIL/WHG 無効	134
アクセスコード設定	160
プローブ長の補正	137
マッピング	112

エ

エコー信号消失時の値 (パラメータ)	130
エコー信号消失時急上昇 (パラメータ)	131

オ

オーダーコード (パラメータ)	166
-----------------	-----

カ

外部洗浄	74
書き込みアクセス	41
書き込み保護	
アクセスコードによる	41
書き込み保護スイッチを使用	42
書き込み保護スイッチ	42
過電圧保護	
一般情報	33

キ

キーパッドロック	
無効化	44
有効化	44
機器設定の管理	60

機器の交換	76
-------	----

ケ

計測機器の用途	
指定用途を参照	
不適切な用途	9
不明な場合	9
現場操作	37
現場表示器	
アラーム状態時を参照	
診断メッセージを参照	

コ

工具	22
コンテキストメニュー	50

サ

サービスインタフェース (CDI)	39
サブメニュー	
Heartbeat	180
イベントリスト	71, 164
イベントログブック	164
シミュレーション	174, 175
スイッチ出力	143
チャンネル 1~4 表示	172
データのログ	170
プローブ設定	135
リニアライゼーション	121, 122, 123
レベル	115
安全設定	130
管理	158
機器チェック	178
機器情報	165
高度な設定	113
診断リスト	163
設定バックアップの表示	155
測定値	168
電流出力 1~2	139
表示	149

シ

システムコンポーネント	85
システム統合	52
指定用途	9
シミュレーション (サブメニュー)	174, 175
シミュレーションスイッチ出力 (パラメータ)	176
修理コンセプト	76
シリアル番号 (パラメータ)	165
診断	
シンボル	64
診断イベント	64, 65
操作ツール上	66
診断メッセージ	64
診断リスト	68
シンボル	
修正用	48
テキストおよび数値エディタにおいて	48

ス

スイッチオフの値 (パラメータ)	146
------------------	-----

スイッチオフの遅延 (パラメータ)	147
スイッチオンの値 (パラメータ)	145
スイッチオンの遅延 (パラメータ)	146
スイッチの状態 (パラメータ)	147, 176
スイッチ出力 (サブメニュー)	143
スイッチ出力機能 (パラメータ)	143
ステータス信号	46, 64
ステータスの割り当て (パラメータ)	144
スペアパーツ	77
銘板	77
すべてのログをリセット (パラメータ)	171
セ	
製品の安全性	10
設定	
機器設定の管理	60
操作言語	57
洗浄	74
ソ	
操作言語の設定	57
操作上の安全性	10
操作部	
診断メッセージ	65
操作モジュール	45
測定値シンボル	47
測定物	9
タ	
対処法	
終了	66
呼び出し	66
タイムスタンプ (パラメータ)	161, 162
タイムスタンプ 1~5 (パラメータ)	163
タンクタイプ (パラメータ)	105
タンクの外側への取付け	19
断熱	21
チ	
チャンネル 1~4 表示 (サブメニュー)	172
チャンネル 1~4 の割り当て (パラメータ)	170
テ	
データのログ (サブメニュー)	170
テーブルモード (パラメータ)	127
テーブルを有効にする (パラメータ)	129
テーブル番号 (パラメータ)	128
適用分野	
残存リスク	9
デバイスのタグ (パラメータ)	105, 165
電子部ハウジング	
構成	12
ト	
登録商標	8
トラブルシューティング	62
ニ	
入力画面	48

ハ	
ハードウェア書き込み保護	42
廃棄	77
パイプ直径 (パラメータ)	106
ハウジング	
回転	23
構成	12
バックアップのステータス (パラメータ)	156
バックライト (パラメータ)	153
パラメータのアクセス権	
書き込みアクセス	41
読み取りアクセス	41
反射波形表示	51
ヒ	
非金属タンク	19
表示シンボル	46
表示部および操作モジュール FHX50	38
表示部の回転	24
表示モジュール	45
表示モジュールの回転	24
フ	
ファームウェアのバージョン (パラメータ)	165
フィルタオプション (パラメータ)	164
フェールセーフモード (パラメータ)	141, 147
フリーテキスト (パラメータ)	125
プローブ接地 (パラメータ)	135
プローブ設定 (サブメニュー)	135
プローブ長の確認 (パラメータ)	136, 137
プローブ長の補正 (ウィザード)	137
プロセス特性 (パラメータ)	116
ヘ	
ヘッダー (パラメータ)	152
ヘッダーテキスト (パラメータ)	152
変換器	
表示部の回転	24
表示モジュールの回転	24
変換器ハウジング	
回転	23
ホ	
本文	
目的	5
本文の目的	5
マ	
マッピング (ウィザード)	112
マッピングの最終点 (パラメータ)	111, 112
マップ記録 (パラメータ)	111, 112
メ	
メニュー	
診断	161
設定	105
メンテナンス	74
ユ	
ユーザー様の値 (パラメータ)	129

ヨ

要員の要件	9
読み取りアクセス	41

リ

リニアライゼーション (サブメニュー)	121, 122, 123
リニアライゼーションされたレベル (パラメータ)	126, 168
リニアライゼーションの方式 (パラメータ)	123
リニアライゼーション後の単位 (パラメータ) ..	124
リミットの割り当て (パラメータ)	144

レ

レベル (サブメニュー)	115
レベル (パラメータ)	108, 128, 129
レベル測定の設定	58
レベル測定用の取付位置	15
レベル信号 (パラメータ)	179
レベル単位 (パラメータ)	118
レベル補正 (パラメータ)	119

ロ

労働安全	9
ロギングの時間間隔 (パラメータ)	171
ロック状態	46
ロック状態 (パラメータ)	113
ロッドプローブ	
構造	11
横方向からの許容応力	17



www.addresses.endress.com
